

授業科目名	Active English I				
担当教員名	櫻本英之・麻島徳子・工藤律子・J・ガーヴィー・岡部ゆかり・川嶋裕子・西紋茂樹・佐久間涼子・薮井恵美子・寺島 恵・野元 昌・山口和夫				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目では、基礎レベルの英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）に関する総合的な能力を身につけることを目的とします。基礎レベルとは、限られた語彙を用いて自分の身近な話題についてコミュニケーションをとることができるレベルを指します。各授業では、Reallyenglishというオンライン学習用教材を用いて、タブレットによるe-Learningを実施します。また、学習内容についての理解度を測るため、授業内では英会話練習や英文聴解・読解も行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

英会話能力、英語読解・聴解能力、英作文能力

目標：

自信を持って英語でコミュニケーションをとることができる。足りない語彙力は、言い方を変えることによって補うことができる。英語で与えられた情報について、おおむね大意を理解することが出来る。

汎用的な力

- 1 . DP8. 意思疎通

各授業内でのペアワーク、グループワークを通じて、英語で自分のことを説明し理解してもらうことができる。同様に、相手の説明も理解できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・ eラーニング、反転授業
- ・ 協同学習（ペアワーク、グループワークなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業貢献度	20%	: 授業内でのペアワーク、グループワークや、与えられた授業内課題に取り組む姿勢について、熱意、協調性、独創性を基準に判断し、評価の20%とします。
課題達成度	30%	: Reallyenglishのオンライン学習課題について、その取り組みの進捗と提出内容から課題達成度を測り、評価の30%とします。
毎回の小テスト	20%	: 毎回、授業の冒頭実施する既習範囲に基づいた小テストについて、その結果の平均点を換算して評価の20%とします。
定期試験	30%	: 試験期間中に既習単元に基づいた実力テストを実施し、その結果を換算して評価の30%とします。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

Reallyenglish, 「Practical English Starter」コース

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかるとの目安の時間
第1回	ガイダンス、Lesson 1. How many emails do yo write? (Listeningレッスン) ・授業の進め方や評価方法について確認します。 ・タブレットの操作方法、オンライン学習の進め方を学びます。 ・日常生活についての聴解問題に取り組みます。	2時間
第2回	Lesson 2. At the mall (Readingレッスン) ・日常生活に関する語彙を拡充します。 ・Lesson 2のコンテンツに基づいて読解練習をします。 ・英語能力レベルチェックテストを実施します。	2時間
第3回	Lesson 3. I like shopping (Listeningレッスン) ・ショッピングに関する語彙を拡充します。 ・Lesson 3のコンテンツに基づいて聴解練習をします。	2時間
第4回	Lesson 4. Can I help you? (Speakingレッスン) ・ショッピングに関する語彙を更に拡充します。 ・Lesson 4のコンテンツに基づいて会話練習をします。	2時間
第5回	Lesson 5. What do you usually eat? (Listeningレッスン) ・食生活に関する語彙を拡充します。 ・Lesson 5のコンテンツに基づいて聴解練習をします。	2時間
第6回	Lesson 6. What do you have for breakfast? (Readingレッスン) ・日常生活に関する語彙を更に拡充します。 ・Lesson 6のコンテンツに基づいて読解練習をします。	2時間
第7回	【小括】Lesson 1~6 振り返り、Can-doチェック ・Lesson1~6の学習範囲を振り返ります。 ・学習の理解度を測るReview Quizを実施します。 ・これまでの学習成果を自己評価するCan-doチェックをします。	2時間
第8回	Lesson 7. How do you get to work? (Listeningレッスン) ・移動手段に関する語彙を拡充します。 ・Lesson 7のコンテンツに基づいて聴解練習をします。	2時間
第9回	Lesson 8. Where's the station, please? (Speakingレッスン) ・移動手段に関する語彙を更に拡充します。 ・Lesson 8のコンテンツに基づいて会話練習をします。	2時間
第10回	Lesson 9. This is the office (Listeningレッスン) ・職場に関する語彙を拡充します。 ・Lesson 9のコンテンツに基づいて聴解練習をします。	2時間
第11回	Lesson 10. This is my phone (Readingレッスン) ・社会生活に関する語彙を拡充します。 ・Lesson 10のコンテンツに基づいて読解練習をします。	2時間
第12回	Lesson 11. My husband plays golf (Listeningレッスン) ・趣味やスポーツに関する語彙を拡充します。 ・Lesson 11のコンテンツに基づいて聴解練習をします。	2時間
第13回	Lesson 12. I really need to keep fit (Speakingレッスン) ・趣味やスポーツに関する語彙を更に拡充します。 ・Lesson 12のコンテンツに基づいて会話練習をします。	2時間

第14回	Lesson 13. We went to camping last year (Listeningレッスン) <ul style="list-style-type: none"> ・ 休暇に関する語彙を拡充します。 ・ Lesson 13のコンテンツに基づいて聴解練習をします。 	第14回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第15回	Lesson 14. I go sightseeing in the city (Readingレッスン)、Self-evaluation <ul style="list-style-type: none"> ・ 休暇に関する語彙を更に拡充します。 ・ Lesson 14 のコンテンツに基づいて読解練習をします ・ 学習内容を振り返り、自分が伸ばせた能力について自己採点します。 	既習範囲を振り返り、小テストの間違いや提出課題の内容を添削して、知識の定着を図ります。	2時間

授業科目名	Active English II				
担当教員名	樅本英之・麻島徳子・工藤律子・J・ガーヴィー・岡部ゆかり・川嶋裕子・西紋茂樹・佐久間涼子・薮井恵美子・寺島 恵・野元 昌・山口和夫				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目では標準レベルの英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）に関する総合的な能力を身につけることを目的とします。標準レベルとは、英文法の知識に基づいて自分の身近な話題について正確に表現できるレベルを指します。各授業では、Reallyenglishというオンライン学習用教材を用いて、タブレットによるe-Learningを実施します。また、学習内容についての理解度を測るため、授業内では英文法の確認や英文聴解・読解も行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

英文法力、英語読解・聴解能力、英作文能力

目標：

英文法を正しく運用し、正確に自己表現することが出来る。英語で与えられた情報について、細部の情報を理解することが出来る。

汎用的な力

- 1 . DP8. 意思疎通

各授業内でのペアワーク、グループワークを通じて、英語で自分のことを説明し理解してもらうことができる。同様に、相手の説明も理解できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業貢献度

20%

評価の基準

： 授業内でのペアワーク、グループワークや、与えられた授業内課題に取り組む姿勢について、熱意、協調性、独創性を基準に判断し、評価の20%とします。

課題達成度

30%

： Reallyenglishのオンライン学習課題について、その取り組みの進捗と提出内容から課題達成度を測り、評価の30%とします。

毎回の小テスト

20%

： 毎回、授業の冒頭実施する既習範囲に基づいた小テストについて、その結果の平均点を換算して評価の20%とします。

定期試験

30%

： 試験期間中に既習単元に基づいた実力テストを実施し、その結果を換算して評価の30%とします。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

Reallyenglish, 「Practical English 7」 コース

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
場所： 授業の教室

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	ガイダンス、Lesson 1. A typical day (Listeningレッスン) ・授業の進め方や評価方法について確認します。 ・英語能力レベルチェックテストを実施します。 ・日常生活についての聴解問題に取り組みます。	第1回で学習した単語・表現を復習し、第2回から始まる小テストに備えます。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。 2時間
第2回	Lesson 2. Everyday activities (Grammarレッスン) ・日常生活に関する語彙を拡充します。 ・Lesson 2のコンテンツに基づいて動詞と時制について文法知識を整理します。	第2回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。 2時間
第3回	Lesson 3. A Bad Day (Readingレッスン) ・社交生活に関する語彙を拡充します。 ・Lesson 3のコンテンツに基づいて読解練習をします。	第3回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。 2時間
第4回	Lesson 4. At the supermarket (Listeningレッスン) ・ショッピングに関する語彙を拡充します。 ・Lesson 4のコンテンツに基づいて聴解練習をします。	第4回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。 2時間
第5回	Lesson 5. Everyday questions (Grammarレッスン) ・問いかけ文に関する語彙を拡充します。 ・Lesson 5のコンテンツに基づいて5W2Hの疑問文について文法知識を整理します。	第5回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。 2時間
第6回	Lesson 6. Good Food (Readingレッスン) ・日常生活に関する語彙を更に拡充します。 ・Lesson 6のコンテンツに基づいて読解練習をします。	第1～6回で学習した単語・表現を復習し、Review Quizに備えます。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。 2時間
第7回	【小括】Lesson 1～6 振り返り、Can-doチェック ・Lesson1～6の学習範囲を振り返ります。 ・学習の理解度を測るReview Quizを実施します。 ・これまでの学習成果を自己評価するCan-doチェックをします。	自分の学習成果を振り返り、今後の学習目標を定めます。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。 2時間
第8回	Lesson 7. Where things are (Grammarレッスン) ・日常生活に関する語彙を更に拡充します。 ・Lesson 7のコンテンツに基づいて前置詞について文法知識を整理します。	第8回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。 2時間
第9回	Lesson 8. The weekly shopping trip (Listeningレッスン) ・ショッピングに関する語彙を更に拡充します。 ・Lesson 8のコンテンツに基づいて聴解練習をします。	第9回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。 2時間
第10回	Lesson 9. Getting around (Readingレッスン) ・移動手段に関する語彙を拡充します。 ・Lesson 9のコンテンツに基づいて読解練習をします。	第10回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。 2時間
第11回	Lesson 10. Making excuses (Grammarレッスン) ・謝罪に関する語彙を拡充します。 ・Lesson 10のコンテンツに基づいて接続詞について文法知識を整理します。	第11回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。 2時間
第12回	Lesson 11. Using transportation (Listeningレッスン) ・交通手段に関する語彙を更に拡充します。 ・Lesson 11のコンテンツに基づいて聴解練習をします。	第12回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。 2時間
第13回	Lesson 12. Enjoy yourself (Readingレッスン) ・余暇や娯楽に関する語彙を拡充します。 ・Lesson 12のコンテンツに基づいて読解練習をします。	第13回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。 2時間

第14回	Lesson 13. Yoko Ono's life (Grammarレッスン)	第14回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に関する語彙を更に拡充します。 ・Lesson 13のコンテンツに基づいて動詞と時制について更に文法知識を整理します。 		
第15回	Lesson14. Hotel Reservation (Listeningレッスン)、Self-evaluation	既習範囲を振り返り、小テストの間違いや提出課題の内容を添削して、知識の定着を図ります。	2時間
	<ul style="list-style-type: none"> ・旅行に関する語彙を拡充します。 ・Lesson 14 のコンテンツに基づいて聴解練習をします ・学習内容を振り返り、自分が伸ばせた能力について自己採点します。 		

授業科目名	Active English III				
担当教員名	工藤 律子				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	幼・小・中・高において、文法指導やコミュニケーションに必要な英語の指導を20年行ってきた。また、カリキュラムの作成も担当し、12年間一貫の教育にも携わった。(全15回)				

開放科目の指示：「可・不可」

授業概要

本科目では、応用レベルの英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）に関する総合的な能力を身につけることを目的とします。応用レベルとは、アクティブのIやIIで学んだ基本的なことを活かして、積極的な英語話者を養成します。各授業では、Reallyenglishというオンライン学習教材を用いて、タブレットによるe-Learningを実施します。また、学習内容についての理解度を測るため、授業内では英会話練習や英文聴解・読解も行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

英会話能力、英語読解・聴解能力、英作文能力

目標：

自分の考えを伝えるだけでなく、その意見に対して理由を添えることができる。英語で与えられた情報に対し、簡単な英語で要約することができる。

汎用的な力

- 1 . DP8. 意思疎通

各授業内でのペアワーク、グループワークを通じて、ジェスチャーなどの非言語を用いながら、英語でのやりとりができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業貢献度	20%	: 授業内でのペアワーク、グループワークや、与えられた授業内課題に取り組む姿勢について、熱意、協調性、独創性を基準に判断し、評価の20%とします。
課題達成度	30%	: Reallyenglishのオンライン学習課題について、その取り組みの進捗と提出内容から課題達成度を測り、評価の30%とします。
毎回の小テスト	20%	: 毎回、授業の冒頭に実施する既習範囲に基づいた小テストについて、その結果の平均点を換算して評価の20%とします。
定期試験	30%	: 試験期間中に既習単元に基づいた実力テストを実施し、その結果を換算して評価の30%とします。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

Reallyenglish, 「Practical English 7」コース

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業後・授業前

場所： 授業の場所

授業計画

授業計画			授業外学修課題にかかると目安の時間
第1回	目標を設定しよう・Tell me about you 現在の英語力を認識し、到達したいレベルを設定し、しっかりと計画を立てよう。初対面の人に対する質問をしよう。扱う文法事項（以下Gと表記）：時制	L1オンライン教材・語彙・表現・グラマーの復習	2時間
第2回	A bad day・TOEIC テストにチャレンジしよう 社交と対人関係のテーマを通して、良い関係を構築するための会話を学ぶ。リーディングを通して情報を読み取る。英語能力レベルチェックテストを実施する。TOEICテストの結果を見て、振り返りを行う。	L2オンライン教材・語彙・表現の復習	2時間
第3回	Enjoying yourself 余暇と娯楽・心から楽しめるものを英語で表現し、ペアで質疑応答を行う。リーディングを通して情報を読み取る。	L3オンライン教材・語彙・表現の復習	2時間
第4回	Expressions about personal possessions 誰のものかを表す表現を学び、クイズをペアで考え出し合う。G:所有格。	L4オンライン教材・語彙・表現・グラマーの復習	2時間
第5回	Cooking and food 料理の素材を学び、レシピを英語で発表する。G:不定冠詞・There を用いた表現	L5オンライン教材・語彙・表現・グラマーの復習	2時間
第6回	Good food おいしい(栄養ある)食事について考える。・リーディングを通して情報を読み取る。	L6オンライン教材・語彙表現の復習	2時間
第7回	TOEIC Test にチャレンジしよう・1～6のグラマー総復習 1～6の内容を復習し、正確な英文で質疑応答を行う。TOEICテストの結果を見て、振り返りを行う。	1～6回までの復習	2時間
第8回	Where I work 自分の職場(就職したい会社を想定)についてペアでやり取りを行う。G:不定冠詞・名詞句	L7オンライン教材・語彙・表現・グラマーの復習	2時間
第9回	Twins 2つのものを比べる表現を学び、違いについて表現する。G:比較・形容詞・副詞	L8オンライン教材・語彙・表現・グラマーの復習	2時間
第10回	A good place to live 自分にとって住み心地の良い町についてスピーチする。住み心地の良い町の条件に付いて議論する。G:最上級・形容詞・副詞	L9オンライン教材・語彙・表現・グラマーの復習	2時間
第11回	Where is it? 道案内の表現を学び、ペアワークでショートスキットを行う。G:場所・位置にまつわる前置詞	L10オンライン教材・語彙・表現・グラマーの復習	2時間
第12回	Good feelings ビジネスにおける成功をテーマに、好ましい感情の伝え方を学ぶ。・リーディングを通して情報を読み取る。	L11オンライン教材・語彙・表現・グラマーの復習	2時間
第13回	Good friends 社交と対人関係をテーマに、家族と友人との関係について考える。・リーディングを通して情報を読み取る。	L12オンライン教材・語彙・表現の復習	2時間
第14回	A smart criminal 社会と政治をテーマに、ルール(学校・身の回り・家庭・社会)について考える。・リーディングを通して情報を読み取る。	L13オンライン教材・語彙・表現の復習	2時間
第15回	Arranging meetings 会議(クラブ等のミーティングを含む)の日程調整について考え、実際にクラスでの仮想会議の日程調整を行う。・リーディングを通して情報を読み取る。	L14のオンライン教材・語彙・表現の復習	2時間

授業科目名	Active English IV				
担当教員名	工藤 律子				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	幼・小・中・高において、グラマー指導やコミュニケーションに必要な英語の指導を20年行ってきました。また、カリキュラムの作成や12年間一貫教育の内容にも携わってきました。(全15回)				

開放科目の指示：「可・不可」

授業概要

本科目では、発展レベルの英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）に関する総合的な能力を身につけることを目的とします。発展レベルとは、英語でのやりとりを行うだけでなく、英語でのスピーチやプレゼンテーションができるレベルを指します。各授業では、Reallyenglishというオンライン学習用教材を用いて、タブレットによるe-Learningを実施します。また、学習内容についての理解度を測るため、授業内では英会話練習や英文聴解・読解も行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

英会話力、英語読解・聴解能力、英作文能力

目標：

様々な媒体の英語の情報を理解し、理解したことを相手に伝える（話す・書く）ことができる。

汎用的な力

- 1 . DP8. 意思疎通

教員と学生相互にインターネットを介してコミュニケーションとオーラルコミュニケーションの両方により主体的に英語を使用する意思疎通の活動を行う。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ eラーニング、反転授業
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業貢献度	20%	: 授業内でのペアワーク、グループワークや、与えられた授業内課題に取り組む姿勢について、熱意、協調性、独創性を基準に判断し、評価の20%とします。
課題達成度	30%	: Reallyenglishのオンライン学習課題について、その取り組みの進捗と提出内容から課題達成度を測り、評価の30%とします。
毎回の小テスト	20%	: 毎回、授業の冒頭に実施する既習範囲に基づいた小テストについて、その結果の平均点を換算して評価の20%とします。
定期試験	30%	: 試験期間中に既習単元に基づいた実力テストを実施し、その結果を換算して評価の30%とします。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

Reallyenglish, 「Practical English 7」 コース

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前・授業後

場所： 授業の教室

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかると見られる目安の時間
第1回	目標を設定しよう/ Ways to spend your free time・TOEICテストにチャレンジしよう 現在の英語力を認識し、到達したいレベルを設定し、しっかりと計画を立てよう。 自由時間をどのように過ごしているかをペアワークで行う。TOEICテストの結果を見て、振り返りを行う。扱う文法事項（以下Gと表記）：動詞・動名詞	L1のオンライン教材・語彙・表現・文法の復習 2時間
第2回	Directing someone around town 道案内の表現を学び、ショートスキットを行う。	L2のオンライン教材・語彙・表現の復習 2時間
第3回	Healthy habits 日常生活を振り返り、健康的な日常をするには何をすればよいかを考え、ペアでアドバイスをを行う。G:単純現在・頻度を表す副詞	L3のオンライン教材・語彙・表現・文法の復習 2時間
第4回	Eating at a restaurant レストランを予約し、注文するまでの一連の流れをペアワークで行い発表する。	L4のオンライン教材・語彙・表現の復習 2時間
第5回	At the airport 空港で見かけるサインが表すことを理解し、出国手続きや入国手続きのやりとりをペアで行う。・リーディングを通して情報を読み取る。	L5のオンライン教材・語彙・表現の復習 2時間
第6回	Enjoying the weekend 週末の予定を発表し、疑問詞を用いて質疑応答を行う。	L6のオンライン教材・語彙・表現の復習 2時間
第7回	TOEIC Test にチャレンジしよう・L1～6の文法総復習 L1～6の内容を復習し、正確な英文で質疑応答を行う。 TOEICテストの結果を見て、振り返りを行う。	L1～6の語彙・表現・文法の総復習 2時間
第8回	A disastrous holiday 過去の休日を振り返り、一番印象深い出来事について発表する。G:過去時制	L7のオンライン教材・語彙・表現・文法の復習 2時間
第9回	Directing someone around the office 建物（会社・ショッピングセンターなど）の中の道案内を学び、ペアでショートスキットを行う。	L8のオンライン教材・語彙・表現の復習 2時間
第10回	Getting to your hotel ホテルまでの行き方についてペアでショートスキットを行う。	L9のオンライン教材・語彙・表現の復習 2時間
第11回	Layout an office オフィスのレイアウトを学び、最適な自分の部屋のレイアウトを考え発表する。G:場所・位置を表す前置詞	L10のオンライン教材・語彙・表現・文法の復習 2時間
第12回	Ordering a meal in a restaurant レストランでの注文の仕方を学び、実際にある店を基にペアでショートスキットを行う。	L11オンライン教材・語彙・表現の復習 2時間
第13回	Looks and appearance 人の描写の表現を学び、互いにクイズを出し合う。・リーディングを通して情報を読み取る。	L12オンライン教材・語彙・表現の復習 2時間
第14回	Parts of the body 身体の部位を学び、医療現場や学校で自分の健康状態を伝える。	L13オンライン教材・語彙・表現の復習 2時間
第15回	Planning to go out 週末や長期休暇や放課後などの予定を書きだし、発表を行う。発表に対し、質疑応答を行う。	L14のオンライン教材・語彙・表現の復習 2時間

授業科目名	海外語学演習（韓国語）				
担当教員名	金 志善				
学年・コース等	1	開講時期	前期・後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「可」

授業概要

この授業は、海外語学留学、短期交換留学のため韓国の大学に向かう学生のための授業です。留学生生活をスムーズに開始し、現地に適応して有意義な留学生生活を過ごすことができるように、事前に学んでもらう授業です。留学生活での不安がなくなるように、受講生個々の意見を聞きながら積極的にサポートしていきます。本科目は語学留学（研修）を含めて2単位が認定されるもので、事前に7回、現地での語学留学（7回分・21日間）、事後に1回の、合計15回の授業からなります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

異文化理解の知識を養い、判断力・思考力を高めることができる。

目標：

海外語学研修を完遂すること。

汎用的な力

- 1 . DP7. 完遂

自身の目標を立て、現地の文化体験、韓国語の学習体験等を実行し、海外語学研修を完遂すること。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

2回の小テスト	20%	： 「読み・書き・聞きとり・会話」の4レベルをはかる。 (10点×2回：20点)
授業内の課題提出	20%	： 韓国語で自己紹介課題を完成し、提出する。文書表現の正確さにより評価する。
プレゼンテーション	30%	： 留学生活で学んだこと、得たこと、体験したことなどを異文化コミュニケーションの観点から評価する。
期末レポート	30%	： 15回の発表内容をまとめてレポートを作成し、提出します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『できる韓国語 初級』（DEKIRU出版、2010）。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、全体で90時間の学修時間が必要となる（事前授業・事後授業・語学研修・授業外学修の合計時間）。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜4限
 場所： 西館5階 金研究室
 備考・注意事項： Eメール：kim-j@osaka-seikei.ac.jp
 学籍番号と氏名は必ず入れること。

授業計画			授業外学修課題にかかるとの目安の時間
第1回	海外留学について学ぶ プリントに沿って会話文例などを学び、暗誦できるよう練習します。	学んだことの復習と不明なところをチェックする。	4時間
第2回	韓国語の基礎的な語学力の確認・会話文例を学ぶ（1） プリントに沿って、単語を暗誦できるよう練習します。	学んだことの復習と不明なところをチェックする。	4時間
第3回	韓国語の会話文例を学ぶ（2） プリントに沿って会話文例などを学び、単語を中心に暗誦できるよう練習します。小テストを実施します。	学んだことの復習と不明なところをチェックする。	4時間
第4回	韓国語の会話文例を学ぶ（3） プリントに沿って、会話文例などを学び、文章を中心に暗誦できるよう練習します。	自己紹介を暗記する。	4時間
第5回	韓国語で自己紹介練習 自己紹介を作成し、暗記します。	学んだことの復習をする。	4時間
第6回	韓国の生活習慣・文化について学ぶ 韓国の生活習慣と文化の特徴について学び理解します。日本とどのように違うのか、異なるのかを考えながら、異文化理解を図ります。小テストを実施します。	学んだことの復習をする。	4時間
第7回	済州道の歴史・観光地について学ぶ 質問、疑問点を積極的に出し、異文化理解を図ります。課題レポート発表します。	学んだことの復習をする。	4時間
第8回	海外語学留学実施（21日間） 韓国済州観光大学にて韓国語を学びます。	学んだことの復習をする。	4時間
第9回	海外語学留学実施（21日間） 韓国済州観光大学にて韓国語を学びます。	学んだことの復習をする。	4時間
第10回	海外語学留学実施（21日間） 韓国済州観光大学にて韓国語を学びます。	学んだことの復習をする。	4時間
第11回	海外語学留学実施（21日間） 韓国済州観光大学にて韓国語を学びます。	学んだことの復習をする。	4時間
第12回	海外語学留学実施（21日間） 韓国済州観光大学にて韓国語を学びます。	学んだことの復習をする。	4時間
第13回	海外語学留学実施（21日間） 韓国済州観光大学にて韓国語を学びます。	学んだことの復習をする。	4時間
第14回	海外語学留学実施（21日間） 韓国済州観光大学にて韓国語を学びます。	学んだことの復習をする。	4時間
第15回	語学留学で習得した成果をまとめる。 語学留学を終えたあと、留学生活で学んだこと、得たことを、口頭で報告発表してもらいます。さまざまな体験のなかから、まず語学面において習得した成果について、また実生活を通して感じたこと、体験したこと、学んだことについて、異文化理解の観点からまとめてもらいます。	作成した発表内容をまとめる。	4時間
第16回	期末レポート 15回の発表内容をまとめてレポートを作成し、提出します。		4時間

授業科目名	韓国語 I				
担当教員名	金 素辰				
学年・コース等	1・2	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	講義科目：教科書の順番に沿って、正確に理解し身につけるよう反復しながら進めていきます。最初は韓国語の文字である「ハングル」の修得に重点をおき、次第にテキストに沿って発音の練習、単語、文型、本				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「可」

授業概要

本授業は韓国語を全く知らない学習者が基礎からしっかり学び、韓国の生活や文化を理解しながら基本的な日常会話ができることを目標としています。文字である「ハングル」や発音の修得からはじめ、基本文型や文法を学びながら「スピーキング、リスニング、リーディング、ライティング」の領域をバランスよく学習していきます。特に映像など様々な資料を用いて、初心者が韓国語を身近に感じ、より楽しく身につけることを目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

- 韓国語に関する知識(文字・語彙・文法・文型)
- 韓国語の表現技能(話す・聞く・読む・書く)

目標：

- 韓国語の文字・語彙・文法・文型などの知識を修得すると同時に、言語と文化的背景への理解ができる。
- 韓国語の表現技能(話す・聞く・読む・書く)を学び、実践的な場で適切なコミュニケーションができる。

汎用的な力

1. DP8. 意思疎通

韓国語を通じて異文化を理解し、違いと多様性を認め合い、互いを尊重するコミュニケーション能力が修得できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

- | | | |
|-----------------|-----|--|
| 1. 定期試験 | 50% | : 韓国語に関する知識(文字・語彙・文法・文型など)を正確に理解しているか、身につけているかを基準に評価します。 |
| 2. 授業内の小テスト(筆記) | 20% | : 学習内容の理解度を基準に、確認テストを2回(6・12回目)行います。 |
| 3. 授業内のワーク | 20% | : 授業でアクティブラーニング活動(単元の内容を中心とした書きや問答、発表、ペアワークの会話、ゲーム型学習など)を行います。その結果の理解度・参加度・応用度などを基準に評価します。 |
| 4. 提出物 | 10% | : 学習内容の定着のための宿題を出します。提出の可否と授業内容の理解度を基準に評価します。 |

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
オ・スンウン	・ どんどん身につく韓国語入門	・ コスモビア株式会社	・ 2014年

参考文献等

- ・『標準韓国語文法辞典』韓国国立語院、アルク出版社、2012
- ・『実用韓国語文法初級』安辰明 他、多楽園、2012
- ・『どんどん身につく韓国語 語彙(単語)マスター編(日本語版)』オ・スンウン、多楽院、2014

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は入門の段階であるだけに、文字を丁寧に書くこと、発音を正確にすること、対話練習に積極的に参加することに心掛けてください。又本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： 質問は授業の前後に答えますが、メールでも対応します。
アドレス：haianksj@naver.com

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間	
第1回	ハングルの紹介、ハングル第1課と『挨拶表現』 ①ハングルの紹介—ハングルの起源や構造を理解していく。 ②基本母音6個、基本子音5個を学ぶ。 ③挨拶表現—初めて会った時の挨拶や日常会話の中の基本的な挨拶について学ぶ。	1. 習った基本母音と子音を発音しながら書き、覚える(教科書P16-21) 2. 挨拶表現の復習	1時間
第2回	ハングル第2課と『自己紹介の表現』 ①半母音 [y] と結合した母音4個、基本子音4個、バッチム9個を学ぶ。 ②自己紹介表現—初対面での挨拶や自己紹介でよく使われる文型を学び、実際に使えるように練習していく。	1. 習った基本母音と子音、バッチムを発音しながら書き、覚える(教科書P24-31) 2. 自己紹介表現の復習	1時間
第3回	ハングル第3課と『名前のハングル表記』 ①複合母音4個、激音5個、バッチム5個を学ぶ。 ②名前のハングル表記について学び、自分と友達の名前をハングルで書き、読めるようにする。	1. 習った母音と激音、バッチムを発音しながら書き、覚える(教科書P34-41) 2. 名前のハングル表記復習	1時間
第4回	ハングル第4課と『疑問形の表現』 ①二重母音7個、濃音5個を学ぶ。 ②疑問形の表現—存在の有無を表す表現として「—がいますか・いませんか」「—がありますか・ありませんか」「どこにいますか・ありますか」などの韓国語文型を学び、実際の場面で使えるように練習していく。	1. 習った二重母音と濃音を発音しながら書き、覚える(教科書P44-49) 2. 疑問形の表現の復習	1時間
第5回	ハングル第4課と『数字の修得』 ①バッチム2個、二重バッチム6個を学ぶ。 ②数字の韓国語表記や読みを覚え、韓国語でものが数えるように練習していく。	1. 習ったバッチムを発音しながら書き、覚える(教科書P50-52) 2. 数字の復習	1時間
第6回	ハングルの総復習、韓国語と日本語の比較 ①母音21個、子音19個、総40個で構成されているハングル文字を全体的に復習し、完全に身につけるようにする。 ②韓国語と日本語の共通点や差を比較しながらまとめ、今後文型や文法を学んでいく上でのベースを構築しておく。 ③第1回小テスト	1. 習ったハングルが完全に自分のものになるように繰り返して覚える(配布物) 2. 語彙の復習(配布物)	1時間
第7回	第1章『挨拶』—こんにちは。私はポールです。[自己紹介をする] ①文法：基本語尾「—です」、疑問詞「何、どの」、主題助詞「は」に当る韓国語を学ぶ。 ②対話：[お名前は—ですか][私は—です][どこの国の人ですか][私は一人です]などの文型を用いて、初対面の場で相手の名前と国籍を尋ねたり、自分の名前と国籍を答えたりする場面の対話を練習していく。	1. 本文を書きながら復習(教科書P64-65) 2. 次回の内容を読んでくる(教科書P72-73)	1時間
第8回	第2章『職業』—いいえ、会社員です。[職業を尋ねる] ①文法：「はい/いいえ」に当る韓国語や主語の省略、イントネーションで区別される質問と答えの文型を学ぶ。 ②対話：[—さんは(職業名)ですか][はい、(職業名)です][いいえ、(職業名)ではありません]などの文型を用いて、相手の職業を尋ねたり、自分の職業を答えたりする場面の対話を練習していく。	1. 本文を書きながら復習(教科書P74-75) 2. 次回の内容を読んでくる(教科書P82-83)	1時間
第9回	第3章『もの』—これは何ですか。[ものについて尋ねる] ①文法：指示代名詞「これ/それ/あれ」、疑問詞「どんな、誰」、主格助詞「—が」、所有格助詞「—の」に当る韓国語について学ぶ。 ②対話：[これは—ですか][何の—ですか][誰のですか]などの文型を用いて、もの名前を尋ねたり答えたりする場面やもの所有者について尋ねたり答えたりする場面の対話を練習していく。	1. 本文を書きながら復習(教科書P84-85) 2. 次回の内容を読んでくる(教科書P92-93)	1時間
第10回	第4章『場所』—トイレはどこにありますか。(1)[位置を尋ねる]	1. 本文を書きながら復習(教科書P94) 2. 次回の内容を読んでくる(教科書P95-97)	1時間

	<p>①文法：存在を表す「いる・ある」に当る韓国語文型、場所に付く助詞「-に」に当る韓国語について学ぶ。</p> <p>②対話：[-さんが-にいますか] [-が-にありますか]などの文型を用いて、ある場所の位置を尋ねたり、自分が答えたりする場面での対話を練習していく。</p>		
第11回	<p>第4章『場所』—トイレはどこにありますか。(2) [道を尋ねる]</p> <p>①文法：疑問詞「どこ」、位置名詞「前/後・上/下…」に当る韓国語について学ぶ。</p> <p>②対話：[-がどこにありますか] [-の前/後・上/下…にありますか]などの文型を用いて、電話で家に帰る方法について尋ねたり答えたりする場面での対話を練習していく。</p>	<p>1. 本文を書きながら復習(教科書P95) 2. 次回の内容を読んでくる(教科書P102-103)</p>	1時間
第12回	<p>第5章『関係』—韓国の友達がありますか。(1) [友達を紹介する]</p> <p>①文法：所有を表す「いる・いない/ある・ない」に当る韓国語の文型、「ひとつ、ふたつ…」に当る韓国語の固有語数詞について学ぶ。</p> <p>②対話：[-の友達がありますか] [-がありますか]などの文型を用いて、友達を紹介する場面や物の所有について尋ねる場面での対話を練習していく。</p> <p>③第2回小テスト</p>	<p>1. 本文を書きながら復習(教科書P104) 2. 次回の内容を読んでくる(教科書P105-107)</p>	1時間
第13回	<p>第5章『関係』—韓国の友達がありますか。(2) [家族を紹介する]</p> <p>①文法：単位名詞「名、個、杯、枚、匹など」、疑問詞「どれくらい」に当る韓国語、又「何+単位名詞」の文型を学ぶ。</p> <p>②対話：[-がどれくらいありますか] [(家族関係の名詞)が何人いますか]などの文型を用いて、物の数量を話したり家族や友達について話したりする場面での対話を練習していく。</p>	<p>1. 本文を書きながら復習(教科書P105) 2. 次回の内容を読んでくる(教科書P112-113)</p>	1時間
第14回	<p>第6章『電話番号』—電話番号は何番ですか。(1) [電話番号を尋ねる]</p> <p>①文法：漢字語数詞、電話番号の書き方、疑問詞「何番」に当る韓国語について学ぶ。</p> <p>②対話：[-さんの電話番号知ってますか] [電話番号は何番ですか]などの文型を用いて、電話番号を尋ねたり答えたりする場面での対話を練習していく。</p>	<p>1. 本文を書きながら復習(教科書P114) 2. 次回の内容を読んでくる(教科書P115-117)</p>	1時間
第15回	<p>第6章『電話番号』—電話番号は何番ですか。(2) [電話番号を確認する]</p> <p>①文法：「-ではありません」に当る韓国語の否定文、2桁以上の漢字語数詞の韓国語について学ぶ。</p> <p>②対話：[-さんの電話番号が000番で合ってますか] [はい、合ってます] [いいえ、違います]などの文型を用いて、電話番号を尋ねてもう一回確認するという場面での対話を練習していく。</p> <p>③前期の学習内容の整理</p>	<p>1. 本文を書きながら復習(教科書P115) 2. 全体的な学習内容(文字・文型)を再確認</p>	1時間

授業科目名	韓国語Ⅱ				
担当教員名	金 素辰				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	講義科目：基礎的な文法事項・構文・語彙の修得に努めつつ、基本的な言語運用能力の育成のために会話の練習に励んでいきます。教科書の順番に沿って進めながら、個人やペア活動を通じて習った表現をスピーキング				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「可」

授業概要

本授業は「ハングル」や基本文法を学んだ学習者を対象に基本文型や文法をレベルアップし、日常的な韓国語コミュニケーション能力を向上することを目標としています。「スピーキング、リスニング、リーディング、ライティング」をバランスよく学習しつつ、実際に接する場面を重点的に取り上げ、自然で生きた韓国語を楽しく身につけていくことを目指します。又学習者の活動を増やし、知っている言語ではなく実際に使える言語に発展していきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

- 韓国語に関する知識(語彙・文法・文型)
 韓国語の表現技能(話す・聞く・読む・書く)

目標：

韓国語に関する知識である語彙・文法・文型を修得し、基本的な日常会話ができる。
 韓国語の表現技能(話す・聞く・読む・書く)を身につけ、実践的な場で適切なコミュニケーションができる。

汎用的な力

1. DP8. 意思疎通

韓国語を通じて異文化を理解し、違いと多様性を認め合い、互いを尊重するコミュニケーション能力が修得できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

- | | | |
|-----------------|-----|--|
| 1. 定期試験 | 50% | : 語彙や文法、文型など韓国語に関する知識を正確に理解しているか、身につけているかを基準に評価します。 |
| 2. 授業内の小テスト(筆記) | 20% | : 学習内容の理解度を基準に、確認テストを2回(6・12回目)行います。 |
| 3. 授業内のワーク | 20% | : 授業でアクティブラーニング活動(単元の内容を中心とした書きや問答、発表、ペアワークの会話、ゲーム型学習など)を行います。その結果の理解度・参加度・応用度を基準に評価します。 |
| 4. 提出物 | 10% | : 学習内容の定着のための宿題を出します。提出の可否と授業内容の理解度を基準に評価します。 |

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
オ・スンウン	・ どんどん身につく韓国語入門	・ コスモビア株式会社	・ 2014年

参考文献等

- ・『標準韓国語文法辞典』韓国国立語院、アルク出版社、2012
- ・『実用韓国語文法初級』安辰明 他、多楽園、2012
- ・『どんどん身につく韓国語 語彙(単語)マスター編(日本語版)』オ・スンウン、多楽院、2014

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は入門の段階であるだけに、文字を丁寧に書くこと、発音を正確にすること、対話練習に積極的に参加することに心がけてください。又本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

- 時間： 授業の前後
 場所： 授業の教室
 備考・注意事項： 質問は授業の前後に答えますが、メールでも対応します。
 アドレス： haianksj@naver.com

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	第7章『誕生日』一誕生日は何日ですか。[誕生日を尋ねる] ①文法：日付(年月日)、疑問詞「いつ、何日」、曜日と時間を表す助詞「-に」に当る韓国語について学ぶ。 ②対話：[誕生日は何日ですか][いつ時間がありますか]などの文型を用いて、誕生日パーティーに招待したり、誕生日を祝ったりする場面での対話を練習していく。	1. 本文を書きながら復習(教科書P124-125) 2. 次回の内容を読んでくる(教科書P132-133) 1時間
第2回	第8章『日常生活』一普通朝8時30分に会社に行きます。[時間や場所を言う] ①文法：時間を表す名詞、疑問詞「何時」、場所を表す助詞「-に」、「(場所)から、(場所)まで」に当る韓国語について学ぶ。 ②対話：[今何時ですか][何時に学校に行きますか]などの文型を用いて、職場生活や学校生活について尋ねたり答えたりする場面での対話を練習していく。	1. 本文を書きながら復習(教科書P134-135) 2. 次回の内容を読んでくる(教科書P142-143) 3時間
第3回	第9章『交通』一地下鉄で家に行きます。(1)[時間を尋ねる] ①文法：時間の長さを表す表現、疑問詞「どれくらい」、助詞「(時間)から、(時間)まで」に当る韓国語について学ぶ。 ②対話：[-から-まで時間がどれくらいかかりますか][- (時間)位かかります]などの文型を用いて、家までかかる時間を尋ねたり答えたりする場面での対話を練習していく。	1. 本文を書きながら復習(教科書P144) 2. 次回の内容を読んでくる(教科書P145-147) 1時間
第4回	第9章『交通』一地下鉄で家に行きます。(2)[時間と交通手段を尋ねる] ①文法：疑問詞「どうやって」、手段や方法を表す助詞「-で」に当る韓国語について学ぶ。 ②対話：[どうやって行きますか][地下鉄で行きます]などの文型を用いて、家から学校までかかる時間と交通手段について話す場面での対話を練習していく。	1. 本文を書きながら復習(教科書P145) 2. 次回の内容を読んでくる(教科書P152-153) 1時間
第5回	第10章『ショッピング』一全部でいくらですか。[価格を尋ねる] ①文法：価格を表す表現、疑問詞「いくら」、助詞「と」に当る韓国語について学ぶ。 ②対話：[いくらですか][0000ウォンです][-ください]などの文型を用いて、食べ物を注文したり、電車の切符を買ったりする場面での対話を練習していく。	1. 本文を書きながら復習(教科書P154-155) 2. 次回の内容を読んでくる(教科書P162-163) 1時間
第6回	第11章『1日の日課』一どこで夕食を食べますか。 ①文法：動詞の現在形「します」、場所を表す助詞「-で」、頻度副詞に当る韓国語について学ぶ。 ②対話：[どこで働きますか][-で働きます][-一週間に一回します]などの文型を用いて、1日の日課について話したり、あることの頻度について話したりする場面での対話を練習していく。 ③第1回小テスト	1. 本文を書きながら復習(教科書P164-165) 2. 次回の内容を読んでくる(教科書P172-173) 1時間
第7回	第12章『趣味』一毎週日曜日に映画を見ます。(1)[趣味を尋ねる] ①文法：動詞の現在形「-ます」、目的格助詞「-を」に当る韓国語について学ぶ。 ②対話：[-が好きですか][はい、本当に好きです]などの文型を用いて、趣味について尋ねたり答えたりする場面での対話を練習していく。(教科書の例：韓国映画)	1. 本文を書きながら復習(教科書P174) 2. 次回の内容を読んでくる(教科書P175-177) 1時間
第8回	第12章『趣味』一毎週日曜日に映画を見ます。(2)[趣味を勧誘する] ①文法：勧誘形、「(名詞) -はどうですか」に当る韓国語を学ぶ。 ②対話：[-を-します][-はどうですか]などの文型を用いて、趣味について尋ねたり答えたりする場面での対話を練習していく。(教科書の例：韓国料理)	1. 本文を書きながら復習(教科書P175) 2. 次回の内容を読んでくる(教科書P182-183) 1時間
第9回	第13章『健康』一頭が痛いです。(1)[体調を尋ねる] ①文法：形容詞の現在形「-です」、形容詞の否定文「-ではありません」に当る韓国語について学ぶ。 ②対話：[寒いですか][いいえ、寒くありません]などの文型を用いて、友達の様子を尋ねたり答えたりする場面での対話を練習していく。	1. 本文を書きながら復習(教科書P184) 2. 次回の内容を読んでくる(教科書P185-186) 1時間
第10回	第13章『健康』一頭が痛いです。(2)[病気の症状を尋ねる] ①文法：否定語、助詞「-も」に当る韓国語について学ぶ。 ②対話：[どこが痛いですか][-も-です]などの文型を用いて、風邪の症状について話す場面での対話を練習していく。	1. 本文を書きながら復習(教科書P185) 2. 次回の内容を読んでくる(教科書P192-193) 1時間

第11回	<p>第14章『旅行』一先週、済州島に旅行に行きました。(1) [旅行について尋ねる]</p> <p>①文法：韓国語の動詞と形容詞の過去形について学ぶ。 ②対話：[～ました・でした][2年間暮らしました]などの文型を用いて、旅行について尋ねたり答えたりする場面での対話を練習していく。</p>	<p>1. 本文を書きながら復習(教科書P194) 2. 次回の内容を読んでくる(教科書P195-197)</p>	1時間
第12回	<p>第14章『旅行』一先週、済州島に旅行に行きました。(2) [旅行について話す]</p> <p>①文法：「-間」、最上級「一番」・比較級「より」に当る韓国語の表現について学ぶ。 ②対話：[何が一番ですか][～が一番です][より～です]などの文型を用いて、見物したものについて話す場面での対話を練習していく。 ③第2回小テスト</p>	<p>1. 本文を書きながら復習(教科書P195) 2. 次回の内容を読んでくる(教科書P202-203)</p>	1時間
第13回	<p>第15章『計画』一明日、韓国料理を作ります。(1) [計画を説明する]</p> <p>①文法：「-するつもりです」に当る動詞の未来形について学ぶ。 ②対話：[何をするつもりですか][～するつもりです][～でしょう]などの文型を用いて、計画について話す場面での対話を練習していく。</p>	<p>1. 本文を書きながら復習(教科書P204) 2. 次回の内容を読んでくる(教科書P205-207)</p>	1時間
第14回	<p>第15章『計画』一明日、韓国料理を作ります。(2) [出張を説明する]</p> <p>①文法：「できない」の意味を持つ否定語について学ぶ。 ②対話：[すみません][～できません][～しません]などの文型を用いて、出張について話す場面での対話を練習していく。</p>	<p>1. 本文を書きながら復習(教科書P205) 2. 動詞と形容詞の復習(配布物)</p>	1時間
第15回	<p>後期学習のまとめ及び韓国文化との触れ合い</p> <p>①後期に学習した語彙、文法、文型などを確認する。 ②韓国の文化との触れ合いを通じて異文化を理解し、分かち合う楽しさを味わいながら、互いを尊重するグローバル的なマインドの重要性について考えてみる。</p>	<p>後期に学習した語彙、文法、文型などをまとめて整理する(配布物)</p>	1時間

授業科目名	中国語 I				
担当教員名	陳 昭宜				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「可」

授業概要

初めて中国語を学ぶ学生を対象として、基礎的な中国語の運用能力の養成を目的とする。中国語の発音と基礎文法の習得を目的とする。テキストを用いて説明と、練習問題を通じて知識の確認と定着をはかる。テキストの内容は、日本人が中国に行った時に会う場面を想定し、中国語の基本的な表現を3コマのイラストで覚えていく。聞く、話す、書く練習によって、自己紹介、買い物する、場所を尋ねる、料理を注文するなど実用的な表現力を身に付けることを目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

中国語の正確な発音ができるようにする。そのうえで中国語の文の構造を理解すること。

目標：

中国語で日常生活における簡単な会話など、実用的なコミュニケーションができるようになる。

汎用的な力

- 1 . DP8. 意思疎通

中国語で日常生活における簡単な会話など、実用的なコミュニケーションができるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

定期試験	60%	： 中国語の発音、基本単語、基本文法を覚えているかをチェックするために実施する。
授業課題	20%	： 授業で習った中国語のローマ字、単語、文法を確認するために宿題や小テストを行う。
平常点	20%	： 積極的に受講し、授業中集中して、質問に対して受け答えしているかによるものである。

使用教科書

指定する

著者

塚本慶一・劉穎

タイトル

・ 1年生のコミュニケーション中国語

出版社

・ 白水社

出版年

・ 年

参考文献等

- 『中国語学習辞典』 相原茂 朝日出版社
- 『中国語辞典』 伊地智善継 編、白水社
- 『中日辞典』 北京商務印書館、小学館

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

教科書を必ず購入し、授業を欠席しないこと。また、授業時には携帯電話を使用しないこと。私語など他の受講生に迷惑になる行為は慎むこと。これは、平常点として評価に組み込む。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日の昼休みに講師控え室で受ける。

場所： 講師室

備考・注意事項： 質問があれば積極的に聞いてほしい。授業中か授業の後にも質問をしてほしい。

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	発音（１）：基本母音を学び、中国語のイメージを掴みましょう 基本母音 中国語とはどんな言葉？ 基本的な挨拶表現	DVDを聞いて、習った母音、子音の発音を練習すること。 1時間
第2回	発音（２）：複合母音を学び、 複合母音 基本的な挨拶表現	DVDを聞いて、習った母音、子音の発音を練習すること。 1時間
第3回	発音（３）：子音、音節表を学び、基本的な挨拶を中国語らしく発音できるようになりましょう 子音、音節表 基本的な挨拶表現	DVDを聞いて、習った母音、子音の発音を練習すること。 1時間
第4回	第1課 中国語で自己紹介する 人称代名詞、名詞の文	DVDを聞いて、習った発音を練習し、単語を暗誦し、文法を復習すること。 1時間
第5回	中国語の自己紹介を発音に注意して、中国語らしく表現できるようになりましょう 子音・母音の発音を復習する。	DVDを聞いて、習った発音を練習し、単語を暗誦し、文法を復習すること。 1時間
第6回	第2課 「これは何ですか」 指示代名詞、疑問文、否定文	DVDを聞いて、習った発音を練習し、単語を暗誦し、文法を復習すること。 1時間
第7回	第1課、第2課の復習と練習を繰り返し、自然な中国語表現を習得しましょう 学んだ発音、文法、会話を復習する。	DVDを聞いて、習った発音を練習し、単語を暗誦し、文法を復習すること。 1時間
第8回	第3課 「これはいかがですか」 指示代名詞、形容詞の文、疑問詞	DVDを聞いて、習った発音を練習し、単語を暗誦し、文法を復習すること。 1時間
第9回	「これはいかがですか」の発音に注意して、中国語らしく表現できるようになりましょう 学んだ発音、文法、会話を復習する。	DVDを聞いて、習った発音を練習し、単語を暗誦し、文法を復習すること。 1時間
第10回	第4課 「買い物」 数詞、助詞、数量を表わす語、人民元の教え方	DVDを聞いて、習った発音を練習し、単語を暗誦し、文法を復習すること。 1時間
第11回	「買い物」の発音に注意して、中国語らしく表現できるようになりましょう 学んだ発音、文法、会話を復習する。	DVDを聞いて、習った発音を練習し、単語を暗誦し、文法を復習すること。 1時間
第12回	第5課 「どこにありますか」 場所指示代名詞、存在動詞、助動詞	DVDを聞いて、習った発音を練習し、単語を暗誦し、文法を復習すること。 1時間
第13回	「どこにありますか」の発音に注意して、中国語らしく表現できるようになりましょう 学んだ発音、文法、会話を復習する。	DVDを聞いて、習った発音を練習し、単語を暗誦し、文法を復習すること。 1時間
第14回	第6課 「何がありますか」 所在動詞、助動詞	DVDを聞いて、習った発音を練習し、単語を暗誦し、文法を復習すること。 1時間
第15回	総合練習：これまでに学んだ表現を自然に使えるように復習しましょう 第1課から第6課までの練習、復習を行う。	総合的に復習し、試験の準備をすること。 1時間

授業科目名	中国語Ⅱ				
担当教員名	陳 昭宜				
学年・コース等	1・2	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	中国語の発音に重点を置き、徐々に基本文法を学んでいく。文章を繰り返し朗読し、二人一組で簡単な会話練習をして、発表する。黒板に出て問題の答えを書いてもらう。時々ビデオなどで中国の生活文化を紹介する。				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「可」

授業概要

初めて中国語を学ぶ学生を対象として、基礎的な中国語の運用能力の養成を目的とする。中国語の発音と基礎文法の習得を目的とする。テキストを用いて説明と、練習問題を通じて知識の確認と定着をはかる。テキストの内容は、日本人が中国に行った時に出会う場面を想定し、中国語の基本的な表現を3コマのイラストで覚えていく。聞く、話す、書く練習によって、自己紹介、買い物する、場所を尋ねる、料理を注文するなど実用的な表現力を身に付けることを目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

中国語で日常生活における簡単な会話などができるようになる。

目標：

中国語の正確な発音を覚える。そのうえで中国語基本文法を習得する。中国語でコミュニケーションができるような力をつける。

汎用的な力

- 1 . DP8. 意思疎通

中国語で日常生活における簡単な会話など、実用的なコミュニケーションができるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

定期試験	60%	： 中国語の発音、基本単語、基本文法を覚えているかをチェックするために実施する。
授業課題	20%	： 授業で習った中国語のローマ字、単語、文法を確認するために宿題や小テストを行う。
平常点	20%	： 積極的に受講し、授業中集中して、質問に対して受け答えしているかによるものである。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
塚本慶一・劉穎	・ 1年生のコミュニケーション中国語	・ 白水社	・ 2014年

参考文献等

- 『中国語学習辞典』 相原茂 朝日出版社
- 『中国語辞典』 伊地智善継 編、白水社
- 『中日辞典』 北京商務印書館、小学館

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

教科書を必ず購入し、授業を欠席しないこと。また、授業時には携帯電話を使用しないこと。私語など他の受講生に迷惑になる行為は慎むこと。これは、平常点として評価に組み込む。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日の昼休みに講師控え室で受ける

場所： 講義室

備考・注意事項： 質問があれば積極的に聞いてほしいです。授業中か授業の後にも質問をしてよろしいです。

授業計画		授業外学修課題にかかると見込まれる目安の時間
第1回	第7課「ホテルにチェックイン」 1. 完了を表わす「了」 2. 選択疑問文「～還是～」	DVDを聞いて、習った発音を練習し、単語を暗誦し、文法を復習すること。 1時間
第2回	「ホテルにチェックイン」場面の会話を復習し、自然な中国語表現ができるようになります 学んだ発音、文法、会話を復習する。	DVDを聞いて、習った発音を練習し、単語を暗誦し、文法を復習すること。 1時間
第3回	第8課「何時に行きますか」 1. 経験を表わす「過」 2. 時を表わす語（時間詞）	DVDを聞いて、習った発音を練習し、単語を暗誦し、文法を復習すること。 1時間
第4回	「何時に行きますか」の会話を復習し、自然な中国語表現ができるようになります 学んだ発音、文法、会話を復習する。	DVDを聞いて、習った発音を練習し、単語を暗誦し、文法を復習すること。 1時間
第5回	第9課「タクシーに乗る」 1. 前置詞「从」、「到」 2. 時間の長さを表わす語 3. 2つの目的語をもつ動詞「給」	DVDを聞いて、習った発音を練習し、単語を暗誦し、文法を復習すること。 1時間
第6回	「タクシーに乗る」場面の会話を復習し、自然な中国語表現ができるようになります 学んだ発音、文法、会話を復習する。	DVDを聞いて、習った発音を練習し、単語を暗誦し、文法を復習すること。 1時間
第7回	第7課～第9課の総合練習をして、自然な中国語ができるようになります 学んだ発音、文法、会話を復習する。	DVDを聞いて、習った発音を練習し、単語を暗誦し、文法を復習すること。 1時間
第8回	第10課「これはいかがですか」 1. 助動詞「可以」、「能」、「会」 2. 前置詞「在」 3. 動詞の重ね用法	DVDを聞いて、習った発音を練習し、単語を暗誦し、文法を復習すること。 1時間
第9回	「これはいかがですか」の会話を復習し、自然な中国語表現ができるようになります 学んだ発音、文法、会話を復習する。	DVDを聞いて、習った発音を練習し、単語を暗誦し、文法を復習すること。 1時間
第10回	第11課「買い物」 1. 前置詞「给」 2. 「是」の省略 3. 「去」、「来」+動詞	DVDを聞いて、習った発音を練習し、単語を暗誦し、文法を復習すること。 1時間
第11回	「買い物」場面の会話を復習し、自然な中国語表現ができるようになります 学んだ発音、文法、会話を復習する。	DVDを聞いて、習った発音を練習し、単語を暗誦し、文法を復習すること。 1時間
第12回	第12課「どこにありますか」 1. 「是～的」 2. 「～的時候」	DVDを聞いて、習った発音を練習し、単語を暗誦し、文法を復習すること。 1時間
第13回	「どこにありますか」の会話を復習し、自然な中国語表現ができるようになります 学んだ発音、文法、会話を復習する。	DVDを聞いて、習った発音を練習し、単語を暗誦し、文法を復習すること。 1時間
第14回	中国語の実践を体験してみましょう 復習する。中国の映画を見るなど。	DVDを聞いて、習った発音を練習し、単語を暗誦し、文法を復習すること。 1時間
第15回	学んだことを総合練習し、定期試験に向けて準備をしましょう 第7課から第12課までの練習、復習を行う。	総合的に復習し、試験の準備をすること。 1時間

授業科目名	基礎日本語 I				
担当教員名	白瀬浩司				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目は留学生・帰国子女を対象に開講するもので、授業では以下の3点を重点に学びます。

1. 言葉をよく覚え、文型を繰り返し練習します。
 2. 会話の練習を十分に行います。
 3. テープやCDを何度も聞き、日本語の音に慣れるよう、反復練習をします。
- また、大学での授業に必要な聴力および文章力をつけるための課題を出します。そのほか、日本語でのプレゼンテーションの方法や、振り返りシートやレポートの書き方についても学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

日本語に関する知識

目標：

大学での授業を理解し、日本語で自分の意見をまとめ、発表することができる

汎用的な力

1. DP7. 完遂
2. DP8. 意思疎通

日本語力を高めることができる

日本語でのコミュニケーション能力を高めることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内課題1：会話発表	20%	： テーマごとの会話発表をひとり5回行い、独自のルーブリックで評価します。4点×5回
授業内課題2：提出物	30%	： 毎回の授業で振り返りシートを配布し、それを評価します。2点×15回
授業外課題：小課題レポート	15%	： 授業内で扱った内容を対象にした小課題を出します。独自のルーブリックで評価します。5点×3回
受講態度	15%	： 授業内での積極性および取り組み状況の評価します。
試験（期末レポート）	20%	： 与えられた論題に関する理解度と記述内容により評価します。なお、基本的な文章スキルにかかわる減点項目については、講義時に提示。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- 『新完全マスター文法 日本語能力試験N1』（友松悦子・福島佐知・中村かおり著、スリーエーネットワーク、2011）
『新完全マスター読解 日本語能力試験N1』（福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ著、スリーエーネットワーク、2011）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むとともに、各回の授業内容を丁寧に復習し、次時の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜・第3限
場所： 西館4階 91研究室

授業計画				授業外学修課題にかか る自安の時間
第1回	会話：自己紹介 自己紹介の仕方と、日本での礼儀や挨拶に関する日本語の表現を学びます。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読		1時間
第2回	会話：デパートなどの街中での会話 買い物などの場面を想定し、そこでの会話について学びます。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読		1時間
第3回	会話：電車に乗る 映画に行く 電車の乗り方・行き先についての聞き方・電車での日本のマナーについて学びます。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読		1時間
第4回	会話：日本のお宅を訪問する 日本のお宅を訪問するときの場面を想定し、そこでの挨拶・所作など日本文化のあり方について学びます。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読		1時間
第5回	会話：病院へ行く 道を聞く 病院へ行ったことを想定し、ドキドキなどの擬音語や病名について。また道を聞く聞き方と「はすかい」や、京都の「上ル・下ル」などの独特の表現について学びます。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読		1時間
第6回	会話：銀行・郵便局で 旅行 銀行や郵便局、旅行での会話について学びます。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読		1時間
第7回	会話：電話での会話 「もしもし」などの電話での会話のあり方について学びます。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読		1時間
第8回	会話：レストラン・寿司屋へ行く レストランでの会話とメニューについて、寿司屋という日本文化への理解と魚の名前について学びます。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読		1時間
第9回	会話：見学 どこかを見学に行ったことを想定して、そこでの会話とマナーについて学びます。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読		1時間
第10回	会話：訪問 パーティー 日本での（パーティーなどを含めた）会食における会話と、そこでのマナーについて学びます。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読		1時間
第11回	会話：日本語・日本文化への疑問1―「衣食住」に関して 各自が日本語・日本の文化について疑問に思ったり、よく分からないことを持ち寄り、口頭発表の形式で自分の意見や考えを述べる練習をします。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読		1時間
第12回	会話：日本語・日本文化への疑問2―「娯楽」に関して 各自が日本語・日本の文化について疑問に思ったり、よく分からないことを持ち寄り、口頭発表の形式で自分の意見や考えを述べる練習をします。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読		1時間
第13回	会話：日本語・日本文化への疑問3―「地理」に関して 各自が日本語・日本の文化について疑問に思ったり、よく分からないことを持ち寄り、口頭発表の形式で自分の意見や考えを述べる練習をします。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読		1時間
第14回	会話：日本語・日本文化への疑問4―「社会」に関して 各自が日本語・日本の文化について疑問に思ったり、よく分からないことを持ち寄り、口頭発表の形式で自分の意見や考えを述べる練習をします。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読		1時間
第15回	全体のまとめ：振り返りと復習 各自が日本語・日本の文化に関する自分の考えをまとめ、それを発表し合います。	最終課題の作成に向け、下調べや草稿を準備しておく		1時間

授業科目名	基礎日本語Ⅱ				
担当教員名	浅野法子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業は留学生・帰国子女を対象に開講するもので、長文を正しく読解することを目的とします。新聞記事や雑誌記事等を題材として、語彙を増やし、日本語の独特な表現について学びます。さらに、授業で扱った記事に関する自分の意見をまとめたり、グループで意見交換を行うことで、内容の理解を深めます。
また、大学での授業に必要な聴力および文章力をつけるための課題を出します。そのほか、日本語でのプレゼンテーションの方法や、振り返りシートやレポートの書き方についても学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

日本語に関する知識

目標：

大学での授業を理解し、日本語で自分の意見をまとめ、発表することができる

汎用的な力

- 1 . DP7. 完遂
- 2 . DP8. 意思疎通

日本語力を高めることができる

日本語でのコミュニケーション能力を高めることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ デイバート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内課題1：会話発表	30%	： テーマごとの会話発表をひとり5回行い、独自のルーブリックで評価します。6点×5回
授業内課題2：提出物	30%	： 毎回の授業で小テストを行い、評価します。2点×15回
期末レポート	20%	： 授業内で扱った内容を対象にしたレポート課題を出します。独自のルーブリックで評価します。
受講態度	20%	： 授業内での積極性および取り組み状況を評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『新完全マスター文法 日本語能力試験N1』(友松悦子・福島佐知・中村かおり著、スリーエーネットワーク、2011)
『新完全マスター読解 日本語能力試験N1』(福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ著、スリーエーネットワーク、2011)

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜3限

場所： 研究室（西館5階）
 備考・注意事項： 授業の前後にも質問に応じます。

授業計画		授業外学修課題にかかるとする自らの時間
第1回	新聞記事を読む：国内関連 キーワードをまとめて、論点をつかむ練習をします。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読 1時間
第2回	新聞記事を読む：国際関連 論点をつかみ、結論をおさえる練習をします。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読 1時間
第3回	新聞記事を読む：社会・文化 執筆者の立場を読み取る練習をします。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読 1時間
第4回	新聞記事を読む：コラム・特集記事 論点を簡潔にまとめる方法を学びます。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読 1時間
第5回	論点を絞った意見交換 関心のある新聞記事について、自分の意見をまとめます。それをクラスで発表し、意見交換を行います。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読 1時間
第6回	雑誌記事を読む：国内関連 文章を整理して理解する練習をします。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読 1時間
第7回	雑誌記事を読む：国際関連 できるだけ速く、正確に読み取る練習をします。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読 1時間
第8回	雑誌記事を読む：社会・文化 内容を正確に把握し、自分の言葉で説明する練習をします。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読 1時間
第9回	雑誌記事を読む：スポーツ さまざまなジャンルの記事で、時間内にできるだけ多く読み取る練習をします。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読 1時間
第10回	論点を絞った意見交換 関心のある雑誌記事について、自分の意見をまとめます。それをクラスで発表し、意見交換を行います。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読 1時間
第11回	評論文を読む：キーワードを読み取る 内容を正確に読み取り、簡潔にまとめる練習をします。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読 1時間
第12回	評論文を読む：接続詞に注意する 内容を正確に読み取り、簡潔にまとめる練習をします。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読 1時間
第13回	評論文を読む：論点をつかむ 内容を正確に読み取り、簡潔にまとめる練習をします。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読 1時間
第14回	評論文を読む：結論をおさえる 内容を正確に読み取り、簡潔にまとめる練習をします。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読 1時間
第15回	論点をしばった意見交換、及び授業のまとめ 関心のある評論文について、自分の意見をまとめます。それをクラスで発表し、意見交換を行います。日本語でのレポートの書き方の復習をして、この授業のまとめをします。	振り返りシートの作成、およびこれまでのまとめをしておく 1時間

授業科目名	健康スポーツ科学				
担当教員名	西田千裕				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義・演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・教育機関にて関連教科指導 ・自治体、企業における「健康づくり」のための体力測定および運動指導 ・アマチュアスポーツ普及を目的とした練習施設開設、マネージメント業務等 				

開放科目の指示：「可」

授業概要

- ・健康を維持するための3本柱である「運動」「栄養」「休養」のうち、特に「運動」「身体活動」が各々の身体へ与える影響を、エクササイズやレクリエーションスポーツの実践を通じて習得する。
- ・運動の適応や運動による影響を理論的に習得するため、レクチャーも交えながら展開する。
(例：レクチャー20分、実技40分、振り返り・まとめ10分、その他準備片付け等10分)

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1．DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

健康維持増進に関する正しい知識の習得

目標：

運動と健康の関連について理解し、健康維持増進に向けて実践できる力を養う。

汎用的な力

- 1．DP4. 課題発見
- 2．DP6. 行動・実践

健康に関する知識の習得と、各々の取り組むべき日常生活での課題を発見する。
各自の健康維持増進に向けて、それぞれの課題から改善策を考え遂行することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・その他(以下に概要を記述)

配布するワークレビューシート(要提出)の項目が明確に記載できているかを確認する。
各自の健康状態に関連した課題について目標設定を行い、それらを改善する方法などが理解できているかをチェックし評価する。

成績評価

注意事項等

- ・原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内課題の提出

： 配布するワークレビューシート(要提出)の項目が明確に記載できているかを確認する。
各自の健康状態に関連した課題について目標設定を行い、それらを改善する方法などが理解できているかをチェックし評価する。

30%

受講状況

： 各回授業への出席状況、授業態度(受講マナー、私語や携帯電話の使用など)、他の学生に対し授業の妨げとなるような行為について総合評価する。

10%

授業への取組状況

： 個人の目標達成に向けてのタスクが理解できているか、それに基づいて実技種目に積極的に取り組んでいるかを評価する。
グループワーク等の際、互いに協力し円滑に進行できているか等を確認する。

60%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

なし

履修上の注意・備考・メッセージ

【持参物】

- ①運動のできる服装（ジャージ、トレーニングウェアに属するもの）
- ②タオル
- ③飲料
- ④筆記用具

【注意点】

- ・安全性などの観点から、運動のできる服装、シューズ以外での参加は認めない。準備ができていない場合は参加不可とする。
- ・体調不良や怪我など、やむを得ない事情により実技参加が困難な場合、見学等が必要な場合は授業前に申し出ること。

【その他】

- ・施設スペースの状況、履修人数により、予定が変更となる場合もあり得る。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業後

場所： 授業教室

備考・注意事項： 質問は授業後およびEメールにて受け付けます。

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間	
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・ ガイダンス ・ 実技 <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業出席に関する注意点などを初回ガイダンスにて説明するため、履修者は必ず出席すること。 ・ ガイダンス後、残り時間に応じて簡単なエクササイズ（ストレッチetc）を行う。 ・ 個人目標設定、ワークレビュー（振り返り） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実技で使用した身体部位など、疲労回復にむけてストレッチなど、各自積極的にを行う。 ・ ワークレビューの作成 	1時間
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・ エクササイズ① 自重負荷でのトレーニング（上肢） <ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎知識の理解（レクチャー） ・ 実技 ・ グループワーク ・ ワークレビュー（筆記） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実技で使用した身体部位など、疲労回復にむけてストレッチなど、各自積極的にを行う。 ・ ワークレビューの作成 	1時間
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・ エクササイズ② 自重負荷でのトレーニング（下肢） <ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎知識の理解（レクチャー） ・ 実技 ・ グループワーク ・ ワークレビュー（筆記） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実技で使用した身体部位など、疲労回復にむけてストレッチなど、各自積極的にを行う。 ・ ワークレビューの作成 	1時間
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・ レクリエーションスポーツ① <ul style="list-style-type: none"> ・ 練習、チーム分け、対戦 ・ ワークレビュー（筆記） <p>※実施種目は人数、スペース等により決定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実技で使用した身体部位など、疲労回復にむけてストレッチなど、各自積極的にを行う。 ・ ワークレビューの作成 	1時間
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・ レクリエーションスポーツ② <ul style="list-style-type: none"> ・ 練習、チーム分け、対戦 ・ ワークレビュー（筆記） <p>※実施種目は人数、スペース等により決定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実技で使用した身体部位など、疲労回復にむけてストレッチなど、各自積極的にを行う。 ・ ワークレビューの作成 	1時間
第6回	<ul style="list-style-type: none"> ・ エクササイズ③ 自重負荷でのトレーニング（全身） <ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎知識の理解（レクチャー） ・ 実技 ・ グループワーク ・ ワークレビュー（筆記） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実技で使用した身体部位など、疲労回復にむけてストレッチなど、各自積極的にを行う。 ・ ワークレビューの作成 	1時間
第7回	<ul style="list-style-type: none"> ・ エクササイズ④ マシントレーニング <ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎知識の理解（レクチャー） ・ 実技 ・ グループワーク ・ ワークレビュー（筆記） <p>※実施メニューは人数、スペース等により決定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実技で使用した身体部位など、疲労回復にむけてストレッチなど、各自積極的にを行う。 ・ ワークレビューの作成 	1時間
第8回	<ul style="list-style-type: none"> ・ レクリエーションスポーツ③ <ul style="list-style-type: none"> ・ 練習、チーム分け、対戦 ・ ワークレビュー（筆記） <p>※実施種目は人数、スペース等により決定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実技で使用した身体部位など、疲労回復にむけてストレッチなど、各自積極的にを行う。 ・ ワークレビューの作成 	1時間
第9回	<ul style="list-style-type: none"> ・ レクリエーションスポーツ④ <ul style="list-style-type: none"> ・ 練習、チーム分け、対戦 ・ ワークレビュー（筆記） <p>※実施種目は人数、スペース等により決定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実技で使用した身体部位など、疲労回復にむけてストレッチなど、各自積極的にを行う。 ・ ワークレビューの作成 	1時間
第10回	<ul style="list-style-type: none"> ・ エクササイズ⑤ 有酸素運動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎知識の理解（レクチャー） ・ 実技 ・ グループワーク ・ ワークレビュー（筆記） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実技で使用した身体部位など、疲労回復にむけてストレッチなど、各自積極的にを行う。 ・ ワークレビューの作成 	1時間

第11回	エクササイズ⑥ インターバルトレーニング <ul style="list-style-type: none"> ・基礎知識の理解（レクチャー） ・実技 ・グループワーク ・ワークレビュー（筆記） 	<ul style="list-style-type: none"> ・実技でを使用した身体部位など、疲労回復にむけてストレッチなど、各自積極的に行う。 ・ワークレビューの作成 	1時間
第12回	レクリエーションスポーツ⑤ <ul style="list-style-type: none"> ・練習、チーム分け、対戦 ・ワークレビュー（筆記） ※実施種目は人数、スペース等により決定	<ul style="list-style-type: none"> ・実技でを使用した身体部位など、疲労回復にむけてストレッチなど、各自積極的に行う。 ・ワークレビューの作成 	1時間
第13回	レクリエーションスポーツ⑥ <ul style="list-style-type: none"> ・練習、チーム分け、対戦 ・ワークレビュー（筆記） ※実施種目は人数、スペース等により決定	<ul style="list-style-type: none"> ・実技でを使用した身体部位など、疲労回復にむけてストレッチなど、各自積極的に行う。 ・ワークレビューの作成 	1時間
第14回	エクササイズ⑦ マットを用いたエクササイズ <ul style="list-style-type: none"> ・基礎知識の理解（レクチャー） ・実技 ・グループワーク ・ワークレビュー（筆記） 	<ul style="list-style-type: none"> ・実技でを使用した身体部位など、疲労回復にむけてストレッチなど、各自積極的に行う。 ・ワークレビューの作成 	1時間
第15回	レクリエーションスポーツ⑦ <ul style="list-style-type: none"> ・練習、チーム分け、対戦 ・ワークレビュー（筆記） ※実施種目は人数、スペース等により決定	<ul style="list-style-type: none"> ・実技でを使用した身体部位など、疲労回復にむけてストレッチなど、各自積極的に行う。 	1時間

授業科目名	体育講義				
担当教員名	小林拳大・西田千裕・宮下恭子・田中 譲				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

人間にとっての身体運動の必要性、人が健康であることの大切さを理解するための授業です。自分の身体は自分で守り鍛えることを前提に、身体運動のメカニズムや体力の向上、トレーニング理論について理解を深め、生涯の健康生活も視野に入れた知見を身につけます。保育者に必要なことは、子どもの命を守っていける自らの健康と体力です。子どもも大人も健康であることが何よりの幸せであるので、からだにとって良いこと、良くなることの理論を理解し実践できる力をつけることを目標にします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見
- 2 . DP6. 行動・実践

具体的内容：

健康科学に関する基礎知識

目標：

生活習慣の理解とその予防方法の実践。

健康生活に関する課題と新しい知見の探索を実行。

生活習慣病の予防方法を理解し、正しい健康管理を実践することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業内課題

評価の基準

： 授業内容を踏まえた課題を遂行する。課題に対してグループ発表の機会がある。

20%

振り返りシート

： 毎回の授業時の振り返りシートを記入し提出する。

30%

期末テスト

： 授業の総括として、テストを実施する。

50%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 未定

場所： 未定

備考・注意事項： 初回授業にて担当教員が指示をする。

授業計画		授業外学修課題にかかる自らの時間	
第1回	授業ガイダンス（授業概要と目的） 運動と疲労 近年、「健康」に関する研究が進んでおり、新聞やメディアなど「健康」について取り上げられており、長寿社会に生きる私たちは、いかに病気に罹らず健康で生き生きと暮らせるかということに強い関心を寄せています。しかし、健康的な生活の仕方は実生活にどれほど生かされているのでしょうか。まずは、健康、体力の概念についての理解を深め、健康に生きるために必要な健康の3つの要素「栄養」、「休養」、「運動」を中心にその理論と実践方法について学び、同時に身体の機能や運動のメカニズムなども理解していきます。	自分のこれまでの生活を振り返ってみます。	1時間
第2回	発育と発達 人にはみな子どもの時代があり、それぞれの時期での発育発達を経て大人になっていきます。出生時から大人になるまで、身体の組織や機能は一樣な発育発達をしていくわけではありません。本時では、子どもから大人、高齢者までの心身の発育発達について学びます。	振り返りシートへの記述。発育と発達についての違いについて考えてみます。	1時間
第3回	身体運動の科学的基礎 人間は動くことにより体の機能が正常に働きます。運動には、反射と随意運動があります。運動はどのようにして起こるのでしょうか。運動が起こるメカニズム二つについて学びます。	振り返りシートへの記述。反射と随意運動の違いについて考えてみます。	1時間
第4回	身体調整機能の基礎 運動は学習によってその技能が上達します。そこには、運動を調整する神経機能が介在します。そこで、本時は巧み動き、運動の調整機能について学びます。	振り返りシートへの記述。神経系の機能とはどのようなものかについて考えてみます。	1時間
第5回	運動と栄養（1） 運動に必要な栄養、身体を作る栄養などについて学びます。栄養素の中でも三大栄養素と言われる炭水化物、たんぱく質、脂質について、摂取しなくてはならない意味、摂りすぎの注意点などを学びます。	振り返りシートへの記述。栄養と栄養素の違いについて考えてみます。	1時間
第6回	運動と栄養（2） 前回に引き続き、運動に必要な栄養、身体を作る栄養などについて学びます。体の調子を整えて、他の栄養素の働きを助ける成分であるビタミン、からだの機能を維持、調節するのに欠かせない栄養素であるミネラルについて学びます。	振り返りシートへの記述。各種のビタミンについて調べてみます。	1時間
第7回	運動と疲労、睡眠 疲労とはどういったものなのでしょうか。特に運動をしていなくても、肩こりや腰痛、頭痛や眠気などの身体的な疲れが出てきたり、仕事やストレスでイライラやヤル気のなさなど精神的な疲れも出てきます。身体的な疲れと精神的な疲れはまったく別でしょうか。本時では、運動によって起こる疲労、さらに疲労回復に欠かせない食事と理想的な睡眠について学びます。	振り返りシートへの記述。疲労回復の方法を調べてみます。	1時間
第8回	課題（1回～7回の授業より） 1回～7回の授業より、課題を提示します。	提示された課題を効率よく遂行できるように、これまでの授業を振り返っておきます。	1時間
第9回	運動と障害 過度な運動によって、骨や筋肉、腱などを痛め運動ができなくなるばかりではなく、日常生活においても支障が出る場合があります。運動による障害は身体内部で起こる生理的变化によって起こるので、その原因や障害の種類、予防などについて学びます。	振り返りシートへの記述。骨粗しょう症について調べておきます。	1時間
第10回	トレーニング理論 トレーニングは、正しいやり方で行わなくては効果が出にくく、運動障害を引き起こすこともあります。エアロビクスや筋力トレーニングなど、トレーニングの基本理論に基づいた方法で効果良いトレーニングの方法などを学びます。	振り返りシートへの記述。自分の体力にふさわしいトレーニング方法を考えてみます。	1時間
第11回	トレーニング理論（その2） 筋力トレーニングの様式について学びます。トレーニングの中でも、最も多く行われているトレーニングは筋力トレーニングです。効果的な筋力アップを目指すには、効率の良い方法でトレーニングをすることが望ましいです。	振り返りシートへの記述。自分にふさわしい筋力トレーニングの種類について調べておきます。	1時間
第12回	感覚（味覚・嗅覚） 人間の行動や思考に欠かせない五感について学びます。本時は健康のための食事や栄養摂取のために欠かせない味覚と嗅覚について学びます。	振り返りシートへの記述。心理的な影響による味覚や嗅覚の変化について調べておきます。	1時間
第13回	感覚（視覚・皮膚感覚） 人間の行動や思考に欠かせない五感について学びます。本時は運動と密接な関連性のある視覚と皮膚感覚について学びます。	振り返りシートへの記述。視覚や皮膚感覚と関連性のある運動について考えておきます。	1時間
第14回	感覚（聴覚） 人間の行動や思考に欠かせない五感（聴覚）の一つ視覚について学びます。本時は運動と密接な関連性のある聴覚について学びます。	振り返りシートへの記述。聴覚と関連性のある運動について調べておきます。	1時間
第15回	総括	全授業のまとめとなる提出課題を完成させておきます。	1時間

授業科目名	体育実技				
担当教員名	小林志保・西田千裕・小林拳大・田中 讓・松尾貴司				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

近年「運動不足」「体力の低下」「身体活動量の低下」が各年代の生活習慣病の原因であると多くの研究で明らかにされ、改善しなければいけない問題とされています。また幼児教育の観点からは、「運動が嫌い」・「スポーツが苦手」な幼児が増加しており、幼児教育として運動を指導するだけではなく、楽しさを伝える指導力が重要となってきています。体育実技では体力強化・身体づくりはもちろんのこと、運動やスポーツの楽しさを体感し、子ども達に楽しさを伝えられる人間を形成します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

バレーボールなどの一般的なスポーツだけではなく、キンボールなどのニュースポーツも行うことで、新しいスポーツに親しむ。さらにルールを理解し、学んだ知識を生かすために汎用的な技能や実践能力を磨く。

目標：

保育者として、自身の体力の維持増進を図ると同時に、様々な運動の特性を知り、運動技能の向上を図る。

汎用的な力

- 1 . DP6. 行動・実践
- 2 . DP8. 意思疎通
- 3 . DP9. 役割理解・連携行動

健康や体力の維持増進、技術上達等を各人が体験する。

様々な種目を通してコミュニケーション能力を育てる。

実技を通し考える力を体得する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

受講状況

60%

ルールの理解度・スキルの向上およびチームでの勝率

20%

期末レポート

20%

評価の基準

： 各回授業への積極的参加（作戦・立案の積極性や試合中の動き）や授業態度（受講マナー、スマートフォンの使用や集合時に集まらないなど授業の妨げになる行為は減点）などをもとに総合評価する

： 各授業は試合形式で行うため、授業中での勝率やルールを明らかに間違えておろかつ注意しても修正しない場合や危険行為を行う場合は減点

： 授業での学びや気づきをまとめ、幼児教育では、運動を指導するだけではなく、楽しさを伝える指導力が重要であることを理解し、具体的な指導方法を考えることができる。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

なし

履修上の注意・備考・メッセージ

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項：授業終了後に質問するようにして下さい。

授業計画		授業外学修課題にかかるとの目安の時間
第1回	<p>ガイダンス（授業概要と目的）</p> <p>授業の進め方や成績評価の方法、受講マナーについてガイダンスを行う。また、近年において何故運動が重要視されているのか、さらに、子ども達になぜ運動が必要なのか、といった運動を何故するのかという根本を理解する。</p>	「ドッジボール」のルールを理解しておくこと。 1時間
第2回	<p>ドッジボール</p> <p>授業の始めに、ストレッチの大切さおよびその簡単なストレッチの方法を学ぶ。転しドッジ、ターゲットドッジ、王様ドッジなど様々な形式のドッジボールを楽しみながら、ボールを投げる動作や周囲を見渡す力を養う。また、ルールを守る態度やチームで運動を行う楽しさを実感する。</p>	「バスケットボール」のルールを理解しておくこと。 1時間
第3回	<p>バスケットボール①</p> <p>ルールの概略を説明し、理解を促す。また、ボールコントロール、ハンドリング技術の向上を目的にパス・ドリブル・リバウンドなどの基礎的な動きを練習する。講義の後半からは班対抗のゲームを行う。試合前に各班で戦略の構築時間を設け、プレイ中動きの意識や協調性・主体性を養う。</p>	「バスケットボール」のルールを再確認すること、さらに戦術について調べておくこと。 1時間
第4回	<p>バスケットボール②</p> <p>再度ルール説明を行う。シュート技術の向上を目的に、レイアップシュート・バックシュート、ジャンプシュート、セットシュートなどの練習を行う。講義の後半からは班対抗のゲームを行う。試合前に各班で戦略の構築時間を設け、プレイ中動きの意識や協調性・主体性を養う。</p>	「インディアカ」のルールを理解しておくこと。 1時間
第5回	<p>インディアカ</p> <p>スポーツが楽しいと思っただけでなく、学生や体力差がある人とスポーツを一緒に楽しむ方法を知らない学生に誰でも楽しめるニュースポーツであるインディアカを紹介し、楽しさと達成感を体験してもらう。また、仲間と行うことで得られる喜びを体験する。</p>	「バドミントン」のルールを理解しておくこと。 1時間
第6回	<p>バドミントン①</p> <p>ルールの概略を説明し、理解を促す。ストローク技術の向上を目的にスマッシュ・クリア・ドライブ・ドロップなどの練習を行う。講義の後半からはダブルスでのゲームを行う。試合前に各チームで戦略の構築時間を設け、プレイ中動きの意識や協調性・主体性を養う。</p>	「バドミントン」のルールを再確認すること、さらに戦術について調べておくこと。 1時間
第7回	<p>バドミントン②</p> <p>再度ルール説明を行う。ストローク技術の向上を目的に、ドロップ・カット・ヘアピンロブなどの練習を行う。講義の後半からはダブルスでのゲームを行う。試合前に各チームで戦略の構築時間を設け、プレイ中動きの意識や協調性・主体性を養う。</p>	「アルティメット」のルールを理解しておくこと。 1時間
第8回	<p>アルティメット</p> <p>ルールの概略を説明し、理解を促す。また、ディスクの投げ方の向上を目的にバックハンドスロー・オーバーハンドスロー・カーブなどの動きを練習する。講義の後半からは班対抗のゲームを行う。試合前に各班で戦略の構築時間を設け、プレイ中動きの意識や協調性・主体性を養う。</p>	「フットサル」のルールを理解しておくこと。 1時間
第9回	<p>フットサル①</p> <p>ルールの概略を説明し、理解を促す。また、基本技術の向上を目的にキックの仕方（インサイド・トゥー）・ドリブル・などの基礎的な動きを練習する。さらに、2対1、3対2のときのシュートパスといった攻撃基本戦術を知る。講義の後半からは班対抗のゲームを行う。試合前に各班で戦略の構築時間を設け、プレイ中動きの意識や協調性・主体性を養う。</p>	「フットサル」のルールを再確認すること、さらに戦術について調べておくこと。 1時間
第10回	<p>フットサル②</p> <p>再度ルール説明を行う。攻撃のフォーメーションや防御のフォーメーションなどの説明を行いチームごとの戦術を工夫する一助とする。講義の後半からはダブルスでのゲームを行う。試合前に各チームで戦略の構築時間を設け、プレイ中動きの意識や協調性・主体性を養う。</p>	「バレーボール」のルールを理解しておくこと。 1時間
第11回	<p>バレーボール①</p> <p>ルールの概略を説明し、理解を促す。また、バレーボールの基本技術の向上を目的にオーバーハンドパス・アンダーハンドパス・スパイク・サーブなどの動きを練習する。講義の後半からは班対抗のゲームを行う。試合前に各班で戦略の構築時間を設け、プレイ中動きの意識や協調性・主体性を養う。</p>	「バレーボール」のルールを再確認すること、さらに戦術について調べておくこと。 1時間
第12回	<p>バレーボール②</p> <p>再度ルール説明を行う。チーム戦術の体験を目的に、フォーメーションの確認やコンビネーションの練習を行う。講義の後半からは班対抗のゲームを行う。試合前に各チームで戦略の構築時間を設け、プレイ中動きの意識や協調性・主体性を養う。</p>	「卓球」のルールを理解しておくこと。 1時間
第13回	<p>卓球①</p>	「卓球」のルールを再確認すること、さらに戦術について調べておくこと。 1時間

	<p>ルールの概略を説明し、理解を促す。また、卓球の基本技術の向上を目的にフォアハンド・バックハンドドライブなどの動きを練習する。講義の後半からはダブルス対抗のゲームを行う。試合前に各ペアで戦略の構築時間を設け、プレイ中動きの意識や協調性・主体性を養う。</p>		
第14回	<p>卓球②</p> <p>再度ルール説明を行う。卓球の基本技術の向上を目的にシュートカット（フォアハンド・バックハンド）の動きを確認する。講義の後半からはシングルでのゲームを行う。試合前に時間を設け前試合の振り返りを行う。</p>	<p>「キンボール」のルールを理解しておくこと。</p>	1時間
第15回	<p>キンボール</p> <p>スポーツが楽しいと思っただことがない学生や体力差がある人とスポーツを一緒に楽しむ方法を知らない学生に誰でも楽しめるニュースポーツであるキンボールを紹介し、楽しさと達成感を体験してもらう。また、仲間と行うことで得られる喜びを体験する。</p>	<p>授業を振り返り、これまでの内容についてまとめしておくこと</p>	1時間

授業科目名	暮らしと環境				
担当教員名	張野宏也				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義が約60分、授業のまとめ（筆記）約15分、討議に対するコメントおよびディスカッション約15分の時間配分を原則とするが、各回の内容により若干、時間配分が異なることもある。				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業では、①身近なところから世界的に生じている環境問題を理解することで、自分の専門と環境との関わり合いを導き出すとともに、②現在の環境を将来も持続させていく方法をお互い議論して、自分の考えを構築できるようになることを目指します。このような訓練を繰り返すことで、現在多くの環境に関する情報がマスメディアで報じられていますが、それらの情報を正確に把握し、自分はそれに対してどのような意見や行動を起こせばよいのかを判断し、周辺や次世代を担う人々に自信をもって伝えることができるようになることが目的です。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

現在の環境問題に対する正確な知識を習得する。

目標：

環境問題に関する情報を得た時、自分はどうすれば良いのかを判断できる知識を養う。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見

環境問題の現状に対する知識に基づき、今後我々は何をすれば良いのかを見出す。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・ 問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。3分の2以上出席した場合にのみ成績評価の対象となり、それ以下の場合は放棄とみなし、成績評価を「一」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

毎回の小レポート

50%

評価の基準

： 授業外学習課題と授業のまとめをしっかりと書けているかで評価する。

定期試験

50%

： 講義の内容が身につけているかどうか、さらに質問に対して自分の意見をしっかりと述べているかを評価する。

使用教科書

指定する

著者

川合真一郎、張野宏也、山本義和

タイトル

環境科学入門 第二版 地球と人類の未来のために

出版社

・ 化学同人

出版年

・ 2018年

参考文献等

環境汚染化学有機汚染物質の動態から探る/水川薫子、高田秀重/丸善出版
その他の参考文献は授業中に随時紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学習課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。また、授業内レポートでは、まとめのみならず、自分の意見をしっかりと記入すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日 1, 2限

場所： 345教室

備考・注意事項： 連絡を取りたい場合は、Eメールアドレスで（アドレス：harino@mail.kobe-c.ac.jp）に送信してください。Eメールには、氏名と学籍番号を必ず入れてください。

授業計画	環境科学とは	ニュース等でみた環境問題についてまとめる。	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	環境科学とは何を扱う学問なのか、どうして環境問題が生じてきたのかを概説します。また、4大公害（第一、第二水俣病、四日市ぜんそく、イタイイタイ病）に焦点を当てて紹介するとともに、それに対する対処方法について考える。	ニュース等でみた環境問題についてまとめる。	4時間
第2回	身の回りでおこっている生態系の異常について見てみよう。 環境を考えると、生態系は非常に重要な要素を占める。現在世界各国で起きている、さらには身の回りに起きている生態系の異常（外来種、希少種等）を中心として概説します。	最近生じている生態系の異常について調べる。	4時間
第3回	地球の温暖化について詳しく知ろう。 地球温暖化はなぜ生じているのか、それによりどのような影響を地球全体におよぼしているか、そして今後気温が上昇するとどのようなことになるかを事例を挙げて説明します。	地球温暖化による影響について調べてまとめる。	4時間
第4回	地球温暖化以外の大気汚染にはどのようなものがあるだろうか？ 地球温暖化以外にもさまざまな大気汚染があることを学び、大気汚染から身を守るにはどのようにすればよいかを考えます。	これまで報道されている大気汚染に関する記事についてまとめる。	4時間
第5回	池、川、海の汚れは改善されたのでしょうか？ 見た目の池、川、海の汚れの原因はなにか、過去から改善されてきたのかを学び、今後どのようになるかを予測します。	講義前までに第4章水質汚染を熟読しておくこと。	4時間
第6回	農業について考えてみましょう！ 農業は農作物を作るのに必要不可欠のものです。どのような農薬が使用されているか、またそれに対する安全性について考えてみましょう。	魚介類に含まれる化学物質について調べまとめる。	4時間
第7回	身の回りに使用されている化学物質について考えてみましょう！ さまざまな化学物質が至るところで使用されています。これらが人間生活に影響を及ぼすのか、また、それを防ぐにはどのようにすればよいかを考えます。	身の回りを見渡し、どこに化学物質が使用されているか考えてください。	4時間
第8回	放射性物質による汚染とは？ 震災のみならず原発事故による放射性物質による汚染が復興を遅らせています。放射性物質について理解するとともに原発問題が生じた経緯を学ぶとともにその対処方法についても考えます。	原発問題についての過去の事例を調べる。	4時間
第9回	汚染物質の毒性および代謝について？ 汚染物質が体内に入った時、どのような形になって排出されるのでしょうか。排出のメカニズムについて学びます。	化学物質はどの程度人や生物に対して毒性を有するか調べる。	4時間
第10回	内分泌かく乱物質とはなにでしょうか？ 聞きなれない言葉かもしれませんが、内分泌かく乱物質と呼ばれる化学物質というものがああります。その内容について、深く学びます。	化学物質による次世代に対する影響について調べる。	4時間
第11回	リスクアセスメントの重要性について 化学物質汚染の危険性を評価するには、どのような方法があるのでしょうか。評価手法について学びます。	化学物質のヒトや生物への影響を評価するにはどのような方法があるか調べる。	4時間
第12回	水、食品は本当に安全なのでしょうか？ 安全な水や食品を得ることは人にとって重要なことです。世界的に安全な水や食品を供給している国はどの程度なのか、日本で供給されている水や食品は本当に安全なのかを考えます。	水、食品の安全性や自給率に関わる報道を調べ、まとめる。	4時間
第13回	ごみと廃棄物はどうすれば良いのか？ ごみや廃棄物は増えるいっぽうです。現在年間どの程度の廃棄物が出ているのか、どうして分別収集をしているのか、これらの再利用についてを学びます。また、減量するにはどのような点に気を使えば良いのかを考えます。	ゴミ、廃棄物に関する記事を調べまとめる。	4時間
第14回	これからのエネルギー問題について考える。 石油、石炭が枯渇するに変わり、新エネルギーが提案されています。どのようなエネルギーを使用しようとしているのか、その長所、短所について考えます。また、原発は必要なのかについても考えます。	新エネルギーについて調べまとめる。	4時間
第15回	環境保全をするための住民の活動とは？ 環境保全のためにどのような住民活動が行われているのか、それに対し行政はどのようなサポートをしているのかを学びます。	身のまわりで行われている住民活動についてまとめる。	4時間

授業科目名	日常の科学				
担当教員名	村井章彦				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	総合電機メーカーの技術研究員として、先端材料の研究開発に従事（全15回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目は、日常生活、身の周りに存在している科学的知識の素養を身につけることを目的とします。まず前半は現代生活に欠かすことのできない結晶材料について勉強し、さらに結晶材料を使った製品（発光ダイオード（LED））についての科学的技術的な基礎知識についても学びます。科学の進歩とその背後にある人間ドラマについても話します。そして後半は原子、分子の概念をもとに化学的知識を深めます。その中に酸と塩基、酸化と還元、有機化学についても含まれます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見

具体的内容：

科学力（化学力）の習得

目標：

科学知識（化学知識）を学ぶ

科学知識（化学知識）の不足な箇所を自分で発見し、補う努力に努める。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・ 振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

定期試験	80%	: 定期試験期間中に科学（化学）の知識の程度を筆記試験により評価する。
試験（小テスト）	20%	: 各単元終了後、翌週に小テストを行う。小テストの点数を総合的に評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
村井章彦	・ 世にも不思議なクリスタル	・ ギャラクシーブックス	・ 2018年
松井徳光・小野廣紀	・ わかる化学	・ 化学同人	・ 2002年

参考文献等

- ・ 中学、高校で使った理科（化学、生物）の教科書や資料。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

第1回	オリエンテーション、日常社会を支える科学技術の発明発見	講義内容を振り返り、復習する。	授業外学修課題にかかる目安の時間
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義全般や成績評価などについての説明 ・ 日常社会を支える科学技術の発明発見の経緯 		4時間

第2回	結晶の科学 ・小テスト ・日常社会を支える結晶の科学技術	講義内容を振り返り、復習する。	4時間
第3回	水と氷の結晶 ・小テスト ・水と氷の原子的な振る舞い	講義内容を振り返り、復習する。	4時間
第4回	半導体の結晶 ・小テスト ・半導体結晶と日常社会のかかわり	講義内容を振り返り、復習する。	4時間
第5回	発光ダイオード (LED) の結晶 ・小テスト ・発光ダイオード (LED) と光文化	講義内容を振り返り、復習する。	4時間
第6回	化学結合 ・小テスト ・粒子を結びつける化学結合	講義内容を振り返り、復習する。	4時間
第7回	粒子の重さ (1) ・小テスト ・原子、分子、イオンの重さ	講義内容を振り返り、復習する。	4時間
第8回	粒子の重さ (2) ・小テスト ・モルとアボガドロ数	講義内容を振り返り、復習する。	4時間
第9回	エネルギー ・小テスト ・エネルギーの形態 (食物がもつエネルギー)	講義内容を振り返り、復習する。	4時間
第10回	酸と塩基 ・小テスト ・酸と塩基の考え方	講義内容を振り返り、復習する。	4時間
第11回	酸化と還元 ・小テスト ・物質の酸化と還元	講義内容を振り返り、復習する。	4時間
第12回	物質の濃度 (1) ・小テスト ・パーセント濃度とモル濃度	講義内容を振り返り、復習する。	4時間
第13回	物質の濃度 (2) ・小テスト ・グラム濃度と規定濃度	講義内容を振り返り、復習する。	4時間
第14回	有機化合物 ・小テスト ・食物、生体中の有機化合物	講義内容を振り返り、復習する。	4時間
第15回	まとめ、演習 ・ここまでのまとめのテストと解説	全般の振り返り学習を行う。	4時間

授業科目名	暮らしと経済				
担当教員名	竹内正人				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	経済学の基礎を学ぶため、講義形式で行う。講義は主にスライドを用います。毎回テーマに合わせてサブノート（プリント）を配布し、覚えて欲しい項目や重要な内容を自ら書き入れることでノートが完成します。講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「可」

授業概要

この講義では日常の暮らしの中から身近なテーマを選び、それを経済学敵視点、特にミクロ経済学及びマクロ経済学の視点を中心に解説します。経済学の基礎を学ぶことで、身近な話題の中から、社会の大系をつかみ、①経済的合理性を持った思考を構築できるようになります。またそれによって②新聞やニュースに出てくる経済記事、国・地方公共団体の政策、企業の活動に関する記事内容が理解できることで、自らの現状認識及び将来の方向性を見定めることができるようになることを目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

社会人としての必要な経済学的知識と教養

目標：

新聞やニュースなどの情報を理解し、社会生活に役立てることができる。

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見

毎回配布した資料から、社会生活における課題を発見し検討できるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。
10分以上の遅刻はみとめない。2回の遅刻で1回の欠席とみなします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

毎回の提出物	50%	: 各回3点満点。授業内容が理解できていれば2点。独自の見解が示されていれば3点。不足があれば1点とする。10回以上の提出で+5点。
期末試験	50%	: 経済学の基礎知識とそれを用いて経済学的見解を述べる論実式問題を出題する。評価方法は以下の視点。 ①経済学の知識を正しく理解しているかどうか ②課題に対し経済学的思考をベースに回答できているかどうか

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『マンキュー経済学入門』（2008）（N・グレゴリー・マンキュー 東洋経済新報社）
その他の参考文献は授業中に随時紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
毎日の新聞やニュースに関して注意をはらってください。日ごろ見落としがちな小さなニュースの中にも実は大きな経済問題が含まれている場合があります。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日4限

場所： 研究室53（竹内研究室）

備考・注意事項： 事前に連絡がとりたい場合はtakeuchi-ma@osaka-seikei.ac.jpに連絡すること。
オフィスアワー以外でも研究室に在室の時は対応いたします。気軽に質問にきてください。

授業計画			授業外学修課題にかかると目安の時間
第1回	ガイダンス・経済学とは 講義の進め方 経済学の成り立ち。経済学的視点などこれから経済学を学ぶ上での基本的な注意点を提示する。	経済学を学ぶことによって何を達成することができるか、経済学の目的について考えておくこと。	4時間
第2回	物価について考えてみよう！ 価格はどのように決まるのか？ 梅田やホテルで飲むコーヒーは何故価格が高いの？ 価格と価値の違いや価格の決定について学ぶ。	商品には定価があっても同じ商品が店によってなぜ価格が違うのかを考えておくこと。	4時間
第3回	需要と供給って何？ 経済学における財とサービスの定義 市場原理と需要と供給の意味や仕組みについて学ぶ。	公共料金はなぜ価格が決まっているのかを考えておくこと。	4時間
第4回	暮らしと税金を考えよう！ 税金は何のためにあるのだろうか？ 税金が上がるとどうなるか？ 税金の種類 公共事業と税金など税の必要性和仕組みについて学ぶ。	所得税や消費税について考えておくこと。	4時間
第5回	効用と限界効用について考える。 効用って何？ 予算って何？ 予算内でいかに効率的に満足度を高めるには？ など人間の行動と経済的制約について学ぶ。	食事の一口目がなぜ美味しいのかを考えておくこと。	4時間
第6回	満足とその限界を考える。限界効用と無差別曲線 1 人間の満足度を、グラフを用いて理解する。そのうえで無差別曲線という曲線と予算制約線との関係を解説する。	人間の欲望はどこまで大きいのか？なぜどこかで我慢できるのか？を考えておくこと。	4時間
第7回	価格と満足を考える。限界効用と無差別曲線 2 価格が上がると満足度はどうなるだろうか？ 無差別曲線について振り返りながら、予算制約線との関係について学ぶ。 無差別曲線の特徴と予算制約線	人間の満足度と価格の関係をあらためて考えること。	4時間
第8回	豊かさは何？ 暮らしの指標とGDP 日本の経済を示す様々な指標を示しながらGDPについて解説する。またGDPの数値が大きければそれで良いのかも考える。 キーワード：GDP 投資 消費 輸出 輸入 貯蓄 インフレ	どうすれば人間は、日本は豊かになるのかを考えておくこと	4時間
第9回	幸せって何？ 幸せについて経済学視点で考えてみます？ お金があれば幸せか？ どうすれば幸せになれるのかななどを議論する。 キーワード：健康 負債 希望	人間にとって、あなたにとって幸せとは何かを考えておくこと。	4時間
第10回	結婚について考える。 結婚や少子化についても経済的視点で考える。 どうして結婚しない人が増えているのか？ 少子化の原因は？ 生涯賃金など、結婚とその後の生活を交えながら結婚にまつわる制度について経済的視点で考える。 キーワード：機会費用とその損失	なぜ、日本は少子化に向かっているのか？なぜ晩婚化は進むのかを考えておくこと	4時間
第11回	経済人とレモン 情報の非対称性下の市場について学ぶ。 他に、埋没コストや流動性のわなといわれる市場における経済活動を阻害する要因等について考える。サンクコスト、レモンの原理について。映画や住宅市場を例に考える。	映画館でつまらない映画を最後まで見続けるかどうかを考えておくこと。	4時間
第12回	経済発展と環境問題を考える。 暮らしが豊になるにつれてゴミなどの廃棄物が大量に出でてくる。経済発展と環境保護はどんな関係にあるのかを考える。 キーワード：外部経済性	日本は経済が発展している国なのに、なぜ空が美しいのかを考えておくこと。	4時間
第13回	大都市と大企業 大量につくるとなぜ価格が安くなるの？ どうして都会に人が集まるの？ キーワード：規模の経済 集積の経済	あなたはなぜ、大阪に勉強にきているのか。大都会に住む有利さは何かを考えておくこと。	4時間
第14回	産地と消費地 たとえば醤油の産地はなぜ竜野市や小豆島だったのだろうか？ ビール工場はどうして吹田なのだろうか？ 門真や守口にはどうして家電メーカーがあったのだろうか？ 消費地と産地について考えます。	スーパーで売っている冷凍食品の工場はどこになるのか？なぜそこになるのかを考えておくこと	4時間
第15回	経済効果って何？ まとめ 最近話題の経済効果についてその意義や測定の方法を学びます。さらに、AKB48やたま駅長など具体的な事例をもとに経済効果のもつ重要性を解説する。 最後にこの講義のまとめ、重要ポイントについて解説する。	あなたが買い物をすると、だれがどのようにして収入を得るのかを考えてみること	4時間

授業科目名	社会福祉と暮らしの法			
担当教員名	西山直子			
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数 2
授業形態	講義			
実務経験のある教員による授業科目	該当する			
実務経験の概要	公的機関の児童福祉分野の相談員として長年勤務。保護者を対象に養育相談、生活相談、離婚相談、DV相談等に携わる。(第3回、4回、8回、12回、13回、15回)			

開放科目の指示：「可」

授業概要

社会福祉の歴史を知り、福祉の歴史的視点をもった上で、社会保障、子ども福祉、障害者福祉、高齢者福祉における状況及びケースワークについて学ぶ。専門職種を軸に地域全体で社会福祉課題に取り組む必要がある昨今の現状について理解を深める。この講義では、社会福祉の現状、現場について議論を通して、専門知識を習得し、対人援助について理解を深める。また、知識と技能の理解を通して、福祉的視点を深める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見
- 2 . DP8. 意思疎通

具体的内容：

社会福祉の現状を理解するとともに、社会福祉・社会保障の基本的な知識を身につけます。

目標：

社会福祉の現状を理解するための手立てを習得し、社会問題の理解と解決に向けての方策を理解し、説明出来るようにする。

現代の社会情勢から課題を発見できる力を身につけ、説明できるようにする。
ペアワーク、グループワーク、対人援助のスキル習得を通して、相手の理解と自己の意見の主張方法を習得する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ ディベート、討論
- ・ 課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

成績評価の方法・評価の割合

定期試験

40%

振り返りシート

30%

受講態度

30%

評価の基準

： 社会福祉の基礎的な知識に関する問題と社会問題に対する考察について40点満点で評価する。

： 各回の振り返りシートを0点から3点で評価する。

： 講義への積極的な参加（発表、コメントなど）グループワークへの積極的な参加、受講マナー（スマートフォンの無許可使用、不必要な私語、無断退出など）を総合的に判断。

使用教科書

指定する

著者

鬼崎信好・本郷秀和 編

タイトル

・ コメディカルのための社会福祉概論

出版社

・ 講談社

出版年

・ 2018年

参考文献等

適宜、資料・プリントを配布。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後で質問対応します。

場所：

備考・注意事項： 基本的には授業の前後で質問対応します。ただし時間がかかる場合は、別途時間を設けます。

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかるとの目安の時間
第1回	<p>ガイダンス 講師紹介、シラバスからみる社会福祉の考え方</p> <p>講師の自己紹介をする。シラバスと講義の進行について説明を行い、講義の目的を明確にする。ペアワーク、グループワークによる学びの重要性とルールを確認する。</p>	<p>4時間</p> <p>復習：振り返りシートの作成 予習：テキストの該当箇所（P12～25）を読んでおく。現代の社会福祉問題について、自分の興味のある問題をメモし、その理由を書いておく。</p>
第2回	<p>日本の社会福祉の歴史</p> <p>それぞれの時代における社会福祉の背景や動向について学ぶ。</p>	<p>4時間</p> <p>復習：振り返りシートの作成 予習：テキストの該当箇所（P26～40）を読んでおく。社会保障について、ネット、新聞などで社会保障等に関する記事を読み、一つ以上メモしておく。</p>
第3回	<p>社会保障制度と社会福祉を展開する組織</p> <p>日本の社会保障制度について学び、社会福祉を展開する組織について知る。</p>	<p>4時間</p> <p>復習：振り返りシートの作成 予習：テキストの該当箇所（P41～56）を読んでおく。子育て支援についてのニュースなどを一つ以上メモしておく。</p>
第4回	<p>子ども福祉</p> <p>子どもを取り巻く社会状況について知り、子どもの健やかな育ちを保障するための施策について理解を深める。</p>	<p>4時間</p> <p>復習：振り返りシートの作成 予習：テキストの該当箇所（P57～72）を読んでおく。障害のある人のくらしや福祉に関する新聞記事やネットニュースを一つ以上メモしておく。</p>
第5回	<p>障害者福祉 障害者福祉の理念や基本的な考え方を学ぶ。</p> <p>現在の障害者福祉施策について知る。</p>	<p>4時間</p> <p>復習：振り返りシートの作成 予習：テキストの該当箇所（P73～85）を読んでおく。高齢者介護や医療、くらしなどに関する新聞記事やネットニュースを一つ以上メモしておく。</p>
第6回	<p>高齢者福祉</p> <p>少子高齢化が進む現状を理解し、高齢者を支援する制度・政策を知り、課題を見極め、その在り方を整理する。</p>	<p>4時間</p> <p>復習：振り返りシートの作成 予習：テキストの該当箇所（P86～102）を読んでおく。高齢者福祉の制度などについて、新聞記事やネットニュースから一つ以上メモしておく。</p>
第7回	<p>介護保険制度と専門職の役割</p> <p>介護保険制度創設の経緯と概要を理解し、介護サービス提供を担う専門職について学び、チームアプローチの方法を知る。</p>	<p>4時間</p> <p>復習：振り返りシートの作成 予習：テキストの該当箇所（P103～116）を読んでおく。社会問題である貧困についての関連記事を新聞やネットニュースなどから一つ以上メモしておく。</p>
第8回	<p>低所得者福祉</p> <p>社会福祉における低所得者に対しての制度的内容について学び、現代の社会的問題である「貧困」との関連性についても理解を深める。</p>	<p>4時間</p> <p>復習：振り返りシートの作成 予習：該当箇所（P117～131）を読んでおく。自分の周囲で活動している地域福祉のボランティアについて、調べてメモしておく。</p>
第9回	<p>地域福祉とその推進方法</p> <p>地域福祉について知り、これからの地域福祉の推進について理解を深める。</p>	<p>4時間</p> <p>復習：振り返りシートの作成 予習：テキストの該当箇所（P132～143）を読んでおく。精神保健福祉士が働いている職場はどのようなところがあるか、一つ以上メモしておく。</p>
第10回	<p>医療福祉</p> <p>医療福祉とは何かについて学び、医療についての社会制度について知る。</p>	<p>4時間</p> <p>復習：振り返りシートの作成 予習：テキストの該当箇所（P144～158）を読んでおく。精神保健福祉士が働いている職場はどのようなところがあるか、一つ以上メモしておく。</p>
第11回	<p>精神保健福祉</p> <p>精神障害者の定義と取り巻く状況について学ぶ。関連する法制度について理解する。</p>	<p>4時間</p> <p>復習：振り返りシートの作成 予習：テキストの該当箇所（P160～170）を読んでおく。自分の周囲にある社会福祉施設はどのようなものがあるか、一つ以上メモしておく。</p>
第12回	<p>社会福祉施設の役割</p> <p>公的福祉施策を中心であった日本の社会福祉であるが、「地域福祉の推進」のもと大きく方向転換している。施設の体系について知り、民間社会福祉施設との関係を整理する。</p>	<p>4時間</p> <p>復習：振り返りシートの作成 予習：テキストの該当箇所（P171～180）を読んでおく。社会福祉専門職のうち、自分の関心のある専門職についての新聞記事やネットニュースを一つ以上メモしておく。</p>

第13回	社会福祉を担う人々	社会福祉事業に携わる専門職やその関連の専門職、地域での人的資源などについて知り、職種、仕事内容、資格制度について学ぶ。	復習：振り返りシートの作成 予習：テキストの該当箇所（P181～192）を読んでおく。相談援助に関する新聞記事やネットニュースを一つ以上調べてメモしておく。	4時間
第14回	社会福祉の実践事例：医療ソーシャルワーカーと多職種連携	医療ソーシャルワーカーを中心とした実践事例を知り、多職種との連携における支援について学ぶ。	復習：振り返りシートの作成 予習：テキストの該当箇所（P202～209）を読んでおく。これまで学んだ社会福祉問題から、自分が一番関心をもった問題について調べて現状をメモしておく。	4時間
第15回	社会福祉を巡る課題とコメディカルに期待される役割	社会福祉に関する諸問題についてのまとめと今後の福祉従事者の担う役割について考える。	復習：振り返りシートの見直し、前期での学習内容を復習する。	4時間

授業科目名	暮らしと経済				
担当教員名	朝田康禎				
学年・コース等	1	開講時期	前期・後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「可」

授業概要

この講義では日常の暮らしにおいて経済活動がどのように関わっているかを入門経済学的な視点、主にマクロ経済学の考え方を中心に解説します。日常の暮らしの中に経済活動がどのように関わっているかを知ること、経済学の基礎的な考え方を学ぶことができます。そのことによつてニュース、新聞、書籍などに出てくる経済の話題を身近に感じることができるとともに、社会と経済がどのように関係しているかを理解できるようになることを目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

社会人としての必要な経済学的知識と教養

目標：

新聞やニュースなどの情報を理解し、社会生活に役立てることができる。

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見

毎回配布した資料から、社会生活における課題を発見し検討できるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

中間レポート

評価の基準

： 授業内容に関するレポートを1回課します。授業内でレポートの作成方法と評価方法を説明しますので、その基準に沿って評価します。

40%

期末試験

： 各回の授業内容からまんべんなく出題し、授業で説明したことに対する理解度を評価します。

60%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献は授業内で適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。毎日のニュースには経済に関するさまざまな話題が報じられています。どのような見方をすれば、経済の話題を見つけることができるか授業内で説明しますので、身近なニュースを知るように心がけてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後に対応します。

場所： 非常勤講師控室

備考・注意事項： 担当教員は非常勤講師ですので、授業の前後か、授業終了後、非常勤講師控室において質問に対応します。

授業計画

授業外学修課題にかかるとする目安の時間

第1回	ガイダンス・経済学とは この講義の進め方、予習復習の仕方を説明します。身近なニュースの中に経済の話題がどれだけあるか、どのようなニュースを見ると経済の話題を見つけることができるのかを説明します。	普段接しているニュースの中で経済の話題とはどのようなものがあるのか考えておくこと。	4時間
第2回	付加価値とは何か 経済学の最も重要な考え方は付加価値という概念です。身近な経済活動の中で付加価値とはどういうものなのか、財とサービスとはどういう意味なのか説明します。	商品を製造すると、なぜ利益が生まれるのか考えておくこと。	4時間
第3回	国内総生産を知ろう 付加価値と並んで経済学の最も重要な概念が国内総生産（GDP）です。付加価値と国内総生産の関係、国内総生産の三面、経済成長率の計算方法について説明します。	日本の国内総生産がどれくらいの規模か、どのような項目で成り立っているのか考えておくこと。	4時間
第4回	どうすれば景気は良くなるのか 景気に変化する仕組みはどうなっているのか、景気に変化することで私達の生活にどのような影響があるのか説明します。	商品やサービスがよく売れるのはどのような時か、売れないのはどのような時か考えておくこと。	4時間
第5回	インフレ・デフレとは何だろう 物価変動を意味するインフレとデフレについて、インフレ・デフレが私達の生活にどのような影響を与えるのか説明します。	昔に比べて値段が大きく変化したと思う商品にはどんなものがあるか考えておくこと。	4時間
第6回	貨幣の仕組み 貨幣とは現金だけでなく、様々な種類があること、また貨幣の流通とリスクの関係を説明します。	現金以外に貨幣と同じような働きをするものにはどんなものがあるか考えておくこと。	4時間
第7回	金融政策の仕組み 金融政策とはどのようなものであるか、また日本銀行と民間銀行の関係はどうなっているか、個人や企業と銀行の関係はどうなっているのか説明します。	自分がお金をどのようなところに預けたり、引き出したりしているかを考えること。	4時間
第8回	財政政策の仕組み 財政政策とはどのようなものか、その中で公共投資がどのようなもので、景気にどう影響するか、公共投資の効果が薄れてきている理由を説明します。	政府が整備する公共のものにどんなものがあるか考えておくこと。	4時間
第9回	日本の財政を知ろう 日本の財政の現状と赤字財政について、国債とはどのようなものか、なぜ日本は財政赤字が増大するのか説明します。	日本の財政の現状がどうなっているか考えておくこと。	4時間
第10回	経済効果はどう測るのか 経済効果の具体的な意味、経済効果の測定方法、身近な生活の中で活動と経済効果の関係がどうなっているか説明します。	身近な所でのイベントや行事がどのように経済効果を生み出すか考えておくこと。	4時間
第11回	なぜ外国人観光客は急増しているのか ニュースでよく見る外国人観光客の急増がなぜ生じたのか、世界における国際関係の現状はどうなっているのか、観光が経済に与える影響について説明します。	外国人観光客は日本にどのような関心があるのか、逆に日本人は世界のどんな観光に関心があるのか考えておくこと。	4時間
第12回	観光で賑わう大阪・関西 急増する外国人観光客は特に大阪・関西に多く訪れています。なぜ大阪・関西が外国人観光客に人気があるのか、外国人観光客の急増が関西経済にどのような影響を与えるのか説明します。	なぜ外国人観光客は大阪・関西に多く来るのか考えておくこと。	4時間
第13回	都市と経済 近年、東京を中心とする都市圏への人口集中が進んでいます。なぜ都市に人口は集中するのか、企業の経済活動は都市の方が有利なのはなぜか説明します。	東京を中心とする都市に人口が集まるのはなぜか考えていくこと。	4時間
第14回	都市と文化 都市に人口や企業が集まるのは経済的な理由だけではなく、文化的な理由が密接に関係します。都市と文化の関係を説明します。	都市にはどのような魅力があって人々が集まるのか考えておくこと。	4時間
第15回	まとめ この講義を通して暮らしと経済にはどのような関係があるのか需要ポイントを説明します。	この授業を通して身近な暮らしの中で経済がどれだけ関わっているか考えておくこと。	4時間

授業科目名	日本の風土と文化				
担当教員名	佐伯暁子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業では、①日本の風土や文化について学び理解を深めるとともに、②日本や母国、他の留学生の母国との比較を行うことで、広い視野に立って考察できるようになることを目指す。また、③母国について紹介し、意見交換することによって、自分の意見を正確に伝えることができ、④他の人の発表を聞いて、主張を正確に把握できるようになることを目的とする。全15回のうち、第5回、第14回には講義内容を踏まえた発表や議論を取り入れる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

日本の風土・文化の理解

目標：

日本の風土や文化を理解した上で、自身の考えを述べることができる。

汎用的な力

- 1 . DP8. 意思疎通
- 2 . DP4. 課題発見

他人の意見を踏まえて日本の風土や文化に関する自分の意見を伝えることができる。

日本や母国の風土や文化について、自分なりの問題意識を持つことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

発表	30%	: 発表(第5回・14回)について、各回15点で評価し、合計30点とする。内容(授業内容を踏まえているか、日本と母国を比較し考察しているか、自分の意見を示しているか)、発表技術、発表時間の点から評価する。
小レポート	30%	: 授業内容を踏まえて書かれているか、日本と母国を比較し考察したことが書かれているか、自分の意見が書かれているか、構成、表現の点から、各回15点で評価し、合計30点とする。
定期試験	40%	: 日本の風土や文化に関する理解度について40点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- ・「日本事情」プロジェクト『話そう考えよう初級日本事情』（株式会社高山、2013年）
- ・国際交流基金『国際交流基金 日本語教授法シリーズ 第11巻「日本事情・日本文化を教える」』（ひつじ書房、2014年）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日3限 (13:00-14:30)

場所： 西館5階研究室

備考・注意事項： その他連絡をとりたい場合はEメールで（アドレス：saiki@osaka-seikei.ac.jp）。Eメールには氏名と学籍番号を必ず入れること。

授業計画		授業外学修課題にかかると見込まれる時間
第1回	オリエンテーションー日本の風土と文化とはー 「日本の風土と文化」の目的と全体的な計画を学ぶ。また、日本の風土と文化の概要について学ぶ。	タスク「知っていますか」に取り組む。 4時間
第2回	地理（1）国土、山と川 日本の国土、山と川について学び、基本的な日本の地理についての理解を深める。	新出語彙を覚える。タスク「書きましょう」「考えましょう」「知っていますか」に取り組む。 4時間
第3回	地理（2）気候、日本の一年 日本の気候、年中行事について学び、基本的な日本の地理についての理解を深める。	新出語彙を覚える。タスク「書きましょう」「考えましょう」に取り組む。 4時間
第4回	地理（3）人口 日本の人口について学び、基本的な日本の地理についての理解を深める。	新出語彙を覚える。 4時間
第5回	地理のまとめ 母国と比較しながら、日本の地理について考えたことをまとめて発表する。	発表内容を小レポートにまとめる。 4時間
第6回	社会（1）衣服 日本の衣服について学び、基本的な日本の社会生活についての理解を深める。	新出語彙を覚える。タスク「書きましょう」「話しましょう」に取り組む。 4時間
第7回	社会（2）住居 日本の住居について学び、基本的な日本の社会生活についての理解を深める。	新出語彙を覚える。タスク「書きましょう」に取り組む。 4時間
第8回	社会（3）出生率と平均寿命、ライフ・サイクル 日本の出生率と平均寿命、ライフ・サイクルについて学び、基本的な日本の社会生活についての理解を深める。	新出語彙を覚える。タスク「書きましょう」「考えましょう」「知っていますか」に取り組む。 4時間
第9回	社会（4）結婚と離婚、タスク「話しましょう」 日本の結婚と離婚について学び、基本的な日本の社会生活についての理解を深める。 タスク「話しましょう」のトピックについて話し合う。	タスク「話しましょう」のトピックについて意見をまとめる。 4時間
第10回	社会（5）日本人の一日、便利さとゆとり 日本人の一日、日本の便利さとゆとりについて学び、基本的な日本の社会生活についての理解を深める。	新出語彙を覚える。 4時間
第11回	社会（6）教育、労働と賃金 日本の教育、労働と賃金について学び、基本的な日本の社会生活についての理解を深める。	新出語彙を覚える。タスク「考えましょう」「知っていますか」に取り組む。 4時間
第12回	社会（7）貯蓄 日本人の貯蓄について学び、基本的な日本の社会生活についての理解を深める。	タスク「考えましょう」に取り組む。 4時間
第13回	社会（8）タスク「話しましょう」 タスク「話しましょう」のトピックについて話し合う。	タスク「話しましょう」のトピックについて意見をまとめる。 4時間
第14回	社会のまとめ 母国と比較しながら、日本の社会について考えたことをまとめて発表する。	発表内容を小レポートにまとめる。 4時間
第15回	「日本の風土と文化」まとめ 本授業を履修して日本に対する考え方がどのように変化したのか考える。	振り返りシートを完成させる。 4時間

授業科目名	美学				
担当教員名	田中美子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義中心に進めます。写真（OHP使用）や音楽（CD使用）、DVD、芸術性の高い絵本などをたくさん紹介します。ノートを用意してください。				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「可」

授業概要

「美学」は「哲学」です。絵画（絵本も含む）、音楽、舞台芸術、遺跡、自然美などの具体的な作品を紹介しながら、その「美（すばらしさ、すごさ、かつこうよさ、おもしろさなど）」を、言葉にして考えます。すこし難しい言葉も登場しますが、何度も授業に参加しているうちに、そうした言葉が自分でも使えるようになってきます。すぐに諦めてしまわずに、がんばってみてください。また今年度は、日本の伝統的な文化についても、多めに紹介する予定です。海外に友人や仕事仲間を増やしたい人には、とくにおすすめしたいと思います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

日本的感性の自覚

目標：

日本人によくあるものの見方や感じ方を、他の国や地域と比較しながら、理解できる。

汎用的な力

- 1 . DP8. 意思疎通
- 2 . DP10. 忠恕の心

自分の関心を、他の人に向けて、分かりやすく説明できる。

他の人の発表をしっかりと聞いたり、それに対して関心を持ったりすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

振り返りシートの提出

： 授業の内容の「まとめ」と「考察」が、ともに書けていること。
60%

学期末試験（発表・レポート）

： 自分の関心を他の人に向けて分かりやすく発表し、その内容（発表原稿）をレポートとして定期試験期間中に提出すること。
40%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- 今道友信『美について』（講談社現代新書）
 佐々木健一『美学辞典』（東京大学出版会）
 小穴晶子『なぜ人は美を求めるのか』（ナカニシヤ出版）
 田中久文『日本美を哲学する』（青土社）
 増田正造『能の表現』（中公新書）
 増田正造『世阿弥の世界』（集英社新書）
 出川直樹『人間復興の工藝』（平凡社ライブラリー）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

- 時間： 授業の前後
 場所： 授業の教室

備考・注意事項： 授業の前後以外で質問したいときは、自宅の電話にて受け付けます(9:00-21:00)。番号は、改めてお伝えします。

授業計画		授業外学修課題にかかるとの自安の時間
第1回	<p>美という理想</p> <p>美学は哲学です。哲学は真善美といった理想について考える学問です。</p>	<p>美は真や善とどのように違うのか、授業ノートをまとめなおしたり、参考文献を読みながら、考えましょう。</p> <p>4時間</p>
第2回	<p>ミメシス（模倣的再現）</p> <p>この世にありそうでない理想を表現することについて、考えます。</p>	<p>身のまわりにミメシス的な表現がないか、授業ノートをまとめ直しながら、考えましょう。</p> <p>4時間</p>
第3回	<p>リアリズム（写実主義）</p> <p>この世にある美を表現することについて、考えます。</p>	<p>身のまわりにリアリズム的な表現がないか、授業ノートをまとめ直しながら、考えましょう。</p> <p>4時間</p>
第4回	<p>エクスペリオン（表現、表出）</p> <p>個人の内面を表現することについて、考えます。</p>	<p>身のまわりにエクスペリオン的な表現がないか、授業ノートをまとめ直しながら、考えましょう。</p> <p>4時間</p>
第5回	<p>ディスカッション</p> <p>さまざまな表現が、ミメシス、リアリズム、エクスペリオンのどれに当てはまるかを、一緒に考えます。</p>	<p>三つの表現の違いについて、まとめ直しておきましょう。他の人の意見と、それに対する自分の意見も、まとめ直して、ノートに記録しておきましょう。</p> <p>4時間</p>
第6回	<p>西洋の美、東洋の美</p> <p>西洋の美意識と、東洋の美意識の違いを、それぞれの風土から考えます。</p>	<p>授業ノートをまとめ直したり、参考文献を読み直して、それぞれの美意識の違いを考え直しましょう。</p> <p>4時間</p>
第7回	<p>能の表現</p> <p>日本的な表現の特徴を、能から考えます。</p>	<p>能について、調べてみましょう。また、映像資料などがあれば、見てみましょう。</p> <p>4時間</p>
第8回	<p>狂言の表現</p> <p>能と比べながら、狂言を紹介します。</p>	<p>狂言について調べてみましょう。また、映像資料などがあれば、見てみましょう。</p> <p>4時間</p>
第9回	<p>折り紙にかくされた思想</p> <p>日本独自の遊びである折り紙の歴史をひもときながら、折り紙に込められた思想を紹介します。</p>	<p>授業ノートをまとめ直しながら、折り紙と能や狂言の共通性を探してみよう。折り紙で遊んでみましょう。</p> <p>4時間</p>
第10回	<p>ディスカッション</p> <p>日本の伝統芸能などについて、自分の知っていることを、挙げてみましょう。どのようなところが良い（美しい）か、意見を出し合ってみましょう。</p>	<p>他の人の意見と、それに対する自分の意見をまとめ直し、授業ノートに記録しておきましょう。</p> <p>4時間</p>
第11回	<p>芸術の力（西洋）</p> <p>芸術が人生の力になることを、旧約聖書から考えます。</p>	<p>授業ノートをまとめ直しながら、美や芸術に自分がはげまされた経験を思い返してみよう。</p> <p>4時間</p>
第12回	<p>芸術の力（東洋）</p> <p>芸術が大切にされてきたことを、孔子の思想から考えます。</p>	<p>授業ノートをまとめ直しながら、社会のなかで美や芸術がもつ力や役割について考えてみましょう。</p> <p>4時間</p>
第13回	<p>「美しい」と「きれい」</p> <p>「美しい」とたんなる「きれい」の違いを考えます。</p>	<p>自分にとって、「美しい」と「きれい」なもの、その違いに注意しながら考えてみましょう。</p> <p>4時間</p>
第14回	<p>学生による発表（前半）</p> <p>自分にとっての美（いいと思うもの）について、発表しましょう。</p>	<p>自分の発表の準備をするとともに、他の人の発表を授業ノートに記録しておきましょう。</p> <p>4時間</p>
第15回	<p>学生による発表（後半）</p> <p>自分にとっての美（いいと思うもの）について、発表しましょう。</p>	<p>自分の発表の準備をするとともに、他の人発表を授業ノートに記録しておきましょう。</p> <p>4時間</p>

授業科目名	暮らしと金融				
担当教員名	新規非常勤				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「可」

授業概要

経済活動において金融が果たす役割は極めて重要であり、それは企業のみならず、皆さんの日々の生活（物価、海外旅行）や人生設計（結婚・出産、住宅ローン、預貯金、保険、年金、）にも影響を与えうるものです。これからの人生を生きるうえで、資金計画を検討する機会があるため、金融に関する知識は必須と言えるでしょう。そこで、本講義では、金融システム、金融機関の役割、金融商品などについて、その構造と概要を理解するとともに、社会生活（仕事や生活）に応用する基礎力を習得します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1．DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

金融論領域の基礎的知識に関する理解

目標：

金融機関の役割や金融商品の概要について理解し説明することができる。

汎用的な力

- 1．DP4. 課題発見
- 2．DP5. 計画・立案力

金融に関するニュースをもとに、その現状と課題を理解することができる。

人生において今後必要となる資金準備に関する大まかな計画を自身で設計することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内課題	20%	： 各回の講義について、金融に関する知識と問題意識の有無を確認する課題を出すので、その理解度を評価する。
小課題	20%	： 資金計画に関する理解度を0～20点で評価する。
定期試験	60%	： 金融商品、政府が展開する社会保険制度等の概要についての理解度を評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要があれば、講義内で適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日午前中

場所： 非常勤講師室ならびに345教室

備考・注意事項： 授業終了後、非常勤講師室で質問を受け付けます。また、メールアドレスを教えるので、メールによる質問も受け付けます。

授業計画			授業外学修課題にかかるとの目安の時間
第1回	講義概要、授業計画、成績評価基準の解説およびテキスト指示について 講師の紹介を行う。今後の講義の進め方と、金融の知識が必要とされている現状とその重要性について学ぶ。	経済新聞を読み、金融問題を収集してくる。講義中に紹介するテキストの該当部分の通読。	4時間
第2回	あなたの将来の暮らしは大丈夫か？（1）－人生設計と必要になるお金の話；結婚・出産・子育てを中心に－ 将来の資金設計の概念整理を行ったうえで、結婚・出産・子育て（生活費）について、どのような支出項目があり、どの程度の資金が必要になってくるかについて学ぶ。	自身の人生設計と必要資金のシートの作成・その1	4時間
第3回	あなたの将来の暮らしは大丈夫か？（2）－人生設計と必要になるお金の話；子育て・住宅ローンを中心に－ 将来に必要な資金計画のうち、子育て（学資）について、学資保険や教育ローンの知識について学ぶ。人生で最大の買い物と言われる住宅購入時に活用することになる、住宅ローンの概要について学習する。	自身の人生設計と必要資金のシートの作成・その2	4時間
第4回	あまっただのお金の活かし方－間接金融と直接金融の長所と短所について－ お金が余った主体から、お金が不足する主体へ資金を融通することを金融というが、その形態には2種類存在する。それぞれの金融形態の概要を学ぶとともに、メリット・デメリットも学ぶ。	直接金融・間接金融に関する課題への取り組み。講義中に紹介するテキストの該当部分の通読	4時間
第5回	なぜ紙切れ（お札）でモノが買えるのか？－貨幣の3つの機能、貨幣の歴史、電子マネーについて－ 現代の人間社会では、なぜ紙切れでモノを購入することができるのだろうか。そもそもお金（貨幣・紙幣）とは、どのような価値があるのだろうか。貨幣の歴史と機能を学びながら、貨幣の役割について学習する。	電子マネーがもつメリット・デメリットについて課題に取り組む。	4時間
第6回	銀行窓口の“ウラガワ”－銀行の種類と役割、金融仲介・信用創造・決済－ 金融を担う主体の1つである「銀行」について、その種類、機能について学習する。また、銀行が果たす機能の1つである決済業務の中から、小切手決済や手形決済についても学習する。	授業で配布する、手形・小切手決済に関する課題に取り組む	4時間
第7回	人生のリスクについて考えてみよう！（1） 損害保険 金融を担う主体の1つである「損害保険」について、その取扱い商品の機能、保険料決定のメカニズム等について学習する。また、リスクを低減させたり、分散させたり、回避することについての概念の整理も行う。	授業で紹介するテキストの該当部分の通読および練習問題の取り組み	4時間
第8回	人生のリスクについて考えてみよう！（2） 生命保険 金融を担う主体の1つである「生命保険」について、その取扱い商品の機能、保険料決定のメカニズム等について学習する。生命保険では、健康状態や職業についての「告知義務制度」が存在し、その意義と重要性についても学ぶ。	授業で紹介するテキストの該当部分の通読	4時間
第9回	銀行にお金を預けるだけじゃモッタナイ！？－証券市場の概要；証券取引所、株式と債券、発行市場と流通市場－ 金融を担う主体の1つである「証券会社」について、その業務内容を学ぶ。また、証券（株式・債券）の概要と、それらを取り扱う証券市場・証券取引所についても学習する。債券については、「債券格付け」の意義についても学習する。	授業で紹介するテキストの該当部分の通読	4時間
第10回	株式会社ってなんだろう？－株式会社の仕組み、株式と権利－ 証券の中でも、株式についてより掘り下げて学習を進める。具体的には、株式会社の機関構造と株式に与えられた法的な権利について学習する。多くの学生が卒業後、なんらかの会社（株式会社であることが圧倒的に多い）で働くうえで、そのメカニズムを学ぶことは重要となる。	授業で紹介するテキストの該当部分の通読。講義で指定する株式銘柄の株価動向の調査。	4時間
第11回	なぜ、ファッションブランドは高いのか？－外国為替相場と外貨建預金について－ ブランド品の価格の仕組みを外国為替相場と外貨の取引の概要（取引所、為替手数料、為替リスク等）の観点から学習することで、なぜブランド品は高いのかを学ぶ。外貨建金融商品のメリット・デメリット、為替の変動要因等についても学習する。	授業で紹介するテキストの該当部分の通読。講義で指定する通貨の為替相場動向の調査	4時間
第12回	人生の思わぬ落とし穴に備えよう（1） 労働保険 民間保険会社が展開する保険ではなく、政府が展開する公的な社会保険のうち労働保険（労災保険・雇用保険）について学習する。	授業で紹介するテキストの該当部分の通読。配布する正誤問題への取り組み。	4時間
第13回	人生の思わぬ落とし穴に備えよう（1） 健康保険 民間保険会社が展開する保険ではなく、政府が展開する公的な社会保険のうち健康保険（健康保険、国民健康保険、後期高齢者医療費制度）の概要を学ぶ。あわせて、介護保険制度についても学習する。	授業で紹介するテキストの該当部分の通読。配布する正誤問題への取り組み。	4時間
第14回	フリーターは圧倒的に損！？－公的年金制度の概要－ 職業別に所属する基金が異なる「年金」について、その機能と制度概要について学習する。年金制度は、老後の生活だけでなく、障害年金や遺族年金といった側面も合わせもつことを理解することが重要である。	授業で紹介するテキストの該当部分の通読。	4時間
第15回	公的年金制度の補論、講義内容の総括 第14回の公的年金制度について、言及しきれない部分の解説を行う。これまでの講義内容について、各回の重要トピックを中心に触れる形で、おさらい学習を行う。	講義への理解を問う小課題への取り組み	4時間

授業科目名	アジアの未来と日本				
担当教員名	全 惠松				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	専門通訳家として、日韓の歴史関連・大衆文化等を日韓メディア媒体に幅広く紹介。(第4回、7回、10回～13回)				

開放科目の指示：「可」

授業概要

韓国をはじめとするアジア諸国の親しみやすいキーワードを通して、文化、習慣、生活をわかりやすく紹介し、アジアに対する理解の幅を広げ、将来、関連業界で活躍できるよう異文化コミュニケーション能力の基礎を身につけることを目的とする。なお、授業で取り上げるアジア関連のキーワードについて、学生自らがまず関連情報や資料を集め、ペアワークを通して互いの意見を考え、二人で協力し一枚のレポートを毎回提出することによって「物の見方」の理解力をより深化させることを目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

アジア諸国の社会と文化に関する知識

目標：

アジア諸国の親しみやすいキーワードから一歩踏み込んだ歴史的・社会的な背景に触れることにより異文化に対する理解を幅を広げることができる。

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見
- 2 . DP5. 計画・立案力
- 3 . DP8. 意思疎通

アジア関連のキーワードについて、日本の文化と比較して説明できる。

様々な情報から必要な情報入手し、組み立て、わかりやすく伝えることができる。

与えられたアジア関連のキーワードについて、毎回、ペアで情報を収集しレポートにまとめることによって、協力することと相手の違う考えを理解することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ ディベート、討論
- ・ その他(以下に概要を記述)

授業は、まず、準備してきた課題をペアワークでレポートにまとめる(30分)→授業(40分)→授業を参考にペアレポートを補充し提出/テーマによってはペア発表やディベートもあり(20分)*4色ボールペンを準備すること。

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内ペアワークレポート15回	50%	授業内におけるペアワークへの積極的な参加、ペアレポートのわかりやすさについて50点満点で評価する。
受講状況	20%	課題準備や授業態度(私語や携帯電話等の授業の妨げになる場合は減点)を独自のルーブリックを基に評価する。
期末レポート	30%	期末試験として、15回の授業の中から最も興味があったテーマを選び、レポートを提出する。学園共通ルーブリックに基づいて評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
また、ペアワークのための予習を重視する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： その他連絡を取りたい場合はEメールで (snoopyk11@naver.com)。Eメールには氏名と学籍番号を必ず入れること。

授業計画

			授業外学修課題にかかると目安の時間
第1回	オリエンテーション（アジア文化のイメージをつかむ） ①講師紹介を行う。②授業の進め方について説明を行う。③学生たちのアジアのイメージからキーワードを取り出し、今後授業で行うペアワークの予行練習を実施する。	次回授業のテーマである「餅」について、日本とアジアにおける関連情報を収集し、もっとも興味をもった内容をまとめる。	4時間
第2回	「餅」 ①アジア諸国の代表的な食べ物として昔から今まで食べている「餅」について取り上げる。特に儀礼と餅の関係について映像等を交えて説明を行う。②各自準備してきた情報および資料を用いてペアワークを行い、一枚のレポートにまとめ提出する。	次回授業のテーマである「茶」について、日本とアジアにおける関連情報を収集し、もっとも興味をもった内容をまとめる。	4時間
第3回	「茶」 ①第1回に続き、アジアの食文化として「茶」を取り上げる。インド・中国の茶の始まりから茶の移動について説明し、アジア諸国に根付いてきた茶の文化について紹介する。②各自準備してきた情報および資料を用いてペアワークを行い、一枚のレポートにまとめ提出する。	次回授業のテーマである「市場」について、日本とアジアにおける関連情報を収集し、もっとも興味をもった市場についてまとめる。	4時間
第4回	「市場」 ①アジアを旅する際にもっとも人気のある場所である「市場」について、アジア諸国の市場を取り上げ、受講生たちによる観光資源として市場についての考えを交えながら、その歴史的な背景とともに紹介する。②各自準備してきた情報および資料を用いてペアワークを行い、一枚のレポートにまとめ提出する。	次回授業のテーマである「アジアの信仰」について、特に仏教を中心に日本とアジアにおける関連情報を収集し、もっとも興味をもった内容をまとめる。	4時間
第5回	「アジアの信仰」 ①「観音菩薩」は、大乘仏教が伝わった中国、台湾、日本、韓国、ベトナムにおいて古代より広く信仰を集めている。ここでは各国の観音菩薩信仰について詳細な紹介を行い、東アジアの宗教観について考えたい。②各自準備してきた情報および資料を用いてペアワークを行い、一枚のレポートにまとめ提出する。	次回授業のテーマである「社会貢献する宗教」について、日本とアジアにおける関連情報を収集し、もっとも興味をもった市場についてまとめ提出する。	4時間
第6回	「社会貢献する宗教」 ①主に、台湾と韓国の尼僧の社会福祉活動の現状を紹介し、社会におけるその影響力について考える。②各自準備してきた情報および資料を用いてペアワークを行い、一枚のレポートにまとめ提出する。	次回授業のテーマである「韓流ドラマと日本の町おこし」について、関連情報を収集し、もっとも興味をもった場所についてまとめる。	4時間
第7回	「韓流ドラマと日本の町おこし」 ①ここでは観光資源として「町おこし」の事例を取り上げる。とりわけドラマや映画の撮影地として使われた場所がSNS等を通して話題となり、アジアから多くの観光客を誘致することによって町おこしに繋がったケースを説明する。②各自準備してきた情報および資料を用いてペアワークを行い、一枚のレポートにまとめ提出する。	次回授業のテーマである「今、アジアの映画がおもしろい！」について、まずその①台湾の映画について関連情報を収集し、もっとも興味をもった内容をまとめる。	4時間
第8回	「今、アジアの映画が面白い！」 その①台湾映画 ①近年、アジア諸国主催の映画祭が増え、非常に面白い映画を多数制作している。授業では特に人気を集めている台湾の主要作品と監督を紹介する。②各自準備してきた情報および資料を用いてペアワークを行い、一枚のレポートにまとめ提出する。	次回授業のテーマである「今、アジアの映画がおもしろい！」について、その②インドの映画について関連情報を収集し、もっとも興味をもった内容をまとめる。	4時間
第9回	「今、アジアの映画が面白い！」 その②インド映画	次回授業のテーマである「K-Beauty」について、関連情報を収集し、もっとも興味をもった内容をまとめる。	4時間

	<p>①近年、アジア諸国主催の映画祭が増え、非常に面白い映画を多数制作している。授業では特に人気を集めているインドの主要作品と監督を紹介する。 ②各自準備してきた情報および資料を用いてペアワークを行い、一枚のレポートにまとめ提出する。</p>		
第10回	<p>「K-Beauty」</p> <p>①従来フランスが主導権をとっていた化粧品産業が、今は韓国、日本、中国を中心とするアジアに移行している。特に、韓国は「美」に対する拘りが強い。ここではアジア諸国の女性の社会進出の背景を踏まえながら、とりわけ、韓国社会における「美」意識を就職競争に結び付けて考えたい。 ②各自準備してきた情報および資料を用いてペアワークを行い、一枚のレポートにまとめ提出する。</p>	<p>次回授業のテーマである「K-POPと韓国の教育」について、関連情報を収集し、もっとも興味をもった内容をまとめる。</p>	4時間
第11回	<p>「K-POPと韓国の教育」</p> <p>①今では大衆文化のコンテンツとして定着したK-POPは日本の若者の間にも非常に関心が高い。ここではK-POPの概要を説明し、その背景として密接に関係している韓国の教育事情について説明する。 ②各自準備してきた情報および資料を用いてペアワークを行い、一枚のレポートにまとめ提出する。</p>	<p>次回授業のテーマである「アジアの世界遺産」について、関連情報を収集し、もっとも興味をもった内容をまとめる。</p>	4時間
第12回	<p>「アジアの世界遺産」</p> <p>①世界遺産について説明を行い、まず、アジアの世界遺産と日本の世界遺産また日韓共同の世界遺産の例を取り上げ詳しく紹介する。アジアの世界遺産については学生の発表を交えながら授業を進める。 ②各自準備してきた情報および資料を用いてペアワークを行い、一枚のレポートにまとめ提出する。</p>	<p>次回授業のテーマである「日本の漫画」について、日本とアジアにおける関連情報を収集し、もっとも興味をもった内容をまとめる。</p>	4時間
第13回	<p>「日本の漫画・アニメ」</p> <p>①韓国、台湾、中国の若者を中心に日本語の人気の増えている。その背景には日本の漫画の影響があり、日本語学習に留まらず日本への旅行・留学へと繋がっている。ここではアジアの若者にもっとも人気のある日本の漫画を紹介するとともにインタビュー資料を通して日本の漫画の魅力について考えたい。 ②各自準備してきた情報および資料を用いてペアワークを行い、一枚のレポートにまとめ提出する。</p>	<p>①前回の授業内容およびペアワークのレポートを踏まえながら英語教育について自分の考えをまとめる。 ②最終課題として、今までの授業でやってこられた方法を用いて、自らアジア関連のキーワードを決め、情報を収集し、伝わりやすい内容にまとめ提出する。</p>	4時間
第14回	<p>「英語教育」</p> <p>①韓国の国営放送局が製作した「韓国人と英語」というドキュメンタリーを紹介し、英語勉強に苦悩しながらも海外志向が強い韓国の若者について、学生たちの討論を交えながら考えたい。 ②各自準備してきた情報および資料を用いてペアワークを行い、一枚のレポートにまとめ提出する。</p>	<p>次回授業のテーマである「お一人様について、関連情報を収集し、もっとも興味をもった内容をまとめる。</p>	4時間
第15回	<p>「お一人様」</p> <p>①「ホンバブ(一人ご飯)」、「ホンスル(一人酒)」は、最近、韓国で一般的に定着した日本での「お一人様」にあたる新語である。このような言葉を手掛かりに韓国の社会の家族形態の変化、高齢化の問題について考えたい。 ②各自準備してきた情報および資料を用いてペアワークを行い、一枚のレポートにまとめ提出する。</p>	<p>最終課題として、自らアジアと関連するキーワードを決め、情報を収集し、相手にわかりやすく伝えるようまとめる。</p>	4時間

授業科目名	人権と社会				
担当教員名	石井基博				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「可」

授業概要

様々な人権問題の考察を通じて、人権（差別問題）についてのより高い問題意識を持つとともに、社会的責任力と倫理的判断力を養い、社会の一員として差別のない社会に向けて実践的に取り組めるようになることが、この科目の目標です。この授業では、前半で「人権」の基本的な意味や日本国憲法における人権規定とその実際上の問題点について理解を深めます。後半では、現代の主要な人権の問題について、人権の歴史をふり振り返りながらその知識と課題を理解・修得し、人権（差別）問題について私たち自身の問題として考えていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

人権（差別）問題に関する知識と課題

目標：

人権（差別）問題についてより高い問題意識と倫理的判断力を身につけることができる。

汎用的な力

- 1 . DP5. 計画・立案力
- 2 . DP6. 行動・実践
- 3 . DP8. 意思疎通

人権問題・差別をなくすためにどのように取り組めばよいかを考え、自らの提案・具体策を提示できる。

人権の視点から、現代社会の文化・制度を理解でき、社会の一員として差別のない社会の形成に貢献できる。

相手の意見・考え方を理解できるとともに、自分の見解を適切な表現力・記述力で表明できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・その他(以下に概要を記述)

ワークシートによる小テスト（および次回の課題としての不正解問題の練習）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

定期試験	60%	: 授業で取り上げたテーマについて人権の知識・教養を用いて説明し、かつ自分の意見・考えを述べる。
授業ごとの振り返りシート	15%	: 授業でえた人権についての知識・教養、グループワークでの他者の意見、表明した自分の見解などについて記述する(100字以上)（毎回1点の15点満点）。
授業ごとのワークシート	15%	: 不正解問題を練習して次回の課題として提出する（毎回1点の15点満点）。
中間レポート	10%	: 人権に関する資料を読んで1200字程度のレポートを提出する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

横藤田誠・中坂恵美子著『人権入門〔第3版〕—憲法／人権／マイノリティー』（法律文化社、2017年）
 穴戸常寿『18歳から考える人権』（法律文化社、2015年）
 その他の参考文献は授業中にその都度紹介します。また、適宜授業のテーマについての資料を配布します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 教室

備考・注意事項： 授業の前後に教室で質問に答えます。
 Eメールでの質問は、zumwoh175@yahoo.co.jp（冒頭はゼット、hの後はエル）に送付する。
 氏名と学籍番号を記入のこと。

授業計画

			授業外学修課題にかかるとの目安時間
第1回	現代社会と人権（授業の到達目標と進め方について）	20世紀における人権問題の取り組みの伸長と人権侵害との両側面について考えます。	4時間
第2回	「人権」とはどういうことを言うのか	「人権」の基本的な意味について確認するとともに、その由来についても理解します。	4時間
第3回	人権問題を考える（1）差別と人権（グループディスカッションと発表）	私たちの身近な人権や差別の問題について、グループに分かれてディスカッション（討論）し、その後はグループごとの発表をしてもらい、さらに考えを深めます。	4時間
第4回	日本国憲法における人権①日本国憲法における人権規定	日本国憲法における基本的な人権規定の内容について理解します。	4時間
第5回	日本国憲法における人権②人権規定の実態（自由権の現状）	日本国憲法における基本的な人権について、自由権の実情や問題点について検討します。	4時間
第6回	日本国憲法における人権③人権規定の実態（平等権と生存権）	日本国憲法における基本的な人権について平等権と生存権の実情や問題点について検討します。	4時間
第7回	人権問題を考える（2）「いじめ」について（グループディスカッションと発表）	いじめの問題について、グループに分かれてディスカッション（討論）し、その後はグループごとの発表をもらい、さらに考えを深めます。（中間レポート資料配布）	4時間
第8回	現代の様々な人権（1）子どもの人権①「いじめ」	学校での子どもの人権、特に「いじめ」の問題について、そのタイプと特性や解決策などを考えます。	4時間
第9回	現代の様々な人権（1）子どもの人権②体罰	学校での体罰の問題について整理し、資料を読みながら復習する。また、中間レポートを作成するとともに、授業中に実施した小テストの不正解問題の練習を行う。	4時間
第10回	現代の様々な人権（1）子どもの人権③校則	学校での校則の問題について整理し、資料を読みながら復習する。また、中間レポートを作成するとともに、授業中に実施した小テストの不正解問題の練習を行う。	4時間

第11回	<p>人権問題を考える (3) DVDビデオ鑑賞・グループディスカッションと発表</p> <p>人権問題（障がい者の人権）についてのDVDビデオを鑑賞して、その後内容についてのグループディスカッション（討論）と発表を行います。</p>	<p>人権問題（障がい者の人権）についてのDVDビデオ鑑賞のグループディスカッション（討論）とその後のグループ発表の内容を振り返って整理し、復習する。また、配布した人権に関するレポート資料を読んで考えたことについて1200字程度のレポートを完成させるとともに、授業中に実施した小テストの不正解問題の練習を行う。</p>	4時間
第12回	<p>現代の様々な人権 (2) 障がい者・患者の人権①障がい者の歴史</p> <p>障がい者の人権の歴史を振り返って、その取り組みの意義について考えます。 (中間レポート提出)</p>	<p>障がい者の人権の歴史やその取り組みの意義について整理し、復習する。また、授業中に実施した小テストの不正解問題の練習を行う。</p>	4時間
第13回	<p>現代の様々な人権 (2) 障がい者・患者の人権②障がいとは何か</p> <p>障がい者の人権問題について、障がいとは何かという観点からその問題の理解をさらに深めるとともに、日本での障がい者問題への取り組みについても確認します。</p>	<p>障がい者の人権問題について、障がいとは何かという観点からその問題の理解を整理するとともに、資料を読みながら日本での障がい者問題への取り組みについても復習する。また、授業中に実施した小テストの不正解問題の練習を行う。</p>	4時間
第14回	<p>現代の様々な人権 (3) 部落差別問題①被差別身分の社会的起源</p> <p>部落差別問題について、被差別身分が歴史の中でどのように生み出されたかをその社会的起源にさかのぼって考えます。</p>	<p>部落差別問題に関して、被差別身分が歴史の中でどのように生み出されたかというその社会的起源について整理し、復習する。また、授業中に実施した小テストの不正解問題の練習を行う。</p>	4時間
第15回	<p>現代の様々な人権 (3) 部落差別問題②近代社会と被差別部落</p> <p>近代社会における部落差別の撤廃の取り組みについて理解するとともに、その差別問題について考えます。</p>	<p>近代社会における部落差別の撤廃の取り組みについて整理し、復習する。また、授業中に実施した小テストの不正解問題の練習を行う。</p>	4時間

授業科目名	日本国憲法				
担当教員名	小宮山直子				
学年・コース等	1	開講時期	前期・後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「可」

授業概要

この授業では、まず日本国憲法の成立過程から学びます。そして、憲法の基礎的知識を条文や憲法判例を通して習得し、社会における多様な問題について、憲法の視点から、自分の力で考える能力を身につけることを目標とします。「憲法」「法」は難しいというイメージがあるかもしれませんが、授業では、できるだけ身近な素材を取りあげて検討していきます。授業を通して、憲法とわたしたちの日常生活との関わりについて、そして、憲法改正の問題について考える機会になります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

憲法の意義、日本における憲法の歴史、日本国憲法の内容・諸問題を条文や判例を通して学ぶ。

目標：

日本国憲法の基本原理及び基礎知識を修得し、社会を生きる力とする。

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見

わたしたちの日常生活と憲法との関係を理解し、社会における諸問題について自分の意見を述べることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・ 問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

定期試験	70%	： 全期間の内容を範囲とした試験を行う。憲法に関する基礎知識を理解している、その基礎知識を用いて提示された課題について自身の意見を含めて論述することができるかという観点を中心に評価します。
レポート	10%	： 前半の授業内容に関連するレポートを作成・提出する。課題に対して適切に論述され、かつ独自の見解が示されているかという点を中心に評価します。
授業内レポート・小テスト	20%	： 各授業の最後に、授業内容に関する復習課題、もしくは小テストを行い、憲法に関する重要語句が理解できているかについて評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
橋本勇人	・ 保育と日本国憲法	・ みらい	・ 2018年

参考文献等

芦部信喜『憲法（第6版）』岩波書店
 駒村圭吾編『プレステップ憲法』弘文堂
 『別冊ジュリスト 憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』有斐閣
 『セレクト六法』岩波書店
 その他の文献については適宜授業内で提示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。新聞などの各メディアを通じて、多様な社会問題に関心をもつよう心がけましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前後
 場所： 講義室
 備考・注意事項： 授業前後に講義室で質問に応じます。

授業計画		授業外学修課題にかかるとかかる目安の時間
第1回	<p>「憲法」とは？</p> <p>受講上の注意点などについて説明する。私たちの生活と「憲法」の関係を考えてみる。憲法を含む、日本法の全体構造および日本国憲法の構造を学習する。</p>	<p>今回の授業のポイントを確認・整理する。特に日本法全体における憲法の位置づけを確認する。次回に該当するテキスト部分の通読。</p> <p>4時間</p>
第2回	<p>「世界」の「憲法」の成立と歩み</p> <p>欧米の「憲法」の歴史を概観する。「立憲主義」という言葉の意味を考える。</p>	<p>今回の授業のポイントを確認・整理する。特に立憲主義の特徴について各自でまとめる。次回に該当するテキスト部分の通読。</p> <p>4時間</p>
第3回	<p>「日本」の「憲法」の成立と歩み</p> <p>日本において「憲法」はどのように誕生したのか？大日本帝国憲法の特徴とともに、日本国憲法の成立過程及び現在までの歩みを学ぶ。</p>	<p>今回の授業のポイントを確認・整理する。特にペアテ草案の意義について。次回に該当するテキスト部分の通読。</p> <p>4時間</p>
第4回	<p>「日本国憲法」の基本方針・基本構造</p> <p>日本国憲法の基本原理および基本構造（統治の基礎と人権の基礎）を確認する。 日本国憲法における「天皇」制と国民主権</p>	<p>今回の授業のポイントを確認・整理する。キーワード：国民主権、象徴天皇制、平和主義、基本的人権の保障 次回に該当するテキスト部分の通読。</p> <p>4時間</p>
第5回	<p>憲法のもとに保障される人権とは？</p> <p>日本国憲法の人権規定の基本にある考え方を学ぶ。人権規定の種類・分類を学び、人権の意義と全体像を確認する。</p>	<p>今回の授業のポイントを確認・整理する。キーワード：「人権」の歴史 次回に該当するテキスト部分の通読。</p> <p>4時間</p>
第6回	<p>信教の自由とは？</p> <p>自由権（1）——自由権とは？信仰する自由そして政教分離の原則の意義について考える。</p>	<p>今回の授業のポイントを確認・整理する。キーワード：思想良心の自由、信教の自由、政教分離の原則。 次回に該当するテキスト部分の通読。</p> <p>4時間</p>
第7回	<p>表現の自由が保障される理由とは？</p> <p>自由権（2）——「表現活動」をめぐる判例や近年の動向を通して、表現の自由の重要性を検討する。</p>	<p>今回の授業のポイントを確認・整理する。キーワード：自己実現、自己統治、知る権利 次回に該当するテキスト部分の通読。</p> <p>4時間</p>
第8回	<p>「最低限の生活」の保障とは？</p> <p>社会権（1）——社会権の歴史を学ぶ。生存権の意義と、日本の経済格差の問題、貧困問題を考えてみる。</p>	<p>今回の授業のポイントを確認・整理する。キーワード：社会権の歴史、生存権、貧困 次回に該当するテキスト部分の通読。</p> <p>4時間</p>
第9回	<p>教育・労働をめぐる権利とは？</p> <p>社会権（2）—— 教育を受ける権利、労働者に保障される権利について学ぶ。</p>	<p>今回の授業のポイントを確認・整理する。キーワード：教育権の意義、労働者の権利、正規雇用と非正規雇用 次回に該当するテキスト部分の通読。</p> <p>4時間</p>
第10回	<p>法の下での平等（1）</p> <p>「憲法」における「平等」の意味を考える。「平等」をめぐる歴史について学ぶ。</p>	<p>今回の授業のポイントを確認・整理する。キーワード：「平等」の意義、相対的平等 次回に該当するテキスト部分の通読。</p> <p>4時間</p>
第11回	<p>法の下での平等（2）</p> <p>憲法上の「平等」の意味は？14条・24条をめぐる近年の重要判例を学びつつ、家族をめぐる法や諸問題（夫婦別姓、同性婚など）を憲法を通して検討する。ジェンダーと法。</p>	<p>今回の授業のポイントを確認・整理する。キーワード：平等をめぐる重要判例（夫婦別姓、同性婚など）ジェンダー 次回に該当するテキスト部分の通読。</p> <p>4時間</p>
第12回	<p>自分のことはすべて自分で決められるのか？</p> <p>新しい人権と「自己決定権」について考えてみる。こどもの権利について検討する。</p>	<p>今回の授業のポイントを確認・整理する。キーワード：自己決定権、子どもの権利 次回に該当するテキスト部分の通読。</p> <p>4時間</p>
第13回	<p>統治の基礎（国会・内閣・裁判所）</p> <p>国会・裁判所の役割を中心に、日本の統治機構の基本について学ぶ。さらに三権分立の意義について検討する。</p>	<p>今回の授業のポイントを確認・整理する。キーワード：国会、参政権、最高裁判所、違憲審査制 次回に該当するテキスト部分の通読。</p> <p>4時間</p>
第14回	<p>これまでの「平和」・これからの「平和」について考える</p>	<p>今回の授業のポイントを確認・整理する。キーワード：「平和」と9条 次回に該当するテキスト部分の通読。</p> <p>4時間</p>

	戦後から現在までの「9条」をめぐる様々な動向・多様な意見を確認し、今後の日本の「平和」と憲法の意義を考えてみる。		
第15回	憲法改正とは？改正をめぐる諸問題 憲法改正をめぐる動向と諸問題を検討する。これまでの講義内容全体を復習する。憲法の重要判例も再度確認する。	今回の授業のポイントを確認・整理する。キーワード：憲法改正、国民投票	4時間

授業科目名	文学と歴史				
担当教員名	白瀬浩司				
学年・コース等	1・幼教	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

あなたは絵本が好きですか？ さほど好きではないですか？
 保育者をめざす人であっても、絵本そのものを《楽しむ対象や素材》というより、余った時間の埋め合わせや保育活動のための《つなぎのアイテム》と見ている人もいます。本講座では、絵本の歴史や絵本が各世代の読者に対して果たす役割について理解するとともに、選定した絵本を用いながら個々の絵本の物語世界を文字情報と絵画情報の双方を手がかりに読み解いていきます。絵本にこめられたメッセージをしっかりと受けとめられる読者（そして保育者）をめざしましょう。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1．DP1. 幅広い教養やスキル
- 2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

絵本の素材となった物語、あるいは現存する絵本に関する幅広い知識・教養を身につける。
 絵本・童話の特徴・形式や読み聞かせの技法について理解すること、対象作品を正しく読解すること。

目標：

物語絵本の歴史（西洋）、絵本の素材となった日本の物語の歴史について、大まかに文学史的な流れを理解する。

絵本・童話の物語世界を文字情報・絵画情報を手がかりに正しく読み取ることができる。

汎用的な力

- 1．DP4. 課題発見
- 2．DP6. 行動・実践

対象を正しく理解した上で、そこに内包される課題を見出すことができる。

理解した対象について、適切な形で伝達・表現することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がない場合、最終レポートの提出がない場合は放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業ワークシート

評価の基準

： 各回（12回）に提出するワークシートの記述内容により、よく理解できている＝2点、概ね理解できている＝1点、理解が不十分である＝0点とします。

24%

授業ワークシート（小レポート課題）

： 授業時に提出するワークシートのうち3回分を小レポートとし、提示された課題に関する記述内容と理解度により評価します。12点×3回

36%

受講態度

： グループ報告、各回の授業への参加態度（発言・グループ討議）、課題への取り組み姿勢、授業資料ファイルの整理状況により、評価します。

15%

最終課題（期末レポート）

： 論題に対する理解と、記述内容により評価します。なお、基本的な文章スキルにかかわる減点項目については、講義時に提示。

25%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- ※『ベーシック絵本入門』（ミネルヴァ書房、2013年）
 ※『はじめて学ぶ日本の絵本史』Ⅰ～Ⅲ巻（ミネルヴァ書房、2001～2002年）
 その他の文献については、適宜、授業時に紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業ワークシート」によって本時の授業の振り返りを行うとともに、次時の授業の予告を踏まえて予習に取り組むこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜・第3限
 場所： 西館4階 91研究室

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	絵本とは何か—基本概念と表現特性、西洋の絵本史概説 絵本に関する基本的な概念と、絵本の持つ表現特性について学びます。また、西洋の絵本の歴史について概観します。	配布資料を読み返すとともに、絵本の種類に関する小課題に取り組む。 4時間
第2回	絵本の種類—子どもにとっての絵本、日本の絵本史概説 絵本の種類について実物を見ながら確認する（絵だけの絵本、字だけの絵本も含む）とともに、子どもの成長・発達に絵本が果たす役割について概略を学びます。また、日本の絵本の歴史について概観します。	授業時の配布資料を読み返し、赤ちゃん絵本に関する小課題に取り組む。 4時間
第3回	乳児と絵本—赤ちゃん絵本を《見る》こと、《読む》こと 複数の絵本に目を通し、いわゆる（赤ちゃん絵本）が乳児の発達に関わるのか、その特徴について理解するとともに、保育現場でどのように活かしていくかを学びます。	講義資料を読み返すとともに、次時に扱う絵本に目を通しておく。 4時間
第4回	幼児と絵本、小中学生と絵本、大人と絵本 複数の絵本に目を通し、子ども（幼児・児童・生徒）から大人にとっての絵本との出会いについて学びます。病院の院内学級、グループケアや終末期医療の現場での絵本の読み聞かせ実践の事例にも触れていきます。	配布資料を読み返し、神話絵本に関する小課題に取り組む。 4時間
第5回	神話絵本を《読む》 「いなばの白うさぎ」「海幸彦山幸彦」「やまのおろち」など、日本の神話を題材にした絵本を取り上げ、その概要を理解するとともに、神話の物語構成と以後の絵本の物語構成の共通点・相違点について考えます。	配布資料を読み返すとともに、昔話絵本に関する小課題に取り組む。 4時間
第6回	昔話絵本を《読む》 日本の昔話を題材にした絵本を取り上げ、その概要を理解するとともに、中世に書かれて近世に出版された昔話絵本の翻字・解説をしていきます。江戸期の絵本は、いわゆる変体仮名で書かれていますので、文化的な歴史の姿に触れることにもなります。	講義時の配布資料で復習をするとともに、絵本『にゃーご』を事前に読んでおく。 4時間
第7回	絵本に込められたメッセージを《読む》—基礎篇・事例研究①『にゃーご』 絵本『にゃーご』（宮西達也）を事例として取り上げ、文字情報・絵画情報を確認しながらペア作業・個人作業を行い、同絵本にこめられたメッセージを読み解いていきます。	配布資料で復習をするとともに、絵本『だいじょうぶ だいじょうぶ』を事前に読んでおく。 4時間
第8回	絵本に込められたメッセージを《読む》—基礎篇・事例研究②『だいじょうぶ だいじょうぶ』 絵本『だいじょうぶ だいじょうぶ』（いとうひろし）を事例として取り上げ、文字情報・絵画情報を確認しながらペア作業・個人作業を行い、同絵本にこめられたメッセージを読み解いていきます。	講義時の配布資料で復習をおこない、絵本『手ぶくろを買いに』を事前に読んでおく。 4時間
第9回	絵本に込められたメッセージを《読む》—基礎篇・事例研究③『手ぶくろを買いに』 絵本『手ぶくろを買いに』（新美南吉）を事例として取り上げ、を事例として取り上げ、文字情報・絵画情報を確認しながらペア作業・個人作業を行い、同絵本にこめられたメッセージを読み解いていきます。	配布資料を読み返し、絵本『ぐるんばのようちえん』に目を通す。 4時間
第10回	映像化された絵本作品を《読む》—事例研究①『ぐるんばのようちえん』 絵本を原作としていても、それが映像作品となった場合、読者・視聴者の受ける印象は異なる場合があります。映像メディアによる表現の特色と、それに照らしつつ、改めて絵本の特質を捉え返していきます。今回は『ぐるんばのようちえん』（西内ミナミ・文／堀内誠一・絵）の絵本作品と映像作品を対象として検討します。	講義時の配布資料で復習をおこない、絵本『はらべこあおむし』に目を通す。 4時間
第11回	映像化された絵本作品を《読む》—事例研究②『はらべこあおむし』 絵本を原作としていても、それが映像作品となった場合、読者・視聴者の受ける印象は異なる場合があります。映像メディアによる表現の特色と、それに照らしつつ、改めて絵本の特質を捉え返していきます。今回は『はらべこあおむし』（エリック=カール・作／もりひさし・訳）の絵本作品と映像作品を対象として検討します。	配布資料を読み返すとともに、絵本『おまえうまそうだな』に目を通す。 4時間
第12回	映像化された絵本作品を《読む》—事例研究③『おまえうまそうだな』	授業時の配布資料を読み返し、絵本『ことりをすきになった山』に目を通す。 4時間

	<p>絵本を原作としていても、それが映像作品となった場合、読者・視聴者の受ける印象は異なる場合があります。映像メディアによる表現の特色と、それに照らしつつ、改めて絵本の特質を捉え返していきます。今回は『おまえうまそうだな』（宮西達也）の絵本作品と映像作品を対象として検討します。</p>		
第13回	<p>絵本に込められたメッセージを《読む》—応用篇・演習①『こたけをすきになった山』 文字情報と絵画情報によって紡ぎ出される物語世界を捉え、作品に込められたメッセージを一人ひとりが自力で読み解く演習を行います。今回は『こたけをすきになった山』（アリス＝マクレーラン・作／エリック＝カール・絵／ゆあさふみえ・訳）を対象として取り上げます。</p>	<p>配布資料を読み返すとともに、絵本『せかいいち うつくしい ぼくの村』に目を通す。</p>	4時間
第14回	<p>絵本に込められたメッセージを《読む》—応用篇・演習②『せかいいち うつくしい ぼくの村』 文字情報と絵画情報によって紡ぎ出される物語世界を捉え、作品に込められたメッセージを一人ひとりが自力で読み解く演習を行います。今回は『せかいいち うつくしい ぼくの村』（小林豊）を対象として取り上げます。</p>	<p>配布資料を読み返し、絵本『おじさんのかさ』に目を通す。</p>	4時間
第15回	<p>現代を生きる私たちは絵本といかに関わるか—応用篇・演習③『おじさんのかさ』 文字情報と絵画情報によって紡ぎ出される物語世界を捉え、作品に込められたメッセージを一人ひとりが自力で読み解く演習を行います。今回は『おじさんのかさ』（佐野洋子）を対象として取り上げます。また、授業全体をふり返りつつ、絵本の歴史や、現代における私たちと絵本との関わりについてまとめていきます。</p>	<p>ファイリングした配布資料を用いて半期の授業の振り返りを行う。最終課題（期末レポート）の執筆に取り組む。</p>	4時間

授業科目名	文学と歴史				
担当教員名	三上聡太				
学年・コース等	1	開講時期	前期・後期	単位数	2
授業形態	毎回プリントを配布し、PowerPointと板書を用いて説明します。講義が中心となります。				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「可・不可」

授業概要

現在、人文科学をとりまく状況は大きく変化してきています。この授業では〈文学〉や〈歴史〉といった分野にあえてこだわらず、領域横断的なものの考えかたを学んでゆきます。ひとつの手がかりとしたいのは「物語」です。例えば皆さんのよく知るアニメーションも「物語」ですが、これらは皆さんの生きる時代をどのように描いているのでしょうか。「物語」をたんなるフィクションとして片付けてしまわず、そこからさまざまな時代を読みかえてみたいと思います。方法や立場に捉われない柔軟な思考力を身につけることがこの授業の目的です。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	人文科学に関する幅広い教養を身につける。	日本史(文学史、思想史を含む)のおおまかな流れを理解する。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		テキストを鑑賞するだけでなく、精読によって問題点を見つけることができる
2．DP8. 意思疎通		自分の意見を述べるだけでなく、論拠のあるレポートを書くことができる。
3．DP10. 忠恕の心		ものごとに良心と良識をもって向き合うことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がない場合は放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

	評価の基準
小テスト	: 授業の内容について小テストを行います。語句の意味などを理解しているかを問います。5段階で評価します。
25%	
小レポート	: 授業で扱ったテキストについて小レポートを行います。自分なりの問題点を見つけているかを問います。5段階で評価します。
25%	
試験(レポート)	: 授業で扱ったテキストについて定期試験期間にレポートを実施します。引用や注釈、あるいは参考文献が示されており、提出物として成立しているかを問います。5段階で評価します。
50%	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『読むための理論：文学・思想・批評』（世織書房、1992年）。
他については授業内に紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。指示されたテキストがある場合、この時間[かならず読んでおいてください。これが人文科学、とくに文学を学ぶにあたっての最低限のルールです。またわからない語句などは授業までに調べておく習慣をつけましょう。大学での「学び」の半分は学生の主体性によって成り立っています。皆さんの積極的な学びに期待します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜12:00～13:00
 場所： 講師室(中央館1F)
 備考・注意事項： 月曜日の12:00～13:00をオフィスパワーとします。
 授業中に申し出てください。

授業計画		授業外学修課題にかかると見込まれる目安の時間
第1回	授業の説明 人文科学とは何か 高校までの「文系」教科の内容をふり返りつつ、文学と歴史をあらためて学ぶ意義について説明します。この授業の進めかたや、毎回の小レポートの書きかたについても説明します。	4時間
第2回	「物語」はどこから来たのか（神話） 「古事記」「日本書紀」から日本の神話の世界観について学びます。また他のさまざまな国の神話とどのような共通点をもっているのかを考えます。	4時間
第3回	「物語」はどのように変化したのか（昔話） 「遠野物語」から日本の昔話の構造について学びます。また人々の信仰とどのような関係をもっていたのかを、現在の都市伝説などと比較しながら考えます。	4時間
第4回	「物語」はどのように移動したのか（言語） 国立国語研究所の「日本語地図」をもちいて演習を行います。具体的には、言語文化の伝播が人々の移動とどのような関係をもっていたのかを考えます。	4時間
第5回	「語る」とはどういうことか（随筆） 「枕草子」から日本の文学の牽引力となったものについて学びます。また女流文学と「語る」ことへの欲望について考えます。	4時間
第6回	「読む」とはどういうことか（物語） 「とりかえばや物語」から日本の文学のパターンについて学びます。またその後どのように読まれつづけているのかを、現在の漫画やアニメーションも含めて考えます。	4時間
第7回	「テキスト」とはどういうことか（物語） 「平家物語」からテキストという概念について学びます。またいつ・誰が・誰に・何を・なぜ・どのように語ろうとしていたのかを多角的に考えます。	4時間
第8回	どこからが「日本の文学」なのか（〈外地〉文学） 森鷗外「舞姫」をその一行目から考えます。「石炭」、「女性」から日本の近代がどのようににはじまったのかを考えます。	4時間
第9回	どこまでが「日本の文学」なのか（〈在日〉文学） イ・フェンソン「砧をうつ女」から日本の小説の枠組みについて学びます。また〈内なる〉植民地とは何かを考えます。	4時間
第10回	どこまでが「日本の文学」なのか（〈沖縄〉文学） 目取真俊「ブラジルおじいの酒」から日本の小説の枠組みについて学びます。また〈沖縄〉の過去と現在のつながりについて考えます。	4時間
第11回	どこまでが「日本の文学」なのか（〈北海道〉文学） 村上春樹「羊をめぐる冒険」から日本の小説の枠組みについて学びます。また〈北海道〉の羊が日本人のどのような二面性をあらわしているのかを考えます。	4時間
第12回	「物語」は終わったのか（ドキュメンタリー） 〈戦後〉へのひとつの視座として、ドキュメンタリー「ゆきゆきて神軍」が現在に投げかけている問いについて考えます。	4時間
第13回	「物語」は終わったのか（アニメーション） 〈大きな物語〉が終わったとされる現在、日本のアニメーションがどのような物語を再生産しているのかを考えます。	4時間
第14回	「物語」をどう伝えるのか（国語教科書） 小学校、中学校の国語教科書を持ちいて演習を行います。具体的には、これからの社会へ向けてどのような読みの傾向をもたせているのか、その功罪について考えます。	4時間
第15回	授業のまとめ 最終レポート提出 授業全体をふり返りつつ、文学によって見えてきた歴史についてまとめます。	4時間

授業科目名	人間学				
担当教員名	荒木秀夫				
学年・コース等	1	開講時期	前期・後期	単位数	2
授業形態	講義は板書もしくはPowerPointを用いて行い、必要に応じプリント配布による説明が主体となります。				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「可」

授業概要

人間学は「人間とは何か」「いかに生きるべきか」という問いに総合的に答えるために、哲学や倫理学を土台に科学や宗教学などの成果をふまえて、多面的に考えようとする講義です。人間とは何か、という本質に関する問いかけから始めて様々な人間観を概観した後、20世紀に登場した文化的人間観について詳しく考えていきます。主題自体は難しそうですが、出来るだけ具体的な例を用いて受講生と一緒に考えていきたいと思っています。なお、授業計画は受講者の興味関心の領域やレベルによって、適宜変更することもあります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP6. 行動・実践
3. DP9. 役割理解・連携行動

具体的内容：

古代・中世・近代の代表的な人間観を知ることによって、現代人の生き方を考える

目標：

過去の事例に学び、これからの自分の生き方に生かす

人間の本質を知り、自分をみつめる
自分の行動の源泉を知り、これからの生き方に生かす

人間とは何かについて考えることで、自分が果たすべき役割を知る

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

講義期間中にレポート作成の指導を行い、期間内に提出してもらいます

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
 - ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
- レポートは必ずコメントをつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

レポート

20%

ノート

10%

期末論述試験

70%

評価の基準

： 求められている要素を過不足なく記述した上で、自分の観点から論述できているかを評価します。

： 講義の内容を漏らさずに書き、自分なりにきちんとまとめられているかを評価します。

： 講義内容を踏まえて、論理的に必要な項目を説明できるかを評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特定の参考書は指定せず、必要に応じて教室で適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 特に質問がある場合は、授業中に申し出てくれれば授業前後の時間に対処します

授業計画		授業外学修課題にかかると自安の時間
第1回	<p>講義ガイダンス 人間学とは何か</p> <p>受講する際の基本的な注意点を説明します 人間学とは何か、どのような学問なのかについて説明します</p>	<p>講義のノートをきちんとまとめること 欠席、遅刻した場合は、抜けている箇所を補足しておくこと</p> <p>4時間</p>
第2回	<p>人間観の類型 古代～中世～近代</p> <p>人間が世界をどのようにとらえてきたか、という世界観の変遷について 神・自然・人間の三者の関係を中心に講義します</p>	<p>講義のノートをきちんとまとめること 欠席、遅刻した場合は、抜けている箇所を補足しておくこと</p> <p>4時間</p>
第3回	<p>代表的な人間観（1）～古代</p> <p>古代における人間観を「ホモ＝サピエンス」という概念を中心に説明します</p>	<p>講義のノートをきちんとまとめること 欠席、遅刻した場合は、抜けている箇所を補足しておくこと</p> <p>4時間</p>
第4回	<p>代表的な人間観（2）～中世</p> <p>西欧中世における人間観を「ホモ＝レリギオーオス」という概念を中心に説明します</p>	<p>講義のノートをきちんとまとめること 欠席、遅刻した場合は、抜けている箇所を補足しておくこと</p> <p>4時間</p>
第5回	<p>代表的な人間観（3）～近代</p> <p>近代における人間観を「ホモ＝ファーベル」という概念を中心に説明します</p>	<p>講義のノートをきちんとまとめること 欠席、遅刻した場合は、抜けている箇所を補足しておくこと</p> <p>4時間</p>
第6回	<p>近代の人間観の課題</p> <p>「ホモ＝ファーベル」という概念が現代にまで続く様々な問題を内包していることを具体的な問題に即して説明します</p>	<p>講義のノートをきちんとまとめること 欠席、遅刻した場合は、抜けている箇所を補足しておくこと</p> <p>4時間</p>
第7回	<p>19世紀以降の新たな人間観（1）ニーチェ</p> <p>19世紀の人間観の特徴をニーチェの「ディオニュソス型人間」という概念を中心に説明します</p>	<p>講義のノートをきちんとまとめること 欠席、遅刻した場合は、抜けている箇所を補足しておくこと</p> <p>4時間</p>
第8回	<p>19世紀以降の新たな人間観（2）フロイト</p> <p>19世紀の人間観の特徴をフロイトの「無意識」の問題を中心に説明します</p>	<p>講義のノートをきちんとまとめること 欠席、遅刻した場合は、抜けている箇所を補足しておくこと</p> <p>4時間</p>
第9回	<p>20世紀の人間観（1）ホイジンガとカイヨフ</p> <p>20世紀において提示された文化的社会学的人間観である「ホモ＝ルーデンス」を中心に説明します</p>	<p>講義のノートをきちんとまとめること 欠席、遅刻した場合は、抜けている箇所を補足しておくこと</p> <p>4時間</p>
第10回	<p>20世紀の人間観（2）社会学的人間観</p> <p>何故「ホモ＝ルーデンス」という概念が提唱されたのか、その時代的背景を含めて説明します</p>	<p>講義のノートをきちんとまとめること 欠席、遅刻した場合は、抜けている箇所を補足しておくこと</p> <p>4時間</p>
第11回	<p>20世紀の人間観（3）遊びの定義</p> <p>「ホモ＝ルーデンス」の中心となる「遊び」をめぐる問題について説明します</p>	<p>講義のノートをきちんとまとめること 欠席、遅刻した場合は、抜けている箇所を補足しておくこと</p> <p>4時間</p>
第12回	<p>20世紀の人間観（3）遊びの分類とその意味</p> <p>カイヨフの「遊びの分類」を説明した後、それが何を指しているものであったかについて説明します</p>	<p>講義のノートをきちんとまとめること 欠席、遅刻した場合は、抜けている箇所を補足しておくこと</p> <p>4時間</p>
第13回	<p>レポート作成日</p> <p>「遊び」の定義を踏まえて、自分の生活を見直すレポートを作成してもらいます レポートの書き方は授業中に個別指導します</p>	<p>授業中にレポート作成が完了しなかった場合は、自宅で完成させること</p> <p>4時間</p>
第14回	<p>20世紀の人間観（4）まとめ</p> <p>20世紀の人間観が目指した新たな人間観の意味と、それをこれからの自分にどう生かしていくべきかについて説明します</p>	<p>講義のノートをきちんとまとめること 欠席、遅刻した場合は、抜けている箇所を補足しておくこと</p> <p>4時間</p>
第15回	<p>全体のまとめ</p> <p>講義全体のまとめと復習を行います</p>	<p>講義のノートをきちんとまとめること 欠席、遅刻した場合は、抜けている箇所を補足しておくこと</p> <p>4時間</p>

授業科目名	文学と歴史				
担当教員名	中野 澄				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

日本文学を中心に、様々な分野の作品を毎時間取り上げます。「作品」を生み出した歴史的背景と、「作品」によって生み出された地域の変化、その両面から日本文学と歴史について考えてみます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

日本文学と歴史に関する幅広い教養を身につける。

目標：

文学作品を読み、歴史的背景がわかる。

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見
- 2 . DP8. 意思疎通

文学作品を分析できる。

グループで課題解決ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業の参加度

40%

授業外課題

40%

試験（レポート）

20%

評価の基準

： 授業への積極的参加，グループワークへの貢献度，授業態度などを総合的に評価する。

： 授業で扱った内容に関するレポートを課す。

： 定期試験期間中に授業で扱った内容を踏まえたレポートを実施します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜2限

場所： 研究室または教室（授業時間の前後）

授業計画

⋮

⋮ 授業外学修課題に
かかる目安の時間

第1回	オリエンテーション 授業の概要を知り、それらを学ぶ意味について理解する。授業の進め方について理解する。グループ編成を行う。	学修内容について整理する。この講義に期待すること及び自分の問題意識を整理しておく。	4時間
第2回	松尾芭蕉（1） 「奥の細道」を題材にして、今につながる「漂白の思い」について考える。グループワークを行う。	グループでの協議を基に配布資料を読み返すとともに、作品と歴史に関する小課題に取り組む。	4時間
第3回	松尾芭蕉（2） 「奥の細道」を題材に、紀行文と虚構について考える。グループワークを行う。	グループでの協議を基に配布資料を読み返すとともに、作品と歴史に関する小課題に取り組む。	4時間
第4回	近代俳句（1） 正岡子規の作品を味わい、俳句の近代化について考える。グループワークを行う。	グループでの協議を基に配布資料を読み返すとともに、作品と歴史に関する小課題に取り組む。	4時間
第5回	近代俳句（2） 「ホトトギス派」「新傾向派」の流れや代表的俳人の作品を味わい、俳句の近代化について考える。グループワークを行う。	グループでの協議を基に配布資料を読み返すとともに、作品と歴史に関する小課題に取り組む。	4時間
第6回	自然主義文学（1） フランスの自然主義の影響を受けた田山花袋の作品を味わい、自然主義の主張を理解する。グループワークを行う。	グループでの協議を基に配布資料を読み返すとともに、作品と歴史に関する小課題に取り組む。	4時間
第7回	自然主義文学（2） 私小説とよばれる作品を基に、自然主義が私小説へとつながる過程を追う。グループワークを行う。	グループでの協議を基に配布資料を読み返すとともに、作品と歴史に関する小課題に取り組む。	4時間
第8回	反自然主義文学 自然主義の理念に反発する文学とは何かについて考える。グループワークを行う。	グループでの協議を基に配布資料を読み返すとともに、作品と歴史に関する小課題に取り組む。	4時間
第9回	夏目漱石 夏目漱石の作品を味わい、漱石作品が反自然主義文学と紹介される意味について考える。グループワークを行う。	グループでの協議を基に配布資料を読み返すとともに、作品と歴史に関する小課題に取り組む。	4時間
第10回	白樺派（1） 大正デモクラシーのもと発刊された雑誌『白樺』に関連する作家の作品を基に、理想主義・人道主義について考える。グループワークを行う。	グループでの協議を基に配布資料を読み返すとともに、作品と歴史に関する小課題に取り組む。	4時間
第11回	白樺派（2） 雑誌『白樺』に関連する芸術家のその後の芸術に与えた影響を考える。グループワークを行う。	グループでの協議を基に配布資料を読み返すとともに、作品と歴史に関する小課題に取り組む。	4時間
第12回	無頼派（1） 敗戦の混乱の中、活躍した坂口安吾の作品を基に、無頼派が支持された時代、その背景を考える。グループワークを行う。	グループでの協議を基に配布資料を読み返すとともに、作品と歴史に関する小課題に取り組む。	4時間
第13回	無頼派（2） 「無頼派」と呼ばれる作家の作品を紹介しながら、現代における「無頼派」とは何を意味するのかについて考える。グループワークを行う。	グループでの協議を基に配布資料を読み返すとともに、作品と歴史に関する小課題に取り組む。	4時間
第14回	日本の近現代文学の流れ 授業のまとめにあたり、近代から現代までの文学史の概要を網羅する。	学修内容について理解し、これまで学んできた内容が文学史のどの部分に位置付くのかを確認する。	4時間
第15回	まとめ 授業全体をふり返り、改めて文学作品が生まれる歴史的背景や、作品が後世に与えた影響について、自分なりの考えをまとめる。	配布資料をもとに、半年間の授業内容をふり返る。	4時間

授業科目名	日本の食文化				
担当教員名	小関佐貴代				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「可」

授業概要

近年、欧米諸国から日本食は健康によいと評価され、日本食レストランが流行しています。さて、皆さんの食生活は本当に健康的ですか？この授業では、日本食とはどのようなものであるかを学び、皆さんの将来において、健康を維持できるように食事を設計する知識を習得します。まず、皆さんの食生活を振り返り、現在も使っている食材の伝統文化を知り、「文化としての日本食」「食べる楽しみの日本食」「作る楽しみの日本食」を学びます。本授業の内容は、今後の食生活を「健康食」となるように日常の食事を作るヒントにしてください。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

日常の食生活を振り返る機会を持ち、日本に生まれ育っていることを省みます。日本伝統食や食事情を理解し、健康に過ごすために食事を設計する意識を養います。

目標：

自分自身の食生活を健康維持できるように設計できる基礎知識を習得します。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見

自分の食生活を振り返り、改善すべきことを見出し、改善方法を考える力を養います。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・振り返り（振り返りシート、チャトルシートなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

毎回のレポート

30%

授業外課題

20%

定期試験

50%

評価の基準

： 毎回の授業開始時にプリントを配布しますが、授業内に必要事項を書き込み、授業のまとめを記入して提出します。
2点×15回=30点

： 授業外課題（お弁当作り）
10点×2回=20点

： 全授業の総まとめとしての100点満点の定期試験を実施します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「調理と文化」（朝倉書店）、「食の世界」（二宮書店）、「日本の食文化」（放送大学教育振興会）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業内課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習すること。また、授業外課題（自作のお弁当持参）に取り組むこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日4限（14：40-16：10）

場所： 栄養第3研（中央館2階）

備考・注意事項： オフィスアワーの場所は栄養第3研（中央館2階）です。授業や会議以外の時間には、栄養第3研究室にいますので、いつでも来室してもらって良いです。

授業計画

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	今日の朝ごはんから、日本食を考えましょう ①あなた自身の今朝のごはんを書きます。 ②あなたの朝ごはんに足りないものがあるか考えます。 ③日本旅館の朝食を見て、共通する食材を見つけます。 ④日本家庭の和朝食を見て、共通する食材を見つけます。 ⑤日本家庭の洋朝食を見て、共通する食材を見つけます。 ⑥ニューヨークやロンドンの典型的な朝食を見ましょう。 ⑦あなたが食べたい朝食を書きます。 ⑧20歳の女性が一日に取りたい三大栄養素の量を知ります。 ⑨朝食に何を加えると良いか、ヒントを講義します。 ⑩自分自身の朝食をどのようにすると良いかを考えてプリントのまとめます。	次の週までの7日間、朝食の献立を意識して、改善できたことをまとめます。	4時間
第2回	大好きなお弁当から、健康的な食生活になっているかを検証しましょう。 ①日本料理屋のお弁当を見て、共通点を見つけます。 ②あなたが好きな「お弁当」と「給食」メニューを書きます。 ③アジア諸国、ヨーロッパ諸国、南北アメリカ諸国の学校給食を見て、それぞれの共通点を見つけます。 ④諸外国と日本の弁当との違いを考えます。 ⑤思い出深いお弁当を書きます。 ⑥最後に、来週に作って持参するお弁当を考えます。	自分で作れるお弁当を考えて、次週には作って集まります。	4時間
第3回	現代の日本人として欠かせない行事と食を考えましょう。 ①自作お弁当の写真を撮ってメールに添付して送信し、メニューと工夫点を記入します。 ②1から12月の行事と行事食について知っていることを書きます。 ③お正月に必ず食べる料理を書きます。 ④正月料理とその意味を解説します。 ⑤節句のお祝い料理とその意味を解説します。 ⑥今後、作りたいと思う行事食とその理由を書いて、プリントを提出します。	お家の郷土料理をインタビューしてくるごと、来週の授業開始時に書きます。	4時間
第4回	日本の郷土料理を知りましょう①—北海道～東海地方まで ①北海道 ②東北 ③関東 ④信越 ⑤東海 の代表的な郷土料理を紹介します。	お家の方に、郷土料理をインタビューしてきましょう。	4時間
第5回	日本の郷土料理を知りましょう②—近畿地方～沖縄まで ①近畿 ②中国 ③四国 ④九州 ⑤沖縄 縄地方の代表的な郷土料理を紹介します。	お家の宗教に関する食事をインタビューしてきましょう。	4時間
第6回	世界の三大宗教と食の関りを理解しましょう ①キリスト教の行事と食事について理解します。 ②キリスト教の行事と日本文化との関りを理解します。 ③イスラム教と食事について理解します。 ④仏教と食事について理解します。 ⑤神仏への供物と私たちの食の関りを理解します。 ⑥ヒンズー教と食事について理解します。	1週間に小麦を使ったお料理やお菓子を食べたかを記録することが課題です。	4時間
第7回	米と小麦の食文化を理解して、活用しましょう。 ①米が、どのように日本で作られてきたかを解説します。 ②米の栄養的特徴を理解します。 ③小麦が、どのように日本で作られてきたかを解説します。 ④米と小麦の違いを理解します。 ⑤パン発祥と歴史を理解します。 ⑥食べてみたい米料理と小麦料理やお菓子を書いて提出します。	お家でよく食べる野菜をたくさん使った料理と食材を記録してきます。	4時間
第8回	身近な野菜の歴史と食文化を理解しましょう。 ①日常的に食べている野菜を書き、日本の原産野菜に印をつけます。 ②身近な野菜の花を確認します。 ③京都の伝統野菜を解説します。 ④大阪の伝統野菜を解説します。 ⑤奈良の伝統野菜を解説します。 ⑥他の地域の伝統野菜を解説します。 ⑦将来、食べたい伝統野菜とその理由を書いて提出します。	1週間に大豆を使ったお料理やお菓子を食べたかを記録することが課題です。	4時間
第9回	大豆の食文化・豆の種類、栄養について知識を広めましょう ①身近な豆の名前が分かるクイズに挑戦します。 ②食べている豆の加工品を書きます。 ③豆の種類について解説します。 ④大豆の伝来の歴史や種類について解説します。 ⑤大豆の栄養的特徴を理解します。 ⑥小豆の伝来の歴史や種類について解説します。 ⑦世界の豆料理を紹介し、 ⑧食べてみたい豆料理やお菓子とその理由もプリントに書いて提出します。	1週間に食べた魚料理を記録することが課題です。	4時間
第10回	身近な魚介類の特徴と料理を理解しましょう	1週間に飲んだお茶とお菓子の種類を記録することが課題です。	4時間

	<p>①魚の名前の漢字クイズに挑戦します。 ②魚の切り身クイズに挑戦します。 ③養殖魚と天然魚のクイズに挑戦します。 ④日本の近海魚の料理を記録します。 ⑤魚肉料理の歴史を知ります。 ⑥魚業の歴史を知ります。 ⑦魚の旬と料理に知識を広げます。 ⑧世界の魚料理と和食の違いに興味を持ちます。 ⑨藻類の調理方法に興味を持ちます。 ⑩食べてみたい魚料理を挙げて、その理由もプリントに書いて提出します。</p>		
第11回	<p>お茶の歴史と文化を理解します</p> <p>①日常に飲んでいるお茶の種類を記録します。 ②茶葉の歴史について解説します。 ③茶葉の生産方法と分類について理解します。 ④茶畑クイズに挑戦します。 ⑤日本茶の特徴と種類について知識を深めます。 ⑥日本茶の生産地と特徴への知識を深めます。 ⑦世界のお茶の製法とお茶の飲み方を紹介します。 ⑧今後、飲みたいお茶とその理由も書いて提出します。</p>	1週間に食べた外食の回数を記録することが課題です。	4時間
第12回	<p>変化する日本の食事情を理解しましょう</p> <p>①子どもが描いた絵を見て、家庭の食事の様子を考えます。 ②日本の外食・中食産業の経年変化を理解します。 ③日本と世界各国の冷凍食品利用状況を理解します。 ④生鮮食品と加工食品（輸入食品を含む）の表示法について理解します。 ⑤日本と世界各国の食料自給率について理解します。 ⑥食料自給率を向上させる工夫を解説します。 ⑦今後、どのように食事設計しようと思ったかを書いて提出します。</p> <p>今後の貴方にとって何を主食とするかを示し、その理由もプリントに書いて提出します。</p>	1週間に食べた寿司の種類と回数を記録することが課題です。	4時間
第13回	<p>魚の保存とすしの発展を理解します。</p> <p>①魚の生食クイズに挑戦します。 ②魚の保存性クイズに挑戦します。 ③果物の加工と保存性クイズに挑戦します。 ④食品に含まれる水の化学的特性を解説します。 ⑤食品の腐敗と微生物の特性を理解します。 ⑥代表的な食中毒菌の特性について理解します。 ⑦寿司の発祥から発展の歴史を理解します。 ⑧早すし、発酵すしや馴れすしについて理解します。 ⑨今後、食べてみたい寿司とその理由を書いて提出します。</p>	今回は、お弁当を作って集まります。	4時間
第14回	<p>お箸のマナーを確認しましょう</p> <p>①お弁当の写真を撮ってメールで送り、お弁当の工夫点を記録します。 ②日本食のお箸のマナー（20項目）とその理由を解説します。 ③マナーを守って、困ったときの対策法も解説します。 ④日常のお箸の使い方を振り返って、気を付けることがあれば書いて、提出します。</p>	1週間に食べた和食の種類を記録することが課題です。	4時間
第15回	<p>日本料理について理解を深めましょう。</p> <p>①日本料理の3つの形態を理解します。 ②会席料理の順序と主な食材と調理法を解説します。 ③それぞれのお料理に対するマナーの解説します。 ④懐石料理の意味を解説します。 ⑤茶懐石料理とお茶事のマナーを解説します。 ⑥日本食の味「うまみ」と味との組合せについて理解します。 ⑦今後、食べてみたい会席料理や懐石料理とその理由を書いて提出します。 ⑧定期試験について説明します。</p>	定期試験に向けて、授業プリントを復習しておくこと	4時間

授業科目名	ホスピタリティー論				
担当教員名	辻 有美子				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	航空会社に客室乗務員として10年以上勤務し、国内外の旅客に対する保安業務およびサービス業務を遂行した。ホスピタリティマインドを持ち旅客サービスにあたり、社内組織においてもサービス向上に関わる委員会に属し、実務的な経験を重ねた。				

開放科目の指示：「可」

授業概要

サービス産業の事業経営の両輪は、ホスピタリティとマーケティングです。本講義では、その一つであるホスピタリティの本質を、実際に接客現場で経験する事例などを題材に理解を深めます。また航空業界で活躍していた経験をもつ外部講師の生の話を聞き、ホスピタリティの実践について考察します。ホスピタリティは業界、業種、職種を問わず普遍的、かつ多様性(ダイバーシティ)を生かしながら社会で共生していくためのスキルでもあります。また和のおもてなしをベースにしたグローバルに通用するホスピタリティについても共に学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	ホスピタリティに関する基本知識	コミュニケーション、接客の場面で、その知識を行動で実践できる。
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	航空業の理解と業界動向	就活に備えて、職業理解を深めることができる。
汎用的な力		
1．DP6. 行動・実践		学修したホスピタリティを学内外を問わず実践できる。
2．DP8. 意思疎通		協同学習や討論の中で、円滑なコミュニケーションを取ることができる。
3．DP10. 忠恕の心		ホスピタリティの学修と実践を通じて、心を共有できる人間に成長できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなします。

成績評価の方法・評価の割合

定期試験	評価の基準
50%	: 授業内容を良く理解できていること。基礎知識を用い、社会人になってからの自己目標を明確かつ前向きな取り組みの形で表現できているかという観点から評価する。
30%	: 学外授業並びに通常授業への取り組み度、理解度にくわえ、文章作成力の向上を評価します。
20%	: 受講意欲や講師の質問に対する回答、ワーク中の積極的な意見発表、リーダーシップを科目独自のルーブリックによって評価、配点します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献は授業の中で随時紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。日々ホスピタリティを意識した生活を心がけ、学んだことを実践することにより、その理解力や観察力が研ぎ澄まされ、自己成長につながります。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後など

場所： 研究室

備考・注意事項： 上記以外の時間での質問は、tsuji-y@osaka-seikei.ac.jp宛に学籍番号、氏名を記入し送付してください。

授業計画		授業外学修課題にかかるとする目安の時間
第1回	オリエンテーション、ホスピタリティに関する基礎知識 講師紹介に続き、授業の進め方、学修内容、評価方法について確認。グループワークの後、ホスピタリティとは何か？講師より一つの習得の道筋を提示。	サービス現場の観察ポイントを決め、良い事例、悪い事例を収集し報告書を作成する。 4時間
第2回	目標設定とその進捗管理 4～5名のグループを作り、第1回目の授業外課題について討議し発表。高い学修成果を上げるための目標の設定と管理の方法について学ぶ。	自己目標を立て、レポートにまとめる。 4時間
第3回	ホスピタリティの原点を知る グループワークを通じて、自己の目標を客観的に確認、深化させる。ホスピタリティの語源にさかのぼり、その本質を掴めるようホスピタリティの基本について学ぶ。	サービス現場事例の収集継続。サービスとホスピタリティの違いを調べ、今までの収集事例を分類してみる。 4時間
第4回	サービスとホスピタリティ① ～その違いを知る～ サービスとホスピタリティについて、それぞれの位置付けを理解する。いままでの収集事例をグループワークで整理し、次の発表の準備をする。	サービス現場事例の収集継続。新規ケースも含めてグループで発表形式にまとめる。 4時間
第5回	サービスとホスピタリティ② ～事例発表～ グループ毎の発表を通じて皆さんの集めた生の事例を整理し、サービスとホスピタリティの本質理解、考察。	授業で学んだ内容をレポートにまとめる。 4時間
第6回	おもてなしの文化史 ホスピタリティ、おもてなしに関して歴史的側面からたどる。近代におけるホテル誕生の背景、ツーリズムとの関係など。	授業で学んだ内容をレポートにまとめる。 4時間
第7回	ホスピタリティとマーケティング ホスピタリティとマーケティングに関して、窪山哲雄『ホスピタリティ・マーケティングの教科書』、フィリップ・コトラー『ホスピタリティと観光のマーケティング』などの本から抜粋した資料を用いて考察・グループワークなどを進める。	次回の授業に備え、外部講師への質問をまとめてくる。 4時間
第8回	航空業界とホスピタリティ①外部講師による講話 元航空会社客室乗務員で、キャビンアテンダントスクール経営の講師に「ホスピタリティと航空業界」について講義していただく。 ※この授業は講師の予定により日程・内容が変わることがあります。	講話を聴いての感想をレポートにまとめる。 4時間
第9回	航空産業とホスピタリティ② 前回の講話についてのレポートを発表する。航空産業における様々な職種の紹介とそのホスピタリティマインドや取り組みについて研究する。	授業で学んだ内容をレポートにまとめる。 4時間
第10回	宿泊産業とホスピタリティ 加賀屋、星のやリゾート、リッツ・カールトンホテルなど、宿泊産業における事例を挙げてその取り組みやホスピタリティについて研究する。	授業で学んだ内容をレポートにまとめる。 4時間
第11回	テーマパークとホスピタリティ 東京ディズニーリゾート、USJなどのテーマパークやレジャーランドのホスピタリティに関して運営会社の取り組みなどを紹介し、研究する。	授業で学んだ内容をレポートにまとめる。 4時間
第12回	CS（顧客満足度）とES（従業員満足度） CSとESを学び、その相互関係とホスピタリティとの関係性についての理解。サービス品質とCSについての考察など。	次回の授業で学ぶ、「和のおもてなし」に関してネットや書籍でさらに調べ、その特徴と課題に関してレポートを作成。 4時間
第13回	日本文化と和のおもてなし 和敬清寂、一期一会など日本文化における側面からホスピタリティを考察する。	授業で学んだ内容をレポートにまとめる。 4時間
第14回	21世紀型グローバル・ホスピタリティ 日本と海外での接客現場でのホスピタリティの行動や考え方の違いを学び、未来のホスピタリティに関しても考察する。民泊の定着、新しい旅のスタイルの展開など、AI時代のホスピタリティはどうなっていくのか。グループワークの中でそれぞれの問題点や今後の課題について討論・整理し発表する。	今後日本のサービス産業のホスピタリティはどうあるべきか、自己の考えをまとめてレポートを作成する。 4時間
第15回	総括と振り返り 各自のレポートをグループで討議・整理し、各グループの提案として発表。	学生生活や就職活動、将来に生かせるよう、自身で今後のための目標を整理する。 4時間

授業科目名	キャリアベーシック				
担当教員名	浅野法子・佐伯暁子				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目では、本学での学びにスムーズに移行できるよう、建学の精神を学ぶとともに、図書館等の学内諸施設の有効な活用の仕方や、授業の受講方法等、基本的な学習スキルを身につけることを目的としています。また、グローバルコミュニケーション学科の学びの導入として、「大阪」をテーマとした課題解決型の授業を行います。大学での学びの基礎となるスキルや力を身につけるため、情報収集力、言語能力、構成能力の習得を目指します。さらに社会人の基盤となる共同力の習得も合わせて目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

建学の精神をベースにした人間力、学科での学びをテーマとした知識・展開力

目標：

情報収集、言語能力、構成能力、共働力、プレゼンテーション力を身につける。

汎用的な力

1. DP10. 忠恕の心
2. DP4. 課題発見
3. DP5. 計画・立案力
4. DP9. 役割理解・連携行動
5. DP7. 完遂

相手を思いやり、礼儀、マナーなどの人間力をつける。

収集した資料から課題を発見することができる

収集した資料から、新しいプランにも積極的に取り組むことができる

集団やチームの中で自分の役割を理解し共働できる。

自分の担当箇所について指定の課題に従って資料を完成させることができる。

学外連携学修

有り（連携先：なんばグランド花月にて漫才・落語鑑賞）

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。毎回、テーマに沿ったテーマ課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後に夏休みの課題として「読書感想文」を課します。優秀者にはビブリオバトルへの参加を願っています。感想文の評価は引き続き受講するキャリアデザインにて評価します。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

事前課題	2%	： 提出期限が守られていれば2点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
授業参加度・ワークシート（1～14回）	42%	： 毎回の授業参加度は2点満点で評価する。ワークシートは1点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
15回目の授業参加度と発表	6%	： 発表及び授業参加度を6点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
期末試験	8%	： 期末試験時に実施するレポート作成を8点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
課題（1～14回）		： 各回課題に対しては3点満点で評価する。独自のルーブリックによる。

42%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「知へのいざない——大阪成蹊短期大学で学ぶ」FD委員会・初年次教育教科書作成部会
そのほか、授業時に適宜指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
漫才・落語鑑賞の際には、なんばグランド花月までの交通費が必要。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 佐伯：月曜3限 浅野：水曜3限

場所： 佐伯・浅野：研究室（西館5階）

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかると見込まれる目安の時間	
第1回	<p>キャリアベーシックとは：建学の精神「桃李成蹊・忠恕」とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアベーシックとは何か。（授業の目的と概要、進め方等を説明） ・建学の精神と忠恕を知る。 ・パーソナル・ブランド・マネジメント・プロジェクトを知る。 <p>上記テーマについて講義および自分の意見をまとめ、グループワークを実施し、グループの意見を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究倫理教育の実施。 ・課題「大学に入学してから感じている学校でのマナーについて」400字程度の文章を作成し次回に提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神を読み、書かれている内容について理解し考えておく。 	2時間
第2回	<p>成蹊マインドについて：学びを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マナーDVD「授業編」「自転車置き場」を鑑賞 ・DVDや前回、発表された意見、自分が作成した意見を参考にし、社会人としてのマナーを身につけるために、どのような点に注意すべきかについて自分の意見を再度まとめる。 ・グループワークを実施し、グループの意見を発表する。 ・課題「マナーの大切さを身につけるために」を作成し次回に提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人として身につけておかなければならないマナーについて考えておく。 	2時間
第3回	<p>ディスカッションの意義とその方法を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「グループディスカッションDVD」を鑑賞 ・グループディスカッションのマナーを身につけるために、ワークシートに従って意見をまとめる。 ・グループディスカッションを実施し、グループの意見を発表する。 ・課題「グループディスカッションのマナー」についてレポートを作成し次回に提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッションとは何か、また実施するために必要なマナーについて考えておく。 	2時間
第4回	<p>接遇マインド・敬語の社会性と実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接遇マインドとは、話し方と言葉づかい、電話でのマナー等について考える。 ・これまでに学んだ「パーソナル・ブランド・マネジメント・プロジェクト」の内容を身につけるために何が大切かを考える。 ・「コミュニケーション説得力テスト」の実施 <p>上記について講義およびテストの実施、並びに自分の意見をまとめ、グループワークを実施し発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題「パーソナル・ブランド・マネジメント・プロジェクトと私」を作成し次回に提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・接遇とは何か、社会人として身につけておかなければならない言葉づかいなどについて考えておく。 	2時間
第5回	<p>現代の情報収集の方法とその実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報の収集方法やそのための倫理について考える（情報の種類と情報手段、著作権、文献引用、本、ネット、OPAC、Google、国会図書館等）。 ・調査手法やキーワード検索を身につける。 ・調べてみよう「(例)大阪の歴史・風土・文化について」 ・各自が調査した内容を発表 ・課題「情報収集で注意すべきこと」を作成し次回に提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を収集するための方法や手段としてどのようなものがあるかを考えておく。 	2時間
第6回	<p>情報収集方法と図書館の利用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館の活用方法、図書館で何ができるかを考える。 ・図書館の役割について理解する。 ・OPACの検索体験の実施 ・文献検索、図書貸出、図書カードについて理解する。 ・調べてみよう「第5回で調べたものについて図書館を利用して検索する」 ・課題「情報収集で学んだこと」を作成し次回に提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の役割や図書館の活用方法、自分が住んでいる地域の図書館の所在地や休館日等について調べておく。 	2時間
第7回	<p>評論文の特徴と実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コラムとは、批評文とは何かについて考える。 ・編集手帳「悲しきポスト」に関する資料を読んで批評する。 ・参考資料を読む。 ・自分の意見をまとめる。 ・個別意見を発表する（数名）。 <p>課題：「赤ちゃんポストについて」を作成し次回に提出</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コラムとは何か、文章構成方法などについて調べておく。 	2時間
第8回	<p>評論とディベート：ディベートの方法と実践</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・討議のテーマについて、自分自身の賛成意見、反対意見を考えて整理しておく。 	2時間

	<ul style="list-style-type: none"> ・ディベートについて理解する。 ・作成した「赤ちゃんポストについて」の意見を賛成派、反対派に分かれてグループで討議する。 ・出た意見をグループでまとめ、発表する。 <p>課題：「討論から学んだこと」を作成し次回に提出</p>		
第9回	<p>講演を聴いてまとめる</p> <p>大阪の文化：漫才・落語鑑賞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なんばグランド花月にて大阪の文化のひとつである漫才と落語を鑑賞する ・課題「漫才と落語の要約と感想」を作成し、次回に提出 	・事前に大阪の文化について調べておく	2時間
第10回	<p>文章による表現力を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章作成の注意点について考える（原稿用紙の書き方、文章を書き始める前に、文章構成、間違いやすい表現など）。 ・ワーク：作文テーマ「入学して2ヶ月・変わった私」に関する作文を書く。800字程度の文章を作成して提出する。 	・大阪の食文化について、どのようなものがあるかを考えてまとめておく。	2時間
第11回	<p>人に伝える方法論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感想文、文章の構造について考える。 ・「もし世界が百人の村だったら」を読む。 ・自分自身の感想を書き、グループディスカッションを実施後、他のメンバーの感想を聞いて発表する。 ・課題「他のメンバーの感想を聞いて考えたこと」を作成し、次回に提出。 	・感想文とは何か、文章の構成方法などについて調べておく。	2時間
第12回	<p>時事問題を学びまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時事問題：「グローバリゼーションについて考える（仮題）」を読む。 ・問題点、課題を抽出し、改善点等について自分の意見を書く。 ・グループディスカッションを実施し、グループの意見をまとめ発表する。 ・課題：「他のメンバーの意見を聞いて考えたこと」を作成し次回に提出 	・取り上げられる時事問題について、参考資料なども閲覧し、自分の意見をまとめておく。	2時間
第13回	<p>時事問題を討議する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時事問題「民泊って何」民泊とその関連記事を読み、主張に対して各人の意見をまとめる。 ・グループディスカッションを実施し、グループの意見をまとめ発表する。 ・課題：「他のメンバーの意見を聞いて考えたこと」を作成し次回に提出 	・取り上げられる新聞の社説について、参考資料なども閲覧し、自分の意見をまとめておく。	2時間
第14回	<p>学んだことをまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1～13回までに学んだことについて整理し、まとめの文章を書く。 ・成蹊マインドについて ・グループディスカッション ・発表について ・様々なテーマについて書いたこと ・毎回の課題について <p>などを作成し提出する。</p>	・第1～13回までに学んだことを振り返り整理しておく。	2時間
第15回	<p>学んだことを発表する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回まとめたものを発表する。 ・できるだけ全員発表し、称えあう。 ・課題：「読書感想文」の提出 <p>※優秀者にはビブリオバトルへの参加を促す。</p>	・発表のための下書きを作成し、原稿を見なくても発表ができるようにしておく。・夏休みの課題である読書感想文を書くために読む本を選定しておく。	2時間

授業科目名	キャリアベーシック				
担当教員名	榎本英之・中井郷之・辻 有美子・金志善				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	回ごとに設定した授業内容により、それにふさわしい形態で授業を実施します。				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要	不可				

不可

授業概要

短大での2年間の学びをスムーズに始められるように、初年次教育の一環として建学の精神「桃李ものいわざれど下おのずから道をなす」を理解し、建学の精神を身に付けます。また、学びの基盤となるスキル・能力を身につけること、即ち情報収集力（「聞き取る力」「読み取る力」）、言語能力（「書く力」「話す力」）、構成能力（「伝える力」「プレゼンテーション能力」）の修得を目指します。さらに社会人の基盤となる共働力をを持った人材を育てます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

建学の精神をベースにした人間力、観光をテーマに知識・展開する。

目標：

情報収集、言語能力、構成能力、共働力、プレゼンテーション力を身につける。

汎用的な力

- 1 . DP10. 忠恕の心
- 2 . DP4. 課題発見
- 3 . DP5. 計画・立案力
- 4 . DP9. 役割理解・連携行動
- 5 . DP7. 完遂

相手を思いやり、礼儀、マナーなどの人間力をつける。

収集した資料から課題を発見できる。

収集した資料から、新しいプランにも積極的に取り組むことができる

集団やチームの中で自分の役割を理解し共働できる。

自分の担当場所について指定の課題に従って資料を完成させることができる。

学外連携学修

有り（連携先：観光ビジネス（宿泊・交通・旅行）関係者による講演）

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ 見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。毎回出席すること。10分以上の遅刻はみとめない。2回の遅刻で1回の欠席とみなします。毎回、テーマに沿ったテーマ課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後に夏休みの課題として「読書感想文」を課します。優秀者にはビブリオバトルへの参加を願っています。感想文の評価は引き続き受講するキャリアデザインにて評価いたします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

事前課題	2%	提出期限が守られていれば2点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
授業参加度・ワークシート（1～14）	42%	毎回の授業参加度は2点満点で評価する。ワークシートは1点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
課題（1～14）	42%	各回課題に対しては3点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
15回目の授業参加度と発表	6%	発表及び授業参加度を6点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
期末試験		期末試験時に実施するレポート作成を8点満点で評価する。独自のルーブリックによる。

8%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

毎回資料を配布いたします。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
毎回配布の資料は必ずファイルしておくこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日3時限目

場所： 竹内研究室

備考・注意事項： 事前に連絡がとりたい場合はtakeuchi-ma@osaka-seikei.ac.jpに連絡すること。
オフィスアワー以外でも研究室に在室の時は対応いたします。気軽に質問にきてください。

授業計画

		授業外学修課題にかかるとする自らの時間	
第1回	<p>キャリアベーシックとは。 建学の精神「桃李成蹊・忠恕」とは。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアベーシックとは何か。（授業の目的と概要、進め方等を説明） ・建学の精神と忠恕を知る。 ・パーソナル・ブランド・マネジメント・プロジェクトを知る。について講義および自分の意見をまとめ、グループワークを実施し、グループの意見を発表する。 ・研究倫理教育の実施。 ・課題「大学に入学してから感じている学校でのマナーについて」400字程度の文章を作成し次回に提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神を読み、書かれている内容について理解し考えておく。 	4時間
第2回	<p>成蹊マインドについて学びを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マナーDVD「授業編」「自転車置き場」を鑑賞 ・DVDや前回、発表された意見、自分が作成した意見を参考にし、社会人としてのマナーを身につけるために、どのような点に注意すべきかについて自分の意見を再度まとめる。 ・グループワークを実施し、グループの意見を発表する。 ・課題「マナーの大切さを身につけるために」を作成し次回に提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人として身につけておかなければならないマナーについて考えておく。 	4時間
第3回	<p>ディスカッションの意義とその方法を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「グループディスカッションDVD」を鑑賞 ・グループディスカッションのマナーを身につけるために、ワークシートに従って意見をまとめる。 ・グループディスカッションを実施し、グループの意見を発表する。 ・課題「グループディスカッションのマナーについて」を作成し次回に提出する。 	<p>グループディスカッションとは何か、また実施するために必要なマナーについて考えておく。</p>	4時間
第4回	<p>接遇マインド・敬語の社会性と実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接遇マインドとは、話し方と言葉づかい、電話でのマナー等について考える。 ・これまでに学んだ「パーソナル・ブランド・マネジメント・プロジェクト」の内容を身につけるために何が大切かを考える。 ・「コミュニケーション説得力テスト」の実施 ・について講義およびテストの実施、並びに自分の意見をまとめ、グループワークを実施し発表する。 ・課題「パーソナル・ブランド・マネジメント・プロジェクトと私」を作成し次回に提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・接遇とは何か、社会人として身につけておかなければならない言葉づかいなどについて考えておく。 	4時間
第5回	<p>現代の情報収集の方法とその実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報の収集方法やそのための倫理について考える（情報の種類と情報手段、著作権、文献引用、本、ネット、OPAC、Google、国会図書館等）。 ・調査手法やキーワード検索を身につける。 ・調べてみよう「(例)日本の世界遺産 その種類と特徴」 ・各自が調査した内容を発表 ・課題「情報収集で注意すべきこと」を作成し次回に提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を収集するための方法や手段としてどのようなものがあるかを考えておく。 	4時間
第6回	<p>情報収集方法と図書館の利用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館の活用方法、図書館で何ができるかを考える。 ・図書館の役割について理解する。 ・OPACの検索体験の実施 ・文献検索、図書貸出、図書カードについて理解する。 ・調べてみよう「第5回で調べたものについて図書館を利用して検索する」 ・課題「情報収集で学んだこと」を作成し次回に提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の役割や図書館の活用方法、自分が住んでいる地域の図書館の所在地や休館日等について調べておく。 	4時間
第7回	<p>講演を聴いてまとめる</p> <p>講演：「おもてなしの心・宿泊業についての心得」（仮）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホテル・旅館関係者から、働く者としての喜びや、心がけなければならないことについて伝えてもらう。 ・課題：「講演を聞いての要約と感想」を作成し次回に提出 <p>講演内容は予定です。変更することがあります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に講演者の勤務先のホームページを閲覧し、ホテルや旅館などを調べ、質問内容を考えておく。 	4時間

第8回	<p>文章による表現力を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章作成の注意点について考える（原稿用紙の書き方、文章を書き始める前に、文章構成、間違いやすい表現など）。 ワーク：作文テーマ「入学して2か月、変わった私、変わらなかった私」について書く。800字程度の文章を作成し提出 	<ul style="list-style-type: none"> 入学してからの自分を振り返り、どのような出会いや変化があったのかを考えまとめておく。 	4時間
第9回	<p>人に伝える方法論—発表とディスカッション—</p> <ul style="list-style-type: none"> 感想文、文章の構造について考える。 「もし世界が百人の村だったら」を読む。 自分自身の感想文を書き、グループディスカッションを実施後、他のメンバーの感想を聞いて発表 課題「他のメンバーの感想を聞いて考えたこと」を作成し次回に提出 	<ul style="list-style-type: none"> 感想文とは何か、文章の構成方法などについて調べておく。 	4時間
第10回	<p>評論文の特徴と実際</p> <ul style="list-style-type: none"> コラムとは、批評文とは何かについて考える。 コラム：「コウノトリのゆりかご（編集手帳）」を読んで批評する。 参考資料を読む（赤ちゃんポストに関する現状。賛成意見、反対意見）。 赤ちゃんポストに関する自分の意見を書く。 個別意見を発表する（数名）。 課題：「赤ちゃんポストについて」を作成し次回に提出 	<ul style="list-style-type: none"> コラムとは何か、批評文とは何かについて調べておく。 赤ちゃんポストとは何か、その必要性等について自分の意見をまとめておく。 	4時間
第11回	<p>評論とディベート—ディベートの方法と実践—</p> <ul style="list-style-type: none"> ディベートについて理解する。 作成した「赤ちゃんポスト」についての意見を賛成派、反対派に分かれてグループで討議する。 出た意見をグループでまとめ、発表する。 課題：「討論から学んだこと」を作成し次回に提出 	<ul style="list-style-type: none"> 赤ちゃんポストについて、自分自身の賛成意見、反対意見を考えて整理しておく。 	4時間
第12回	<p>時事問題を学びまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> 時事問題：「観光税を考える（仮題）」を読む。 問題点、課題を抽出し、改善点等について自分の意見を書く。 グループディスカッションを実施し、グループの意見をまとめて発表する。 課題：「他のメンバーの意見を聞いて考えたこと」を作成し次回に提出 ※テーマは時事情勢によって変更することがあります。 	<ul style="list-style-type: none"> 取り上げられる時事問題について、参考資料なども閲覧し、自分の意見をまとめておく。 	4時間
第13回	<p>時事問題を討議する</p> <ul style="list-style-type: none"> 時事問題「民泊って何」民泊とその関連記事を読み、主張に対して各人の意見をまとめる。 グループディスカッションを実施し、グループの意見をまとめて発表する。 課題：「他のメンバーの意見を聞いて考えたこと」を作成し次回に提出。 ※テーマは時事情勢によって変更することがあります。 	<ul style="list-style-type: none"> 取り上げられる新聞の社説について、参考資料なども閲覧し、自分の意見をまとめておく。 	4時間
第14回	<p>学んだことをまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1～13回までに学んだことについて整理し、まとめの文章を書く。 成蹊マインドについて グループディスカッション 発表について 様々なテーマについて書いたこと 毎回の課題について などを作成し提出する 	<ul style="list-style-type: none"> 第1～13回までに学んだことを振り返り整理しておく。 	4時間
第15回	<p>学んだことを発表する</p> <ul style="list-style-type: none"> 前回まとめたものを発表する。 できるだけ全員発表し、称えあう。 夏休み課題：「読書感想文」 ※優秀者にはビブリオバトルへの参加を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表のための下書きを作成し、原稿を見なくても発表ができるようにしておく。 夏休みの課題である読書感想文を書くために読む本を選定しておく。 	4時間

授業科目名	キャリアベーシック				
担当教員名	杉浦優子・豊 憲一郎				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	回ごとに設定した授業内容により、それにふさわしい形態で授業を実施します。				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

短大での2年間の学びをスムーズに始められるように、初年次教育の一環として建学の精神「桃李ものいわざれど下おのずから道をなす」を理解し、建学の精神を身に付けます。また、学びの基盤となるスキル・能力を身につけること、即ち情報収集力（「聞き取る力」「読み取る力」）、言語能力（「書く力」「話す力」）、構成能力（「伝える力」「プレゼンテーション能力」）の修得を目指します。さらに社会人の基盤となる共働力をを持った人材を育てます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	建学の精神をベースにした人間力、ビジネスをテーマに知識・展開する。	情報収集、言語能力、構成能力、共働力、プレゼンテーション力を身につける。
汎用的な力		
1．DP10. 忠恕の心		相手を思いやり、礼儀、マナーなどの人間力をつける。
2．DP4. 課題発見		収集した資料から課題を発見できる。
3．DP5. 計画・立案力		収集した資料から、新しいプランにも積極的に取り組むことができる
4．DP9. 役割理解・連携行動		行動集団やチームの中で自分の役割を理解し共働できる。
5．DP7. 完遂		自分の担当箇所について、指定の課題に従って資料を完成させることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。毎回、テーマに沿ったテーマ課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後に夏休みの課題として「読書感想文」を課します。優秀者にはビブリオバトルへの参加をお願いすることがあります。感想文の評価は、引き続き受講するキャリアデザインにて評価します。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
事前課題	： 提出期限が守られていれば2点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
2%	
授業参加度・ワークシート（1～14回）	： 毎回の授業参加度は2点満点で評価する。ワークシートは1点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
42%	
課題（1～14回）	： 各回課題に対しては3点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
42%	
15回目の授業参加度と発表	： 発表及び授業参加度を6点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
6%	
期末試験	： 期末試験時に実施するレポート作成を8点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
8%	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

毎回資料を配布いたします。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

細かな課題が多数課せられますが、丁寧に取り組むこと。また、提出期限をきちんと守ること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 豊：火曜日3限／杉浦：木曜日2限
場所： 研究室（西館5F）
備考・注意事項： アポイントのある方を優先します。

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかるとの目安の時間	
第1回	<p>キャリアベーシックとは／建学の精神「桃李成蹊・忠恕」とは</p> <p>キャリアベーシックという科目の概要について学びます。具体的には、倫理憲章、建学の精神と忠恕、パーソナル・ブランド・マネジメント・プロジェクト、研究倫理教育について学習します。</p>	<p>建学の精神を読み、書かれている内容について理解し考えておきましょう／社会人として身につけておかなければならないマナーについて考えておきましょう</p>	4時間
第2回	<p>成蹊マインドについて学びを考える</p> <p>「成蹊マインド」について学びます。具体的には学内での授業マナーについて自分の意見を考え、社会人としてのマナーを身につけるために、どのような点に注意すべきかについて、グループワークを通して学習します。</p>	<p>グループディスカッションを実施するために必要なマナーについて考えておきましょう</p>	4時間
第3回	<p>ディスカッションの意義とその方法を学ぶ</p> <p>グループディスカッションの意義について学びます。グループディスカッション時に気を付けることや、マナーを身に付けるために必要なことについて学習します。</p>	<p>接遇とは何か、社会人として身につけておかなければならない言葉づかいなどについて考えておきましょう</p>	4時間
第4回	<p>接遇マインド・敬語の社会性と実際</p> <p>接遇マインドについて学びます。具体的には、話し方と言葉づかい、電話でのマナー等について考えます。また、これまでに学んだ「パーソナル・ブランド・マネジメント・プロジェクト」の内容を身につけるために何が大切かを考えます。</p>	<p>情報を収集するための方法や手段としてどのようなものがあるかを考えておきましょう</p>	4時間
第5回	<p>現代の情報収集の方法とその実際</p> <p>情報の収集方法や、そのための倫理について考えます。調査手法や、キーワード検索のスキルを身につけます。</p>	<p>図書館の役割や図書館の活用方法、自分が住んでいる地域の図書館の所在地や休館日等について調べておきましょう</p>	4時間
第6回	<p>情報収集方法と図書館の利用について</p> <p>図書館の活用方法について学びます。図書館で何ができるかを考え、図書館の役割について理解します。</p>	<p>次の授業へ向けて、入学してからの自分を振り返り、どのような出会いや変化があったのかを考えまとめておきましょう</p>	4時間
第7回	<p>文章による表現力を学ぶ</p> <p>文章作成の注意点について学びます。具体的には、原稿用紙への書き方、文章を書き始める前に準備すること、文章の構成、間違いやすい表現などについて学習します。その上で、「入学して2か月、変わった私、変わらなかった私」というタイトルで作文をします。</p>	<p>感想文とは何か、文章の構成方法などについて調べておきましょう</p>	4時間
第8回	<p>人に伝える方法論—発表とディスカッション</p> <p>感想文、文章の構造について学びます。課題文を読んで自分自身の感想文を書き、グループディスカッションを実施後、他のメンバーの感想を聞いて発表します。</p>	<p>コラムとは何か、批評文とは何かについて調べておきましょう／赤ちゃんポストとは何か、その必要性等について自分の意見をまとめておきましょう</p>	4時間
第9回	<p>評論文の特徴と実際</p> <p>コラムとは、批評文とは何かについて学びます。具体的には、コラム「コウノトリのゆりかご（編集手帳）」を読んで批評し、また、参考資料を読んで考えます（赤ちゃんポストに関する現状。賛成意見、反対意見）。</p>	<p>赤ちゃんポストについて、自分自身の賛成意見、反対意見を考えて整理しておきましょう</p>	4時間
第10回	<p>評論とディベート—ディベートの方法と実践</p> <p>ディベートについて学びます。ディベートのルールについて理解し、作成した「赤ちゃんポスト」についての意見を賛成派、反対派に分かれてグループで討議します。ディスカッションの後、出た意見をグループでまとめ、発表します。</p>	<p>取り上げられる時事問題について、参考資料なども閲覧し、自分の意見をまとめておきましょう</p>	4時間
第11回	<p>時事問題を学びまとめる</p>	<p>取り上げられる新聞の記事について、参考資料なども閲覧し、自分の意見をまとめておきましょう</p>	4時間

	<p>時事問題について学びます。 時事問題の関連記事を読み、問題点、課題を抽出し、改善点等について自分の意見を書きます。その後、グループディスカッションを実施し、グループの意見をまとめ、発表します。</p>		
第12回	<p>時事問題を討議する</p> <p>引き続き、時事問題について学びます。時事問題の関連記事を読み、主張に対して各人の意見をまとめます。その後、グループディスカッションを実施し、グループの意見をまとめ、発表します。</p>	<p>次回の書評共有へ向けて、紹介したい本のプレゼン内容をまとめておきましょう</p>	4時間
第13回	<p>書評共有会</p> <p>「知的書評合戦」のルールに基づき、1人5分で読みたい本の内容をプレゼンテーションします。グループのメンバーのプレゼンを聞いて本の内容を共有し、質疑応答をしながらディスカッションします。</p>	<p>第1～13回までに学んだことを振り返り整理しておきましょう</p>	4時間
第14回	<p>学んだことをまとめる</p> <p>第1～13回までに学んだことについて整理し、まとめの文章を書きます。成蹊マインド、グループディスカッションや発表、毎回の課題などについてまとめた文章を書いて、提出します。</p>	<p>発表のための下書きを作成し、原稿を見なくても発表ができるようにしておきましょう</p>	4時間
第15回	<p>学んだことを発表する</p> <p>前回の授業でまとめたものを発表します。また、夏休みの課題「読書感想文」を書くための準備をします。優秀者にはビブリオバトルへの参加を促します。</p>	<p>夏休みの課題である読書感想文を書くために読む本を選定しておきましょう</p>	4時間

授業科目名	キャリアベーシック				
担当教員名	谷口信子・小関佐貴代・橋本弘子				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	クラス単位で、同じ内容の講義および演習を行う。毎回「今週の忠恕」について記入し、毎回プリント課題を提出する。毎回、授業開始時に漢字検定の過去問題と朝日新聞ワークシートに取り組む。				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示「不可」

授業概要

短大での2年間の学びをスムーズに始められるように、初年次教育の一環として建学の精神「桃李ものいわざれど下おのずから道をなす」を理解し、建学の精神を身に付けます。また、学びの基盤となるスキル・能力を身につけること、即ち情報収集力（「聞き取る力」「読み取る力」）、言語能力（「書く力」「話す力」）、構成能力（「伝える力」「プレゼンテーション能力」）の修得を目指します。さらに社会人の基盤となる共働力を持った人材を育てます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1.幅広い教養やスキル	建学の精神および忠恕を理解して、大学での学びの基礎的な力を学ぶ。	情報収集、言語能力、構成能力、共働力、プレゼンテーション力を身につける。
汎用的な力		
1．DP4.課題発見		収集した資料から課題を発見できる。
2．DP10.忠恕の心		相手を思いやり、相手の立場に立って物事を考えることができる。
3．DP9.役割理解・連携行動		集団やチームの中で自分の役割を理解し共働できる。
4．DP5.計画・立案力		収集した資料から、新しいプランにも積極的に取り組むことができる
5．DP7.完遂		自分の担当カ所について指定の課題に従って資料を完成させることができる。

学外連携学修

有り（連携先：東淀川区役所保健福祉課、JAとっとり、JAわかやま、大阪ガス）

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
事前課題	： 提出期限が守られれば2点満点で評価する。独自のルーブリックによる 2%
授業参加度・ワークシート（1～14回）	： 毎回の授業参加度は2点満点で評価する。ワークシートは1点満点で評価する。独自のルーブリックによる 42%
課題（1～14回）	： 各回課題に対しては3点満点で評価する。独自のルーブリックによる 42%
15回目の授業参加度と発表	： 発表及び授業参加度を6点満点で評価する。独自のルーブリックによる 6%
期末試験	： 期末試験時に実施するレポート作成を8点満点で評価する。独自のルーブリックによる 8%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

田上貞一郎・田中ひさよ、管理栄養士・栄養になるための国語表現（萌文書林、2012）
西川真理子、図解 栄養士・管理栄養士を目指す人の文章術ハンドブック（化学同人、2013）

履修上の注意・備考・メッセージ

毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。
毎回、テーマに沿ったテーマ課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後に夏休みの課題として「読書感想文」を課します。優秀者にはビブリオバトルへの参加をお願いすることがあります。感想文の評価は引き続き受講するキャリアデザインにて評価いたします。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜日3時限

場所： 各研究室

備考・注意事項： 昼休みに各教員の研究室で対応します。

授業計画

			授業外学修課題にかかるとする目安の時間
第1回	<p>キャリアベーシックとは。</p> <ul style="list-style-type: none"> キャリアベーシックとは何か。（授業の目的と概要、進め方等を説明） 建学の精神と忠恕を知る。 パーソナル・ブランド・マネジメント・プロジェクトを知る。 研究倫理教育の実施。 <p>以上について講義および自分の意見をまとめ、グループワークを実施し、グループの意見を発表する。</p>	<p>課題「大学に入学してから感じている学校でのマナーについて」400字程度の文章を作成し次回に提出する。</p>	4時間
第2回	<p>成蹊マインドについて学びを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> マナーDVD「授業編」「自転車置き場」を鑑賞 DVDや前回、発表された意見、自分が作成した意見を参考にし、社会人としてのマナーを身につけるために、どのような点に注意すべきかについて自分の意見を再度まとめる。 グループワークを実施し、グループの意見を発表する。 	<p>課題「マナーの大切さを身につけるために」400字作文を書く。</p>	4時間
第3回	<p>ディスカッションの意義とその方法を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> 「グループディスカッションDVD」を鑑賞 グループディスカッションのマナーを身につけるために、ワークシートに従って意見をまとめる。 グループディスカッションを実施し、グループの意見を発表する。 課題「グループディスカッションのマナーについて」を作成し次回に提出する。 	<p>グループディスカッションとは何か、また実施するために必要なマナーについて考えておく。</p>	4時間
第4回	<p>接遇マインド・敬語の社会性と実際</p> <ul style="list-style-type: none"> 接遇マインドとは、話し方と言葉づかい、電話でのマナー等について考える。 これまでに学んだ「パーソナル・ブランド・マネジメント・プロジェクト」の内容を身につけるために何が大切かを考える。 「コミュニケーション説得力テスト」の実施 以上について講義およびテストの実施、並びに自分の意見をまとめ、グループワークを実施し発表する。 課題「パーソナル・ブランド・マネジメント・プロジェクトと私」を作成し次回に提出 	<p>入学してからの自分を振り返り、どのような出会いや変化があったのかを考えてまとめておく。</p>	4時間
第5回	<p>文章による表現力を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章作成の注意点について考える（原稿用紙の書き方、文章を書き始める前に、文章構成、間違いやすい表現など）。 ワーク：作文テーマ「入学して2か月、変わった私、変わらなかった私」について書く。800字程度の文章を作成し提出 	<p>・情報を収集するための方法や手段としてどのようなものがあるかを考えておく。</p>	4時間
第6回	<p>学外での学習～社会性を身につけるために～ 大阪ガスとの連携事業としてHug+ミュージアム見学と調理実習</p> <p>学校から公共の交通機関を使用して移動し、外部での実習を通して、「忠恕」の実践および社会性を身につける機会とする。</p>	<p>学外授業での気づきを400字にまとめる。</p>	4時間
第7回	<p>講演を聴いてまとめる①～行政の栄養士編～</p> <p>東淀川区役所保健福祉課との連携授業として、食育講座を受講する。栄養士が国民や市民の健康にどのように関わっているかを体感し、自分が将来どのように社会に貢献したいかを考える機会とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題「講座を受けた感想」をまとめる。 	<p>・事前に講演者の連携先のホームページを閲覧し、健康に関する事業などを調べ、質問内容を考えておく。</p>	4時間
第8回	<p>講演を聴いてまとめる②～生産者編～ JA和歌山とJA鳥取の梅干しおよびらっきょうの生産者の方の話を聴く。</p> <p>生産者の思いを聴くことで、調理にどう向かうかを考える機会とする。</p>	<p>授業の感想を400字にまとめる。</p>	4時間
第9回	<p>現代の情報収集の方法とその実際</p>	<p>・感想文とは何か、文章の構成方法などについて調べておく。</p>	4時間

	<ul style="list-style-type: none"> 情報の収集方法やそのための倫理について考える（情報の種類と情報手段、著作権、文献引用、本、ネット、OPAC、Google、国会図書館等）。 調査手法やキーワード検索を身につける。 調べてみよう「(例)日本及び世界の食文化 その種類と特徴」 各自が調査した内容を発表 課題「情報収集で注意すべきこと」を作成し次回に提出 		
第10回	<p>人に伝える方法論—発表とディスカッション—</p> <ul style="list-style-type: none"> 感想文、文章の構造について考える。 「もし世界が百人の村だったら」を読む。 自分自身の感想文を書き、グループディスカッションを実施後、他のメンバーの感想を聞いて発表 課題「他のメンバーの感想を聞いて考えたこと」を作成し次回に提出 	<ul style="list-style-type: none"> コラムとは何か、批評文とは何かについて調べておく。 赤ちゃんポストとは何か、その必要性等について自分の意見をまとめておく。 	4時間
第11回	<p>評論文の特徴と実際</p> <ul style="list-style-type: none"> コラムとは、批評文とは何かについて考える。 コラム：「コウノトリのゆりかご（編集手帳）」を読んで批評する 参考資料を読む（赤ちゃんポストに関する現状。賛成意見、反対意見）。 赤ちゃんポストに関する自分の意見を書く。 個別意見を発表する（数名）。 課題：「赤ちゃんポストについて」を作成し次回に提出 	<ul style="list-style-type: none"> 赤ちゃんポストについて、自分自身の賛成意見、反対意見を考えて整理しておく。 	4時間
第12回	<p>評論とディベート—ディベートの方法と実践—</p> <ul style="list-style-type: none"> ディベートについて理解する。 作成した「赤ちゃんポスト」についての意見を賛成派、反対派に分かれてグループで討議する。 出た意見をグループでまとめ、発表する。 課題：「討論から学んだこと」を作成し次回に提出 	<ul style="list-style-type: none"> 取り上げられる時事問題について、参考資料なども閲覧し、自分の意見をまとめておく。 	4時間
第13回	<p>情報収集方法と図書館の利用について</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書館の活用方法、図書館で何ができるかを考える。 図書館の役割について理解する。 OPACの検索体験の実施 文献検索、図書貸出、図書カードについて理解する。 調べてみよう「第5回で調べたものについて図書館を利用して検索する」 課題「情報収集で学んだこと」を作成し次回に提出 	<p>次回のテーマ「子ども食堂」について予習してくる。</p>	4時間
第14回	<p>時事問題について学び、討議する</p> <ul style="list-style-type: none"> 時事問題「」とその関連記事を読み、主張に対して各人の意見をまとめる。 グループディスカッションを実施し、グループの意見をまとめ発表する。 課題：「他のメンバーの意見を聞いて考えたこと」を作成し次回に提出。 ※テーマは時事情勢によって変更することがあります。 	<ul style="list-style-type: none"> 第1~13回までに学んだことを振り返り整理しておく。 	4時間
第15回	<p>学んだことをまとめ、発表する</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1~13回までに学んだことについて整理し、まとめの文章を書く。 成蹊マインドについて グループディスカッション 発表について 様々なテーマについて書いたこと 毎回の課題について などを作成し発表する。 できるだけ全員発表し、称えあう。 夏休み課題：「読書感想文」 ※優秀者にはビブリオバトルへの参加を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表のための下書きを作成し、原稿を見なくても発表ができるようにしておく。 夏休みの課題である読書感想文を書くための本を選定しておく。 	4時間

授業科目名	キャリアベーシック				
担当教員名	細島昌大・熊谷綾子・阪野 学・鈴木大介・紺谷 武・永井伸人・範 衍麗・沼田恵太郎				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	回ごとに設定した授業内容により、それにふさわしい形態で授業を実施します。				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	8名の教員のうち5名が実務経験あり。小、中、高等学校の教員・社会福祉士（児童福祉施設）経験者5名。（実務経験者の担当回：75回/120回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

短大での2年間の学びをスムーズに始められるように、初年次教育の一環として建学の精神「桃李ものいわざれど下おのずから道をなす」を理解し、建学の精神を身に付けます。また、学びの基盤となるスキル・能力を身につけること、即ち情報収集力（「聞き取る力」「読み取る力」）、言語能力（「書く力」「話す力」）、構成能力（「伝える力」「プレゼンテーション能力」）の修得を目指します。さらに社会人の基盤となる共働力をを持った人材を育てます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

建学の精神をベースにした人間力、幼児教育をテーマに知識・展開する。

目標：

情報収集、言語能力、構成能力、共働力、プレゼンテーション力を身につける。

汎用的な力

- 1 . DP10. 忠恕の心
- 2 . DP4. 課題発見
- 3 . DP5. 計画・立案力
- 4 . DP9. 役割理解・連携行動
- 5 . DP7. 完遂

相手を思いやり、礼儀、マナーなどの人間力をつける。

収集した資料から課題を発見できる。

収集した資料から、新しいプランにも積極的に取り組むことができる。

集団やチームの中で自分の役割を理解し共働できる。

自分の担当カ所について指定の課題に従って資料を完成させることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ 見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。毎回、テーマに沿ったテーマ課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後に夏休みの課題として「読書感想文」を課します。優秀者にはビブリオバトルへの参加をお願いすることがあります。感想文の評価は引き続き受講するキャリアデザインにて評価いたします。

成績評価の方法・評価の割合

事前課題	評価の基準
2%	: 提出期限が守られていれば2点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
授業参加度・ワークシート（1～14回）	: 毎回の授業参加度は2点満点で評価する。ワークシートは1点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
42%	
課題（1～14回）	: 各回課題に対しては3点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
42%	
15回目の授業参加度と発表	: 発表及び授業参加度を6点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
6%	
期末試験	: 期末試験時に実施するレポート作成を8点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
8%	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

毎回資料を配布いたします。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： アドバイザーの空き時間
場所： 各研究室
備考・注意事項： アドバイザーに何でも質問してください。
アドバイザーの空き時間、研究室については初回授業で伝えます。

授業計画

		授業外学修課題にかかるとする目安時間	
第1回	<p>キャリアベーシックとは 建学の精神「桃李成蹊・忠恕」とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアベーシックとは何か。（授業の目的と概要、進め方等を説明） ・建学の精神と忠恕を知る（品格と人間力）。 ・パーソナル・ブランド・マネジメント・プロジェクトを知る。について講義および自分の意見をまとめ、グループワークを実施し、グループの意見を発表する。 ・ワークシートの作成。 ・研究倫理教育の実施。 <p>課題：「大学に入学してから感じている学校でのマナーについて」400字程度の文章を作成し次回に提出する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神を読み、書かれている内容について理解し考えておく。 	4時間
第2回	<p>成蹊マインドについて学びを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マナーDVD「授業編」「自転車置き場」を鑑賞 ・DVDや前回、発表された意見、自分が作成した意見を参考にして、社会人としてのマナーを身につけるために、どのような点に注意すべきかについて自分の意見を再度まとめる。 ・グループワークを実施し、グループの意見を発表する。 ・ワークシートの作成。 <p>課題：「マナーの大切さを身につけるために」を作成し次回に提出する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人として身につけておかなければならないマナーについて考えておく。 	4時間
第3回	<p>ディスカッションの意義とその方法を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「グループディスカッションDVD」を鑑賞 ・グループディスカッションのマナーを身につけるために、ワークシートに従って意見をまとめる。 ・グループディスカッションを実施し、グループの意見を発表する。 <p>課題：「グループディスカッションのマナーについて」を作成し次回に提出する。</p>	<p>グループディスカッションとは何か、また実施するために必要なマナーについて考えておく。</p>	4時間
第4回	<p>接遇マインド・敬語の社会性と実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接遇マインドとは、話し方と言葉づかい、電話でのマナー等について考える。 ・これまでに学んだ「パーソナル・ブランド・マネジメント・プロジェクト」の内容を身につけるために何が大切か。 ・「コミュニケーション説得力テスト」の実施 ・について講義およびテストの実施、並びに自分の意見をまとめ、グループワークを実施し発表する。 ・ワークシートの作成 <p>課題：「パーソナル・ブランド・マネジメント・プロジェクトと私」を作成し次回に提出する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・接遇とは何か、社会人として身につけておかなければならない言葉づかいなどについて考えておく。 	4時間
第5回	<p>現代の情報収集の方法とその実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報の収集方法やそのための倫理について考える（情報の種類と情報手段、著作権、文献引用、本、ネット、OPAC、Google、国会図書館等）。 ・調査手法やキーワード検索を身につける。 ・調べてみよう「児童虐待件数、待機児童の人数等」 ・各自が調査した内容を発表 ・ワークシートの作成 <p>課題：「情報収集で注意すべきこと」を作成し次回に提出する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を収集するための方法や手段としてどのようなものがあるかを考えておく。 	4時間
第6回	<p>情報収集方法と図書館の利用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館の活用方法、図書館で何ができるかを考える。 ・図書館の役割について理解する。 ・OPACの検索体験の実施 ・文献検索、図書貸出、図書カードについて理解する。 ・調べてみよう「第5回で調べたものについて図書館を利用して検索する」 <p>課題：「情報収集で学んだこと」を作成し次回に提出する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の役割や図書館の活用方法、自分が住んでいる地域の図書館の所在地や休館日等について調べておく。 	4時間
第7回	<p>講演</p> <p>講演：「保育者としての心構え」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所、幼稚園、児童養護施設等の職員から、保育者としての喜びや、心がけなければならないことについて伝えてもらう。 ・教育実習事前事後指導と連動した形で講演を行い、理解を深める。 ・ワークシートの作成 <p>課題：「講演を聞いての要約と感想」を作成し次回に提出する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に講演者の勤務先のホームページを閲覧し、保育方針や園の特徴などを調べ、質問内容を考えておく。 	4時間

第8回	<p>文章による表現力を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章作成の注意点について考える（原稿用紙の書き方、文章を書き始める前に、文章構成、間違いやすい表現など）。 ワークシートの作成 <p>課題：作文テーマ「入学して2か月、変わった私、変わらなかった私」について（800字程度）の文章を作成し次回に提出する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 入学してからの自分を振り返り、どのような出会いや変化があったのかを考えたまとめておく。 	4時間
第9回	<p>人に伝える方法論—発表とディスカッション—</p> <ul style="list-style-type: none"> 感想文、文章の構造について考える。 「もし世界が百人の村だったら」を読む。 授業内課題：自分自身の感想文を書き、グループディスカッションを実施後、他のメンバーの感想を聞いて発表 ワークシートの作成 <p>課題：「他のメンバーの感想を聞いて考えたこと」を作成し次回に提出する。</p> <p>課題2：「赤ちゃんポスト」関連資料を読む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 感想文とは何か、文章の構成方法などについて調べておく。 	4時間
第10回	<p>評論文の特徴と実際</p> <ul style="list-style-type: none"> コラムとは、批評文とは何かについて考える。 コラム：「コウノトリのゆりかご（編集手帳）」を読んで批評する。 参考資料を読む（赤ちゃんポストに関する現状。賛成意見、反対意見）。 赤ちゃんポストに関する自分の意見を書く。 個別意見を発表する（数名）。 ワークシートの作成 <p>課題：「赤ちゃんポストについて」を作成し次回に提出する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> コラムとは何か、批評文とは何かについて調べておく。 赤ちゃんポストとは何か、その必要性等について自分の意見をまとめておく。 	4時間
第11回	<p>評論とディベート—ディベートの方法と実践—</p> <ul style="list-style-type: none"> ディベートについて理解する。 作成した「赤ちゃんポスト」についての意見を賛成派、反対派に分かれてグループで討議する。 出た意見をグループでまとめ、発表する。 ワークシートの作成 <p>課題：「討論から学んだこと」を作成し次回に提出する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 赤ちゃんポストについて、自分自身の賛成意見、反対意見を考えて整理しておく。 	4時間
第12回	<p>時事問題を学びまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> 時事問題：「待機児童問題について（仮代）」を読む。 問題点、課題を抽出し、改善点等について自分の意見を書く。 グループディスカッションを実施し、グループの意見をまとめて発表する。 ワークシートの作成 <p>課題：「他のメンバーの意見を聞いて考えたこと」を作成し次回に提出する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 取り上げられる時事問題について、参考資料なども閲覧し、自分の意見をまとめておく。 	4時間
第13回	<p>時事問題を討議する</p> <ul style="list-style-type: none"> 新聞の社説「女性の活躍 総合的な待機児童対策を2017.10.2（仮題）」とその関連記事を読み、主張に対して各人の意見をまとめる。 グループディスカッションを実施し、グループの意見をまとめて発表する。 ワークシートの作成 <p>課題：「他のメンバーの意見を聞いて考えたこと」を作成し次回に提出</p>	<ul style="list-style-type: none"> 取り上げられる新聞の社説について、参考資料なども閲覧し、自分の意見をまとめておく。 	4時間
第14回	<p>学んだことをまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> 1~13回までに学んだことについて整理し、まとめの文章を書く。 成蹊マインドについて グループディスカッション 発表について 様々なテーマについて書いたこと 毎回の課題について ワークシートの作成 <p>授業内課題：この授業で学んだこと（1200字以内）を作成し提出する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1~13回までに学んだことを振り返り整理しておく。 	4時間
第15回	<p>学んだことを発表する</p> <ul style="list-style-type: none"> 前回まとめたものを発表する。 できるだけ全員発表し、称えあう。 <p>課題1：発表を聞いての感想（400字）を作成し提出する。</p> <p>課題2：「読書感想文」の提出（キャリアデザインの初回講義で提出）</p> <p>※優秀者にはビブリオバトルへの参加を促す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 発表のための下書きを作成し、原稿を見なくても発表ができるようにしておく。 夏休みの課題である読書感想文を書くために読む本を選定しておく。 	4時間

授業科目名	キャリアベーシック				
担当教員名	百々 徹				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	回ごとに設定した授業内容により、それにふさわしい形態で授業を実施します。				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	京都造形芸術大学空間演出デザイン学科にてキャリアデザイン委員を務め、キャリアデザインの科目を担当した実績を有する				

開放科目の指示「不可」

授業概要

短大での2年間の学びをスムーズに始められるように、初年次教育の一環として建学の精神「桃李ものいわざれど下おのずから道をなす」を理解し、建学の精神を身に付けます。また、学びの基盤となるスキル・能力を身につけること、即ち情報収集力（「聞き取る力」「読み取る力」）、言語能力（「書く力」「話す力」）、構成能力（「伝える力」「プレゼンテーション能力」）の修得を目指します。さらに社会人の基盤となる共働力を持った人材を育てます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

建学の精神をベースにした人間力、観光をテーマに知識・展開する。

目標：

情報収集、言語能力、構成能力、共働力、プレゼンテーション力を身につける。

汎用的な力

- 1 . DP10. 忠恕の心
- 2 . DP4. 課題発見
- 3 . DP5. 計画・立案力
- 4 . DP9. 役割理解・連携行動
- 5 . DP7. 完遂

相手を思いやり、礼儀、マナーなどの人間力をつける。

収集した資料から課題を発見できる。

収集した資料から、新しいプランにも積極的に取り組むことができる。

集団やチームの中で自分の役割を理解し共働できる。

自分の担当カ所について指定の課題に従って資料を完成させることができる。

学外連携学修

有り（連携先：有り（連携先：ファッション関係者の講演））

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ 見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。毎回、テーマに沿ったテーマ課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後に夏休みの課題として「読書感想文」を課します。優秀者にはビブリオバトルへの参加を願うことがあります。感想文の評価は引き続き受講するキャリアデザインにて評価いたします。

成績評価の方法・評価の割合

事前課題

評価の基準

： 提出期限が守られていれば2点満点で評価する。独自のルーブリックによる。

2%

授業参加度・ワークシート

： 毎回の授業参加度は2点満点で評価する。ワークシートは1点満点で評価する。独自のルーブリックによる。

42%

課題

： 各回課題に対しては3点満点で評価する。独自のルーブリックによる。

42%

15回目の授業参加度と発表

： 発表及び授業参加度を6点満点で評価する。独自のルーブリックによる。

6%

期末試験

： 期末試験時に実施するレポート作成を8点満点で評価する。独自のルーブリックによる。

8%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

毎回資料を配布いたします。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日3限

場所： 生活デザイン第2研究室

備考・注意事項： 事前に連絡がとりたい場合は、sed@osaka-seikei.ac.jpに連絡すること。
オフィスアワー以外でも研究室に在室の時は対応いたします。気軽に質問にきてください。

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかるとの目安の時間
第1回	<p>キャリアベーシックとは。建学の精神「桃李成蹊・忠」とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアベーシックとは何か。（授業の目的と概要、進め方等を説明） ・建学の精神と忠恕を知る。 ・パーソナル・ブランド・マネジメント・プロジェクトを知る。 ・講義および自分の意見をまとめ、グループワークを実施し、グループの意見を発表する。 ・研究倫理教育の実施。 ・課題「大学に入学してから感じている学校でのマナーについて」400字程度の文章を作成し次回に提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神を読み、書かれている内容について理解し、考えておく。 <p>4時間</p>
第2回	<p>成蹊マインドについて学びを考え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マナーDVD「授業編」「自転車置き場」を鑑賞 ・DVDや前回、発表された意見、自分が作成した意見を参考にし、社会人としてのマナーを身につけるために、どのような点に注意すべきかについて自分の意見を再度まとめる。 ・グループワークを実施し、グループの意見を発表する。 ・課題「マナーの大切さを身につけるために」を作成し次回に提出する。 	<p>社会人として身につけておかなければならないマナーについて考えておく。</p> <p>4時間</p>
第3回	<p>ディスカッションの意義とその方法を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「グループディスカッションDVD」を鑑賞 ・グループディスカッションのマナーを身につけるために、ワークシートに従って意見をまとめる。 ・グループディスカッションを実施し、グループの意見を発表する。 ・課題「グループディスカッションのマナーについて」を作成し、次回に提出する。 	<p>グループディスカッションとは何か、また実施するために必要なマナーについて考えておく</p> <p>4時間</p>
第4回	<p>接遇マインド・敬語の社会性と実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接遇マインドとは、話し方と言葉づかい、電話でのマナー等について考える。 ・これまでに学んだ「パーソナル・ブランド・マネジメント・プロジェクト」の内容を身につけるために何が大切かを考える。 ・「コミュニケーション説得力テスト」の実施について講義およびテストの実施、並びに自分の意見をまとめ、グループワークを実施し発表する。 ・課題「パーソナル・ブランド・マネジメント・プロジェクトと私」を作成し次回に提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・接遇とは何か、社会人として身につけておかなければならない言葉づかいなどについて考えておく。 <p>4時間</p>
第5回	<p>現代の情報収集の方法とその実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報の収集方法やそのための倫理について考える（情報の種類と情報手段、著作権、文献引用、本、ネット、OPAC、Google、国会図書館等）。 ・調査手法やキーワード検索を身につける。 ・調べてみよう「(例)アパレル繊維の技術革新」 ・各自が調査した内容を発表 ・課題「情報収集で注意すべきこと」を作成し次回に提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を収集するための方法や手段としてどのようなものがあるか考えておく。 <p>4時間</p>
第6回	<p>情報収集方法と図書館の利用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館の活用方法、図書館で何ができるかを考える。 ・図書館の役割について理解する。 ・OPACの検索体験の実施 ・文献検索、図書貸出、図書カードについて理解する。 ・調べてみよう「第5回で調べたものについて図書館を利用して検索する」 ・課題「情報収集で学んだこと」を作成し次回に提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の役割や図書館の活用方法、自分が住んでいる地域の図書館の所在地や休館日等について調べておく。 <p>4時間</p>
第7回	<p>講演を聴いてまとめる</p> <p>講演：「ファッション業界」（仮）(学外特別講師招聘)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファッション関係の職業に従事する人から、働く者としての喜びや、心がけなければならないことについて伝えてもらう。 ・課題：「講演を聞いての要約と感想」を作成し次回に提出 	<p>事前にファッション関係の仕事について調べておく。</p> <p>4時間</p>
第8回	<p>文章による表現力を学ぶ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入学してからの自分を振り返り、どのような出会いや変化があったのかを考えまとめておく。 <p>4時間</p>

	<ul style="list-style-type: none"> 文章作成の注意点について考える（原稿用紙の書き方、文章を書き始める前に、文章構成、間違いやすい表現など）。 ワーク：作文テーマ「入学して2か月、変わった私、変わらなかった私」について書く。 <p>800字程度の文章を作成し提出</p>		
第9回	人に伝える方法論—発表とディスカッション— <ul style="list-style-type: none"> 感想文、文章の構造について考える。 「もし世界が百人の村だったら」を読む。 自分自身の感想文を書き、グループディスカッションを実施後、他のメンバーの感想を聞いて発表 課題「他のメンバーの感想を聞いて考えたこと」を作成し次回に提出。 	<ul style="list-style-type: none"> 感想文とは何か、文章の構成方法などについて調べておく。 	4時間
第10回	評論文の特徴と実際 <ul style="list-style-type: none"> コラムとは、批評文とは何かについて考える。 コラム：「コウノトリのゆりかご（編集手帳）」を読んで批評する。 参考資料を読む（赤ちゃんポストに関する現状。賛成意見、反対意見）。 赤ちゃんポストに関する自分の意見を書く。 個別意見を発表する（数名）。 <p>課題：「赤ちゃんポストについて」を作成し次回に提出</p>	<p>コラムとは何か、批評文とは何かについて調べておく。赤ちゃんポストとは何か、その必要性等について自分の意見をまとめておく。</p>	4時間
第11回	評論とディベート—ディベートの方法と実践— <ul style="list-style-type: none"> ディベートについて理解する。 作成した「赤ちゃんポスト」についての意見を賛成派、反対派に分かれてグループで討議する。 出た意見をグループでまとめ、発表する。 <p>課題：「討論から学んだこと」を作成し次回に提出</p>	<p>赤ちゃんポストについて、自分自身の賛成意見、反対意見を考えて整理しておく。</p>	4時間
第12回	時事問題を学びまとめる <ul style="list-style-type: none"> 時事問題：「AI（人工知能）と職業（仮題）」を読む。 問題点、課題を抽出し、改善点等について自分の意見を書く。 グループディスカッションを実施し、グループの意見をまとめ発表する。 課題：「他のメンバーの意見を聞いて考えたこと」を作成し次回に提出 <p>※テーマは時事情勢によって変更することがあります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 取り上げられる時事問題について、参考資料なども閲覧し、自分の意見をまとめておく。 	4時間
第13回	時事問題を討議する <ul style="list-style-type: none"> 時事問題「国内外のアパレル生産地の課題」とその関連記事を読み、主張に対して各人の意見をまとめる。 グループディスカッションを実施し、グループの意見をまとめ発表する。 課題：「他のメンバーの意見を聞いて考えたこと」を作成し次回に提出。 <p>※テーマは時事情勢によって変更することがあります。</p>	<p>取り上げられる新聞の社説について、参考資料なども閲覧し、自分の意見をまとめておく。</p>	4時間
第14回	学んだことをまとめる <ul style="list-style-type: none"> 第1～13回までに学んだことについて整理し、まとめの文章を書く。 成蹊マインドについて グループディスカッション 発表について 様々なテーマについて書いたこと 毎回の課題についてなどを作成し提出する 	<p>第1～13回までに学んだことを振り返り整理しておく。</p>	4時間
第15回	学んだことを発表する <ul style="list-style-type: none"> 前回まとめたものを発表する。 できるだけ全員発表し、称えあう。 夏休み課題：「読書感想文」 <p>※優秀者にはビブリオバトルへの参加を促す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 発表のための下書きを作成し、原稿を見なくても発表ができるようにしておく。 夏休みの課題である読書感想文を書くために読む本を選定しておく。 	4時間

授業科目名	ビジネスコミュニケーション				
担当教員名	辻 有美子				
学年・コース等	1	開講時期	前期・後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「可」

授業概要

本授業では就職や社会参加に取り組む基盤的な力を養うために、対人関係におけるコミュニケーションの基本を考察し、グループワークや発表を通して、現在の自分自身のコミュニケーション力の課題に気づき、それを乗り越える手がかりを学びます。ビジネスの場におけるコミュニケーションの基本やコミュニケーションスキルを養います。後半の授業では各自がプレゼンテーションに挑戦し、学習の効果を確認しあいます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP8. 意思疎通

具体的内容：

対人コミュニケーション力とビジネス活動の基本スキル

目標：

ビジネスシーンを想定し、自身でセールスポイントを他者に伝えることができる。

ペアワークや討議により自身のコミュニケーション力の課題に気づくことができる。

グループワークにより他者の意見を聞き、自身の考えを正確に伝えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

グループワークへの取り組み

15%

個別レポート

20%

プレゼンテーションのワーク作成と発表

25%

定期試験

40%

評価の基準

グループワークで積極的な役割を評価：5段階で評価。個人レポートにおける情報の収集・整理内容と意見：5段階で評価。

4回の課題レポートで、関連する情報を集め、分析的に整理する。各5点。

講義におけるワークに対する真摯な取り組み態度(ワーク完成):10点満点。発表態度と内容の工夫:10点満点。

講義におけるコミュニケーションやビジネス社会の基礎的な知識の理解度を確認(60%)、論述式の問題は、前向きな取り組み意識が自分の言葉で表現・記述できているかを評価する(40%)。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし。授業の中で適時、紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業の前後
場所：	授業の教室、研究室
備考・注意事項：	社会に出れば遅刻は厳禁、ビジネスマナーとして時間厳守は常識です。公共交通遅延など特別な事情がない限り遅刻は5分まで認めますが2回遅刻で1回欠席とみなします。

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	コミュニケーションの基本原則 社会生活におけるコミュニケーションの原理について考えます。世の中は「人間対人間」なので、どんな人でもどんな状況でも人間の心理を知る必要があります。仕事や社会生活をスムーズにするため、好感度の高いコミュニケーションなどについて考えます。	社会人として必要なマナーについて考える。 4時間
第2回	ビジネスマナーの基本 ビジネスマナーや円滑なビジネスのためのエチケットなどについて学びます。	現在の自分自身のコミュニケーション力の現状・課題についてレポート作成する。 4時間
第3回	自己開示と自己紹介の実践 自己開示(セルフディスクロージャー)の原則について学び、「一対多」の自己紹介を実践します。	自己開示(セルフディスクロージャー)の理論を復習し、「自分のアピールポイント」を整理し掘り下げる。 4時間
第4回	好意的な話し方と印象 「好意的な印象」がどのように形成されるか検討・整理し、言語と言語以外のコミュニケーション手法などについて学びます。	図書館やインターネットなどで自分が気になる自己啓発やコミュニケーションスキルに関する本を探し、書名をレポートにまとめる。 4時間
第5回	他者への関心と人間心理 「自己紹介」を行い、相手を知ることの重要性を学び、「共感力」や人間関係のあり方について討議します。	日常生活でコミュニケーションがうまくいかなかった体験とその理由をレポートにまとめる。(課題レポート1) 4時間
第6回	日常のコミュニケーション課題と克服策 アンケートによるコミュニケーション課題を整理し、グループで解決策を調べ、発表準備を行います。	アクティブ・リスニングの手法を復習し、グループ毎に課題に関する情報を収集・整理する。 4時間
第7回	グループワーク発表① 「初対面の人と気軽に話ができる」「第一印象を向上させる」などのテーマについてグループで発表し、全員で内容を掘り下げます。	グループワーク報告書、および個人レポートを作成する。 4時間
第8回	グループワーク発表② 「スピーチや発表の苦手を克服する」「相手を気遣いながら自己主張を行う」などのテーマについてグループで発表し、全員で内容を掘り下げます。	グループワーク報告書、および個人レポートを作成する。 4時間
第9回	ビジネス活動におけるコミュニケーションの特徴 ビジネス活動や運営の基礎的な仕組みを理解し、ビジネスパーソンのコミュニケーション、チームワークの大切さ、「ホウ・レン・ソウ」について学びます。	社会人として、ビジネスパーソンとして好意的・効果的な話し方や接客用語の基本についてレポートする。(課題レポート2) 4時間
第10回	三方よしのコミュニケーション 「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」のコミュニケーションについて理解し、営業活動や消費者の立場、社会や環境などを含めたビジネスコミュニケーションについて学びます。	一消費者あるいは客として受けた接客サービスで、印象に残った対応や経験についてレポートする。(課題レポート3) 4時間
第11回	グローバル人材と職場のグローバル化への備え グローバル人材として外国人の同僚と働くことや、異文化コミュニケーションについて理解します。	多文化共生社会とはどういうことかをふまえて、異文化を持つ相手とのビジネスコミュニケーションについてレポートする。(課題レポート4) 4時間
第12回	ビジネス活動における営業やセールスポイント、効果的なプレゼンテーション ビジネス活動における「セールスポイント」の発想を参考にし、プレゼンテーションや効果的な交渉力について学びます。	プレゼンテーションの技法について実例を調べる 4時間
第13回	「私のセールスポイント」を考える ワークシートを使い自己分析し、自分の強みや特徴を整理したうえで、「私のセールスポイント」を見つけ出します。	ワークシートを完成させ、自分らしさをどのように表現するかを検討する。 4時間
第14回	発表シナリオを作る 「私のセールスポイント」を皆に発表するために、発表シナリオを作成します。	発表シナリオを完成させ、内容を磨く。シナリオを声に出して発声練習を行う。 4時間
第15回	「私のセールスポイント」発表と検証 準備したシナリオを基に皆の前で発表を行い、アピール力の課題発見を行います。	「自分を売り込む力」を向上させる課題を再確認する。 4時間

授業科目名	情報処理概論				
担当教員名	長澤直子				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	パソコンを用いた演習形式で授業する。				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	企業において文書実務に携わった経験があります。また、Microsoft認定講師として企業研修に携わった経験があります。(全15回)				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目では、ビジネスシーンで欠かすことのできないPCのオフィスソフト(Word、Excel、PowerPoint)を用いて、書類作成や表計算、プレゼンテーション資料の作成について学びます。それぞれのソフトウェアの基本的な操作方法を習得し、的確に作業をするために必要な知識と技能を身に付けます。また、PCでのEメール送信時のマナー等についても学習します。学生生活のみならず、社会人となってからの仕事も見据えて取り組んでいきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	社会常識	ビジネスシーンで求められる作法、資料作成上の常識を身につけ、実践できる
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	情報処理の専門技能	ビジネスで使用するソフトウェアを操作・活用できる
汎用的な力		
1．DP6. 行動・実践		各種ソフトの使い方や表現の工夫が出来、実践的な使い方ができる。
2．DP8. 意思疎通		ソフトの使い方のみではなく、分かりやすい文章表現やデザインで表現できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

成績評価の方法	評価の割合	評価の基準
Word・Excel提出課題	20%	: 期間中4回の提出物を課します。実習内容を理解し、出題内容に忠実な作業ができているものを評価し、ミスがあるものは減点します。
試験（実技）	20%	: 授業内で学んだ技能を利用して、限られた時間内に書類（表やグラフ等を含むもの）を作成する実技試験を実施します。出題の趣旨に沿った書類が作成されたものを満点とし、ミスがあるものは減点します。
文字入力	10%	: 文字入力能力を測定します。P検3級レベルに達することを目標とします。
プレゼン資料課題	20%	: 授業内で実施するプレゼンの作成資料提出を課します。評価基準は、テキスト内で「良い例」とされているものに沿っており、規定の時間内にプレゼンできるものを満点とし、基準に沿わないものは減点します。
プレゼンテーション（実技）	20%	: 授業内で実施するプレゼンテーションのパフォーマンスを相互に採点します。ライブ感のある良いパフォーマンスができたチームを高評価します。
試験（筆記）	10%	: 学期末に、授業内で学んだことに対する知識の確認を行います。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
杉本くみ子・吉田栄子	・ 30時間アカデミック・情報リテラシーOffice2010	・ 実教出版	・ 2011年

参考文献等

授業中に適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	木曜日2限（10:40～12:10）
場所：	研究室（西館5F）
備考・注意事項：	アポイントのある方を優先します。

授業計画

回	授業の概略説明、学内ネットワークおよびPCの利用について	各自の端末で、ポータルシステムから学内メールに接続してみましょう	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	授業の概略説明、学内ネットワークおよびPCの利用について この授業の到達目標、ネットワークへのログイン、ネットワークドライブ、学内メールについて学びます。	各自の端末で、ポータルシステムから学内メールに接続してみましょう	4時間
第2回	Excelの知識(1)基本操作 Excelの画面構成、データの入力・編集について学びます。	Excelでのデータ入力や編集作業について、授業中に操作した内容を再度確認してみましょう	4時間
第3回	Excelの知識(2)数式入力とデータの編集 Excelを用いた数式の入力、およびデータの編集方法について学びます。	数式について、授業中に解いた問題を再度解いてみましょう／自由課題にチャレンジしてきましょう	4時間
第4回	Excelでの表作成(1)関数 Excelを用いた表作成、主に関数について学びます。	関数について、授業中に解いた問題を再度解いてみましょう／テキストに掲載されている関数について試してみましょう	4時間
第5回	Excelでの表作成(2)表の編集 Excelを用いた表作成、主に罫線と表示形式について学びます。	表の編集について、授業中に解いた問題を再度解いてみましょう／自由課題にチャレンジしてきましょう	4時間
第6回	Excelでの表作成(3)いろいろな数式 数式入力における相対参照と絶対参照、およびいろいろな関数の利用について学びます。	絶対参照と相対参照について、授業中に解いた問題を再度解いて理解を深めましょう	4時間
第7回	Excelでのグラフ作成 Excelでのグラフ作成の基本について学びます。配置やサイズ変更、タイトルや軸ラベルの追加について学びます。	グラフについて、授業中に解いた問題を再度解いてみましょう／授業時間内に解き切れなかった問題を最後まで解きましょう	4時間
第8回	Eメールの送受信について PCを用いたEメールの送受信について学びます。メールソフトの操作方法とマナー、添付ファイルの添付方法等について確認します。	学内メールを用いてメールの送受信を試みましょう。	4時間
第9回	Wordの知識(1)基本操作 Wordの画面構成、新規文書の書式設定、文字入力と編集機能について学びます。	編集機能について、授業中に解いた問題を再度解いてみましょう／自由課題にチャレンジしてきましょう	4時間
第10回	Wordの知識(2)表の作成 Wordでの表作成について学びます。	表と罫線について、授業中に解いた問題を再度解いてみましょう	4時間
第11回	既存のデータを利用した文書の作成 既存の文書を組み合わせた書類の作成方法について学びます。WordにExcelのデータを貼りつけたり、写真を挿入したりします。	これまでの内容を総復習しておきましょう	4時間
第12回	ここまでのまとめ (WordとExcelを用いた実技試験) これまでに学んだ技能を活かして、WordとExcelを用いて限られた時間内に書類を作成する実技試験を実施します。試験後は、解説を行います。	次回以降のプレゼンに向けて、企画案を練りましょう	4時間
第13回	プレゼンテーションの企画 PowerPointを用いたプレゼンテーションの企画方法について学びます。ストーリー構成を考え、アウトライン機能でスライドを作成・編集する方法について学習します。	発表シナリオが未完成の場合は、完成させましょう／完成した場合は、発表原稿を考えましょう	4時間
第14回	プレゼンテーション資料の作成 3人程度のグループで、紹介したい内容についての紹介スライドを作成する作業を行います。発表のシナリオを作成し、発表の練習をします。	発表の練習をしましょう	4時間

第15回

グループによるプレゼンテーションの実施

前回の授業で作成したスライドとシナリオによって、グループでプレゼンテーションを実施します。クラス内で、相互に評価をします。

自分たちのプレゼンを振り返り、足りなかった部分を確認しましょう

4時間

授業科目名	情報処理概論				
担当教員名	福永栄一				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	パソコンを用いた演習形式で授業する。必要に応じて資料をデータや印刷物で配布し、授業で作成したファイルの提出を求める。演習形式のため、課題の提出は必須とする。				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	企業内で情報システムの開発・運用を行っていました。全15回を担当します。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目では、ビジネスシーンで欠かすことのできないPCのオフィスソフト(Word、Excel、PowerPoint)を用いて、書類作成や表計算、プレゼンテーション資料の作成について学びます。それぞれのソフトウェアの基本的な操作方法を習得し、的確に作業をするために必要な知識と技能を身に付けます。また、PCでのEメール送信時のマナー等についても学習します。学生生活のみならず、社会人となってからの仕事も見据えて取り組んでいきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	社会常識	ビジネスシーンで求められる作法、資料作成上の常識を身につけ、実践できる
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	情報処理の専門技能	ビジネスで使用するソフトウェアを操作・活用できる
汎用的な力		
1．DP6. 行動・実践		各種ソフトの使い方や表現の工夫が出来、実践的な使い方ができる。
2．DP8. 意思疎通		ソフトの使い方のみではなく、分かりやすい文章表現やデザインで表現できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業への取組と課題	評価の基準
30%	: 授業に集中して取組んだか、アクティブに取り組んだか、周りの学生やクラスに協力したか、授業内容を確実に理解したか、課題に教員の指示通り取組み成果物を作りあげたかななどを評価します。
確認問題	: 確認問題に複数回チャレンジします。授業で学んだ知識や技術を修得しているか、知識と技術を応用する力があるか、パソコンの操作が早く・正しく・効率的にできるかななどを評価します。
40%	
期末試験	: 授業で学んだ知識や技術を修得できたか、知識と技術を応用する力が身についたか、パソコンの操作が早く・正しく・効率的にできるようになったかななどを評価します。
30%	

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
山崎紅・川上恭子	情報利活用 コンピュータリテラシー Office2013/2010対応	日経BP社	2013年

参考文献等

授業中に適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日4限目（14:40-16:10）
場所： 研究室（西館5階）
備考・注意事項： アポイントのある方を優先します。

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	授業の概略説明、学内ネットワークおよびPCの利用について この授業の到達目標、ネットワークへのログイン、ネットワークドライブについて学びます。Wordでの文字の入力について学びます。	授業とは別の場所でポータルシステムからネットワークへのログインしましょう。 4時間
第2回	文書の作成と管理 Wordでの文字の入力と文書の保存について学びます。	授業中に実施した課題を復習しましょう 4時間
第3回	一般的なビジネス文書の作成 ビジネス文書の基本ルールと、Wordを用いた文書の編集について学びます。 確認問題にチャレンジします。	授業中に解いた問題を再度解いてみましょう／授業時間内に解き切れなかった問題を最後まで解きましょう 4時間
第4回	シンプルなレポートや報告書の作成 レポート作成の基本ルールと、Wordでの文字の移動とコピーの方法、箇条書きと段落番号、行間の調整について学びます。	授業中に実施した課題を復習しましょう 4時間
第5回	Eメールの送受信について PCを用いたEメールの送受信について学びます。メールソフトの操作方法とマナー、添付ファイルの添付方法等について確認します。Wordで作成した文書を添付します。 確認問題にチャレンジします。	授業中に解いた問題を再度解いてみましょう／授業時間内に解き切れなかった問題を最後まで解きましょう 4時間
第6回	表計算の基本操作 Excelでの文字や数値の入力、ブックの保存、数式の入力、関数による合計の計算について学びます。	授業中に実施した課題を復習しましょう 4時間
第7回	表を見やすく使いやすくする編集操作 Excelでの表の列幅の調整、表の構成の変更、セルの結合について学びます。	授業中に実施した課題を復習しましょう 4時間
第8回	数式・関数を活用した集計表の作成(1)絶対参照・平均・最大値・最小値 Excelでの計算時に用いる絶対参照と相対参照、平均、最大値と最小値の求め方について学びます。 確認問題にチャレンジします。	授業中に解いた問題を再度解いてみましょう／授業時間内に解き切れなかった問題を最後まで解きましょう 4時間
第9回	数式・関数を活用した集計表の作成(2)端数処理・分岐処理 Excelでの計算時に用いる端数処理（四捨五入、切り捨て、切り上げ）、条件分岐（IF関数）について学びます。	授業中に実施した課題を復習しましょう 4時間
第10回	グラフ作成の基本 Excelでのグラフ作成の基本について学びます。配置やサイズ変更、タイトルや軸ラベルの追加について学びます。 確認問題にチャレンジします。	授業中に解いた問題を再度解いてみましょう／授業時間内に解き切れなかった問題を最後まで解きましょう 4時間
第11回	既存のデータを利用した文書の作成 既存の文書を組み合わせる書類の作成方法について学びます。WordにExcelのデータを貼り付けたり、写真を挿入したりします。	これまでの内容を総復習しましょう 4時間
第12回	ここまでのまとめ（WordとExcelを用いた書類の作成） これまでに学んだ技能を活かして、WordとExcelを用いて限られた時間内に書類を作成します。 確認問題にチャレンジします。	授業中に解いた問題を再度解いてみましょう／授業時間内に解き切れなかった問題を最後まで解きましょう 4時間
第13回	プレゼンテーションの企画・資料作成 PowerPointを用いたプレゼンテーションの企画方法について学びます。ストーリー構成を考え、アウトライン機能でスライドを作成・編集する方法について学習し、資料を作成します。	PowerPointの操作を復習しましょう 4時間
第14回	プレゼンテーション資料の作成 これまでに学んだパソコンの技術を使って、PowerPointでプレゼンテーション資料を作成する作業を行います。EXCELとWordも使って発表資料を作成します。	EXCELとWord、PowerPointの操作を復習しましょう 4時間
第15回	プレゼンテーション資料の完成 EXCELとWord、PowerPointを駆使してプレゼンテーション資料を完成させます。 確認問題にチャレンジします。	全体を振り返り、足りなかった部分を確認しましょう 4時間

授業科目名	情報処理概論				
担当教員名	吉田澄江				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	配布プリントを使って操作手順を学び（講義）、実践力を養うためにできるだけ多くの練習課題に取り組む（演習）。受講生のレベルに応じて、検定問題などの個別課題も用意する。授業は毎回課題のス				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	コンピュータスクールにてマネージャー職および Microsoft Office講師。企業の広報部にて広告媒体を企画・デザイン・制作。（全15回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

コンピュータ（Windows）の基本操作を理解していることを前提にし、学内におけるコンピュータ・ネットワーク環境の知識と操作法を学んだうえで、情報社会に対応するスキルとして①情報モラルとセキュリティ②Eメールとインターネットのマナーとルールを習得する。また、ビジネス活用できるスキルとして①タッチタイピングの習得（各自のレベルに応じて目標を設定）②Word・Excel・PowerPointの実践的な使い方を習得。Word・Excel・PowerPointは、実際にビジネスの現場で使われる題材を使用し、実践的に学習する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

情報リテラシー

目標：

情報社会を生き抜くためのルールやマナー、セキュリティの知識、Windowsの操作からインターネットを利用した情報収集、Officeの活用まで、情報化社会に対応する能力を身に付ける。

汎用的な力

- DP4. 課題発見

パソコンの実習を通して、情報を適切に活用し課題を解決する知識や技能を養い、実践に活かせるスキルを習得する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

単元ごとの課題	40%	： タイピング 3ファイル（10点）、Word 5ファイル（10点）、Excel 5ファイル（10点）、PowerPoint 2ファイル（10点）計40点
アプリケーションごとの実技テスト	30%	： Word（ビジネス文書作成）、Excel（関数とグラフを含む課題作成）
授業への取り組み状況	15%	： 授業内外において、積極的に課題に取り組む姿勢があるかどうかを評価する
試験（実技）	15%	： PowerPoint（自由テーマでプレゼンテーションを作成）

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

情報リテラシー 総合編／FOM出版、その他授業内で適宜紹介する

履修上の注意・備考・メッセージ

※本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
 ※毎回の授業開始前にパソコンを起動し、ログインしておくこと。
 ログインに必要なユーザIDとパスワードを初回授業から必ず持参してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前後
 場所： 授業の教室
 備考・注意事項： 授業前後に質問対応します。
 その他連絡が必要な場合はEメールで。（吉田：yoshida-s@osaka-seikei.ac.jp）

授業計画		授業外学修課題にかかると目安の時間
第1回	オリエンテーション／学内PCの操作確認 <ul style="list-style-type: none"> 学内におけるコンピュータ環境の概要説明と使用方法 Windowsの基本操作確認 ドライブ、フォルダ、ファイルの説明、課題の保存・提出先について タイピングスキルチェック（10分間入力） タイピング練習ソフトを使った練習法 	タイピング練習／キーと指の対応を予習 4時間
第2回	コンピュータの活用1 ～タッチタイピングをマスターする～ <ul style="list-style-type: none"> タイピングの基本／キーと指の対応 ローマ字入力スピードアップ術 タイピングソフトを使用した練習法 入力目標を設定する 効率のよい入力を行うための変換技 ショートカットキーを使いこなす 便利な機能の活用（変換モード／辞書ツール／IMEパッド） 	タイピング練習（10分間に入力できる文字数の目標を+200文字に設定） 4時間
第3回	コンピュータの活用2 ～情報化社会に対応するスキルとは～ <ul style="list-style-type: none"> 情報モラルとセキュリティ インターネットを使いこなす Eメールのルールとマナー 	ビジネスメールの作成と送信／Word基本操作の予習 4時間
第4回	Word1 ～ビジネス文書を作成する（基本編）～ <ul style="list-style-type: none"> 入力と編集の基本 文字と段落の書式設定 ビジネス文書の基本フォーマット 	Word課題①（ビジネス文書基本編）の復習 4時間
第5回	Word2 ～表作成とビジネス文書（応用編）～ <ul style="list-style-type: none"> 表の挿入と編集（罫線／網掛け／デザイン編集） 表を含むビジネス文書作成 	Word課題②（ビジネス文書応用編）の復習 4時間
第6回	Word3 ～Wordを使ってチラシやポスターを作成する～ <ul style="list-style-type: none"> 表現力をアップする機能 オブジェクトの利用（図形作成／クリップアート／ワードアート） オブジェクトを利用した文書作成 	Word課題③（チラシ作成）の復習 4時間
第7回	Word4 ～実践テクニックと地図作成～ <ul style="list-style-type: none"> Word実践テクニック（テンプレートの活用／線種とページ罫線と網掛けの設定／図表と組織図） 実践テクニックを活用したビジネス文書作成 地図作成とPDF変換 	Word課題④（地図作成～PDF保存）の復習 4時間
第8回	Word5 ～実技テストと解説～ <ul style="list-style-type: none"> Word実技テスト 実技テスト解説 	Word実技テストの復習／ここまで学んだWord課題の復習と提出確認／Excel基本操作の予習 4時間
第9回	Excel1 ～Excelの基本操作と表作成～ <ul style="list-style-type: none"> データ入力の基礎と手順 シートとセルの操作、書式設定 表の作成と編集 	Excel課題①②（売上表・管理表作成）の復習 4時間
第10回	Excel2 ～絶対参照／相対参照と関数を理解する～ <ul style="list-style-type: none"> 演算処理 絶対参照と相対参照の違い 関数の使い方と活用 	Excel課題③（絶対参照と相対参照）の復習 4時間
第11回	Excel3 ～グラフの作成とデザイン編集～ <ul style="list-style-type: none"> グラフの用途と種類、基本構成について 各種グラフを作成する 色々なデザインにアレンジする 	Excel課題④（様々なグラフ作成）の復習 4時間
第12回	Excel4 ～実践テクニックと複雑な関数～ <ul style="list-style-type: none"> Excel実践テクニック（関数の応用／関数のネスト／ワークシート／リスト／条件付き書式など） 	Excel課題⑤（関数の活用課題）の復習 4時間
第13回	Excel5 ～実技テストと解説～ <ul style="list-style-type: none"> Excel実技テスト 実技テスト解説 	Excel実技テストの復習／ここまで学んだExcel課題の復習と提出確認 4時間
第14回	PowerPoint1 ～基本操作とプレゼンテーション作成～ <ul style="list-style-type: none"> PowerPointの基本操作 基本的なプレゼンテーションの作成 オブジェクト（表、グラフ、図形、グラフィック）を活用したプレゼンテーションの作成 	PowerPoint課題①（プレゼンテーション作成基本編）の復習 4時間
第15回	PowerPoint2 ～スライド作成の応用とプレゼンテーション実施のコツ～ <ul style="list-style-type: none"> 様々な特殊効果（アニメーション・画面切り替え効果）をマスターする プレゼンテーション実施のコツ スライドのカスタマイズ 	PowerPoint課題②（アニメーションや特殊効果を含むプレゼンテーション作成応用編）の復習 4時間

授業科目名	情報処理概論				
担当教員名	澤田和也・山下義裕				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	毎回パソコン教室にて演習形式で実施する。配布プリントをもとに、毎回のテーマに沿って基礎技術を習得し、演習形式でその技術を用いた提出課題を作成して提出する。				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業の初期段階では、在学中にネットワーク環境を問題なく使いこなせるようになるため、PCの基本操作やメール、LANの基本構造について習得する。さらに在学中および卒業後に必ず必要となるパソコンのアプリケーションソフト（特にWord、Excel、PowerPoint）の最も基本的な操作について習得する。将来のダブル・ファッション業界での業務を考慮し、情報収集力とプレゼンテーションのスキルも身につけるため、最終段階において上記アプリケーションソフトを総合的に利用し、特定の課題に対するプレゼンテーションを実施する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

汎用的な力

- 1 . DP7. 完遂

具体的内容：

パソコンの基礎的操作を通じ、与えられた課題に対して、必要な情報についてwebを通して入手出来るようになる。

目標：

Word、Excel、PowerPointの基本操作を通じ、情報収集に基づく整理とプレゼンテーションを行う。

企画したテーマを達成するために、情報収集力を駆使し最後まで課題を最後まで完成させることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・実験、実技、実習
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業開始前にPCを起動しておくこと。
原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

毎回の課題内容への取組み状況	25%	： 指示された内容について取り組んでいるかを判定する
毎回の提出物の評価	20%	： 指定の課題に対して的確に実践できているかを判定する
プレゼンテーション力	25%	： 指定課題内容を含んでいるか、分かり易い発表を行っているかを判定する
定期試験	30%	： 養われるべき力が到達目標に達しているかどうかを実技テストで判定する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

よくわかる Microsoft Excel 2013 基礎 Windows 10/8.1/7対応 (FOM出版のみどりの本) 富士通エフ・オー・エム株式会社 (FOM出版) (著) ISBN-10: 4865102612, ISBN-13: 978-4865102611, 2015/11/16
よくわかる Microsoft Word 2013 基礎 Windows 10/8.1/7対応 (FOM出版のみどりの本) 富士通エフ・オー・エム株式会社 (FOM出版) (著), ISBN-10: 4865102639, ISBN-13: 978-4865102635, 2015/11/16
よくわかるMicrosoft PowerPoint 2016 基礎 富士通エフ・オー・エム株式会社 (FOM出版) (著), ISBN-10: 4865102795, ISBN-13: 978-4865102796, 2016/3/22

履修上の注意・備考・メッセージ

授業開始前にPCを起動しておくこと。
本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 澤田 月曜日 (1限) 山下 月曜日 (1限)
 場所： 生活デザイン第1研究室
 備考・注意事項： オフィスアワー以外でも在室時にはいつでも対応します。

授業計画		授業外学修課題にかかるとかかる目安の時間
第1回	学内PC環境の概要説明 (コンピュータスキルの向上に向けて) 学内におけるコンピュータやネットワーク環境の概要説明と使用方法について理解する。 授業における課題提出の方法を理解する。	メールの使用方法、学内のオンラインシステムを理解する。 4時間
第2回	Wordの操作1 (文書の保存と印刷) 基本的な文書の作成および保存、印刷の手法を習得する。 授業内容をもとに指定された提出用課題を作成する。	メニューバーやツールバー (リボン) の使い方を復習しておく。 4時間
第3回	Wordの操作2 (文書作成) 文書作成におけるテクニック、表作成と書式操作について習得する。 授業内容をもとに指定された提出用課題を作成する。	単語登録、特殊記号、インデント、行間設定など文書作成の基本テクニックを復習しておく。 4時間
第4回	Wordの操作3 (資料作成と応用機能) 文書作成における頻度の高い応用機能について習得する。 授業内容をもとに指定された提出用課題を作成する。	縦書きと横書き、段組み、文字の修飾など、機能性のある手法を復習しておく。 4時間
第5回	Excelの操作1 (入力とシートの理解) 基本操作として、セルへのデータ入力、修正、移動、コピーについて習得する。 授業内容をもとに指定された提出用課題を作成する。	メニューバーやツールバー (リボン) の使い方を復習しておく。 4時間
第6回	Excelの操作2 (演算・関数) 演算として数式の入力、関数使用・作成について習得する。 Excelを用いて表作成に関数機能を利用する能力を習得する。 授業内容をもとに指定された提出用課題を作成する。	表計算の基礎となる演算方法を復習しておく。 4時間
第7回	Excelの操作3 (グラフと資料の作成) グラフ作成方法について習得する。 授業内容をもとに指定された提出用課題を作成する。	種々のグラフ作成と表示方法や機能について復習しておく。 4時間
第8回	PowerPointの操作1 (デザインの基本) 基本操作として文字入力および体裁の変換方法について習得する。 授業内容をもとに指定された提出用課題を作成する。	メニューバーやツールバー (リボン) の使い方を復習しておく。 4時間
第9回	PowerPointの操作2 (図形描画の基本) 図形描画の手法について習得する。 授業内容をもとに指定された提出用課題を作成する。	オートシェイプ機能やレイアウトの基本ツールについて復習しておく。 4時間
第10回	PowerPointの操作3 (プレゼンテーションの手法) プレゼンテーション機能について学ぶ。 PowerPointにExcelで作成した表やグラフを貼り付けることができる技術を習得する。 授業内容をもとに指定された提出用課題を作成する。	背景設定やアニメーションの機能について復習しておく。 4時間
第11回	プレゼンテーション準備1 (Word, Excel, PowerPointの総理解) プレゼンテーション課題の提示と、それをもとにした情報収集およびPowerPointによる簡単なプレゼンテーションの準備。	インターネットを用いた情報収集と編集およびプレゼンテーションファイル作成を復習しておく。 4時間
第12回	プレゼンテーション準備2 (Word, Excel, PowerPointの総理解) プレゼンテーション課題の提示と、それをもとにした情報収集およびPowerPointによる簡単なプレゼンテーションの準備を引き続き行う。	インターネットを用いた情報収集と編集およびプレゼンテーションファイル作成を復習しておく。 4時間
第13回	プレゼンテーションと講評の報告1 (発表体験と講評練習) 前回までの授業で作成したプレゼンテーションファイルをもとに一人ずつ発表を行う。また、発表者のプレゼンテーションをもとに、それぞれの講評をまとめ提出する。	他人のプレゼンテーションについて、客観的な視線で講評できているかを再考しておく。 4時間
第14回	プレゼンテーションと講評の報告2 (発表体験と講評練習) 引き続き、前回までの授業で作成したプレゼンテーションファイルをもとに一人ずつ発表を行う。また、発表者のプレゼンテーションをもとに、それぞれの講評をまとめ提出する。	他人のプレゼンテーションについて、客観的な視線で講評できているかを再考しておく。 4時間
第15回	プレゼンテーションに関する総括 全員の発表および講評の報告書をうけて、その内容を総括し、Word, Excel, Powerpointのプレゼンテーションに必要な能力を習得する。	自身で考えていることを正確に相手に伝えるためのプレゼンテーションに必要な、PCソフトの使用方法について総復習する。 4時間

授業科目名	キャリアベーシック				
担当教員名	山本友江・草尾賀子・田原 彩・瀬川悠紀子				
学年・コース等	調理・製菓学科1年生	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	回ごとに設定した授業内容により、それにふさわしい形態で授業を実施します。				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示「不可」

授業概要

短大での2年間の学びをスムーズに始められるように、初年次教育の一環として建学の精神「桃李ものいわざれど下おのずから道をなす」を理解し、建学の精神を身に付けます。また、学びの基盤となるスキル・能力を身につけること、即ち情報収集力（「聞き取る力」「読み取る力」）、言語能力（「書く力」「話す力」）、構成能力（「伝える力」「プレゼンテーション能力」）の習得を目指します。さらに社会人の基礎となる共働力をを持った人材を育てます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1.幅広い教養やスキル	建学の精神をベースにした人間力、食をテーマに知識・展開する。	情報収集、言語能力、構成能力、共働力、プレゼンテーション力を身につける。
汎用的な力		
1．DP10. 忠恕の心		相手を思いやり、礼儀、マナーなどの人間力をつける。
2．DP4. 課題発見		収集した資料から課題を発見できる。
3．DP5. 計画・立案力		収集した資料から、新しいプランにも積極的に取り組むことができる。
4．DP9. 役割理解・連携行動		集団やチームの中で自分の役割を理解し共働できる。
5．DP7. 完遂		自分の担当箇所について指定の課題に従ってレポートを完成させることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。毎回、テーマに沿ったテーマ課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後に夏休みの課題として「読書感想文」を課します。優秀者にはビブリオバトルへの参加を願うことがあります。感想文の評価は引き続き受講するキャリアデザインにて評価いたします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
事前課題	: 提出期限が守られていれば2点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
2%	
授業参加度・ワークシート（1～14回）	: 毎回の授業参加度は2点満点で評価する。ワークシートは1点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
42%	
課題（1～14回）	: 各回課題に対しては3点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
42%	
15回目の授業参加度と発表	: 発表及び授業参加度を6点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
6%	
期末試験	: 期末試験時に実施するレポート作成を8点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
8%	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

毎回資料を配布いたします。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 山本：オフィスアワーは月曜2限（10：40～12：10）調理研究室（本館3階）
草尾：オフィスアワーは月曜4限（14：40～16：10）フードコーディネーター研究室（本館3階）
田原：オフィスアワーは月・木曜（12：10～13：00）製菓研究室（本館3階）
瀨川：授業時間の終了後に講義教室もしくは非常勤講師室で受け付けます。

授業計画

第1回	キャリアベーシックとは。建学の精神「桃李成蹊・忠恕」とは。	・建学の精神を読み、書かれている内容について理解し考えておく。	授業外学修課題にかかる目安の時間 4時間
第2回	成蹊マインドについて学びを考える	・社会人として身に付けておかなければならないマナーについて考えておく。	4時間
第3回	ディスカッションの意義とその方法を学ぶ	・グループディスカッションとは何か、また実施するために必要なマナーについて考えておく。	4時間
第4回	接遇マインド・敬語の社会性と実際	・接遇とは何か、社会人として身に付けておかなければならない言葉づかいなどについて考えておく。	4時間
第5回	現代の情報収集の方法とその実際	・情報を収集するための方法や手段としてどのようなものがあるかを考えておく。	4時間
第6回	情報収集方法と図書館の利用について	・図書館の役割や図書館の活用方法、自分が住んでいる地域の図書館の所在地や休館日等について調べておく。	4時間
第7回	講演を聴いてまとめる	・事前に講演者の勤務先のホームページを閲覧し、食業界について調べ、質問内容を考えておく。	4時間

第8回	<p>文章による表現力を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章作成の注意点について考える（原稿用紙の書き方、文章を書き始める前に、文章校正、間違いやすい表現など）。 ワーク：作文テーマ「入学して2か月、変わった私、変わらなかった私」について書く。800字程度の文章を作成し提出 	<ul style="list-style-type: none"> 入学してからの自分を振り返り、どのような出会いや変化があったのかを考えまとめておく。 	4時間
第9回	<p>人に伝える方法論—発表とディスカッション—</p> <ul style="list-style-type: none"> 感想文、文章の構造について考える。 「もし世界が百人の村だったら」を読む。 自分自身の感想文を書き、グループディスカッションを実施後、他のメンバーの感想を聞いて発表 課題「他のメンバーの感想を聞いて考えたこと」を作成し次回に提出 	<ul style="list-style-type: none"> 感想文とは何か、文章の構成方法などについて調べておく。 	4時間
第10回	<p>評論文の特徴と実際</p> <ul style="list-style-type: none"> コラムとは、批評文とは何かについて考える。 コラム：「コウノトリのゆりかご（編集手帳）」を読んで批評する。 参考資料を読む（赤ちゃんポストに関する現状。賛成意見、反対意見）。 赤ちゃんポストに関する自分の意見を書く。 個別意見を発表する（数名）。 課題「赤ちゃんポストについて」を作成し次回に提出 	<ul style="list-style-type: none"> コラムとは何か、批評文とは何かについて調べておく。 赤ちゃんポストとは何か、その必要性等について自分の意見をまとめておく。 	4時間
第11回	<p>評論とディベート—ディベートの方法と実践—</p> <ul style="list-style-type: none"> ディベートについて理解する。 作成した「赤ちゃんポスト」についての意見を賛成派、反対派に分かれてグループで討議する。 出た意見をグループでまとめ、発表する。 課題「討論から学んだこと」を作成し次回に提出 	<ul style="list-style-type: none"> 赤ちゃんポストについて、自分自身の賛成意見、反対意見を考えて整理しておく。 	4時間
第12回	<p>時事問題を学びまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> 時事問題「食の問題を考える①（仮）」を読む。 問題点、課題を抽出し、改善点等について自分の意見を書く。 グループディスカッションを実施し、グループの意見をまとめて発表する。 課題「他のメンバーの意見を聞いて考えたこと」を作成し次回に提出 <p>※テーマは時事情勢によって変更することがあります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 取り上げられる時事問題について、参考資料なども閲覧し、自分の意見をまとめておく。 	4時間
第13回	<p>時事問題を討議する</p> <ul style="list-style-type: none"> 時事問題「食の問題を考える②（仮）」とその関連記事を読み、主張に対して各人の意見をまとめる。 グループディスカッションを実施し、グループの意見をまとめて発表する。 課題「他のメンバーの意見を聞いて考えたこと」を作成し次回に提出 <p>※テーマは時事情勢によって変更することがあります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 取り上げられる時事問題について、参考資料なども閲覧し、自分の意見をまとめておく。 	4時間
第14回	<p>学んだことをまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1～13回までに学んだことについて整理し、まとめの文章を書く。 成蹊マインドについて グループディスカッション 発表について 様々なテーマについて書いたこと 毎回の課題について などを作成し提出する 	<ul style="list-style-type: none"> 第1～13回までに学んだことを振り返り整理しておく。 	4時間
第15回	<p>学んだことを発表する</p> <ul style="list-style-type: none"> 前回まとめたものを発表する。 できるだけ全員発表し、称えあう。 夏休み課題「読書感想文」 <p>※優秀者にはビブリオバトルへの参加をお願いすることがあります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 発表のための下書きを作成し、原稿を見なくても発表が出来るようにしておく。 夏休みの課題である読書感想文を書くために読む本を選定しておく。 	4時間

授業科目名	海外語学演習（英語）				
担当教員名	麻島徳子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

可

授業概要

この授業は海外語学留学に行く学生のために、留学生生活をスムーズに開始し、現地での大学生活に適応して、積極的かつ有意義に留学期間を過ごすことができるよう事前に学ぶことで、成果をもって日本に帰国することができるようにすることが目標です。留学先の国について、生活習慣、食事、マナー、言語、気候などあらゆる角度から学び、現地での生活、学習などについて、学生自ら情報を収集することができるように指導します。なお、本科目は語学留学と事前・事後学修を含めて単位を修得するものです。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

語学の基礎知識：留学を円滑に行うことができるよう、必要となる知識を身に付けることができる。

目標：

留学の基礎知識：出発前、留学中、帰国後それぞれ、必要な知識、情報、心構えなどについて理解を深め、学生自ら積極的に行動することができる。

汎用的な力

- 1 . DP6. 行動・実践
- 2 . DP7. 完遂

主体性：異文化理解の知識を養い、海外生活における判断力・思考力を主体性をもって高めることができる。

積極性：海外の生活習慣を学び、英会話の基礎知識を養い、観察力・適応力をもって、自主的かつ積極的に留学生活を送ることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

事前授業における参加状況

30%

留学期間の生活・学習状況

40%

事後授業における到達状況

30%

評価の基準

事前授業：授業内での積極的な発言および取り組み状況。ワークへの積極的参加と課題シート記入の適切性について3段階で評価する。

留学期間：現地大学のクラス・グレードおよび学生の研修報告シート。

事後授業：レポート課題とプレゼンテーションにおいて、文書表現の正確性、データ整理の適切性、プレゼン資料の表現力、明確性、伝達力により評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

教科書は使用せずプリントを配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
 授業では、プレゼンテーション、グループワーク等、授業担当者の言葉だけでなく、他の学生の発表、意見に積極的に耳を傾けてください。
 海外語学研修に参加する学生のみが履修可能。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜1限
 場所： 西館5階研究室
 備考・注意事項： 授業の前後にも質問に応じる。

授業計画			授業外学修課題にかかると見込める目安の時間
第1回	海外留学について学ぶ 留学の意義、目的などについて説明。	各自、留学の意味、目的について考える	4時間
第2回	英語の基礎的な学力を確認する 現在の英語力の確認。英語で自己紹介してみよう。	英語による自己紹介の復習、不明点のチェック	4時間
第3回	英語の会話文例を学ぶ 会話文例を学び、暗誦練習。 参加者同士、英語で自己紹介練習など行う。	会話文例の復習、不明点のチェック	4時間
第4回	海外の生活習慣・文化について理解する 海外の生活習慣と文化の特徴について学び、理解する。 質問、疑問点を積極的に出して、日本とどのように異なるのか考え、異文化理解を図る。	海外生活に関する復習、不明点のチェック	4時間
第5回	海外語学留学（23日間） 留学先の大学・語学学校における研修。	留学先の大学・語学学校の課題	4時間
第6回	語学留学で習得したことを整理する 語学留学を終えて、さまざまな体験を整理し、語学力において習得できたこと、また実際の生活を通して感じ得たことを、異文化理解の観点からまとめる。	語学研修全体に対する復習、まとめ	4時間

授業科目名	コンピュータリテラシー				
担当教員名	長澤直子				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	企業において文書実務に携わった経験があります。また、Microsoft認定講師として企業研修に携わった経験があります。(全15回)				

開放科目の指示「不可」

授業概要

WindowsおよびWord・Excel・PowerPointの基本操作を理解していることを前提にし、学生としてレポートを作成するためのノウハウを学びます。
具体的には、学内におけるコンピュータ・ネットワーク環境の知識と操作法を学んだうえで、①Excelでのデータ加工、②Wordでの文書作成、③タッチタイピング(10分間350～500字目標)、④PowerPointでのプレゼン資料作成および実際のプレゼンテーションが習得できることを目指します。レポートの作成には、都道府県や市区町村が実際に公開しているデータを用いて、それを加工していきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	レポート作成の知識	レポート作成の作法、作成上の常識を身につけ、実践できる
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	情報処理の専門技能	ビジネスで使用するソフトウェアを操作・活用し、レポートを作成できる
汎用的な力		
1．DP6. 行動・実践		各種ソフトの使い方や表現の工夫が出来、実践的な使い方ができる。
2．DP8. 意思疎通		ソフトの使い方のみではなく、分かりやすい文章表現やデザインで表現できる。
3．DP9. 役割理解・連携行動		チームでプレゼンテーションを組み立て、実践することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業中の提出課題	評価の基準
10%	: テキストにある「問題点と改善点」について考えた内容を提出していただきます。問題点がしっかりと指摘できて、それに対する改善点が提案できているものを高く評価します。
文字入力	: 文字入力の能力を測定します。P検3級レベルに達することを目標とします。
10%	
プレゼン資料課題	: 授業内で実施するプレゼンの作成資料提出を課します。評価基準は、テキスト内で「良い」とされているものに沿っており、規定の時間内にプレゼンできるものを高く評価し、基準に沿わないものは減点します。
10%	
プレゼンテーション（実技）	: 授業内で実施するプレゼンテーションのパフォーマンスを相互に採点します。ライブ感のある良いパフォーマンスができたチームを高く評価します。
20%	
試験（レポート）	: Excelでのデータ加工・分析が適切に行われているかどうか、Wordでの文書作成においてスタイルや段落番号等の機能が適切に使われているかどうか、レポートの形式に沿って正しく作成されているかどうかを評価します。
30%	

授業への取り組み状況 : シヤトルシートへの記入も含め、授業内外において積極的に課題に取り組む姿勢があるかどうかを評価します。

20%

使用教科書

指定する

著者

富士通FOM株式会社

タイトル

・ 学生のための思考力・判断力・表現力が身に付く情報リテラシー

出版社

・ FOM出版

出版年

・ 2018年

参考文献等

授業内で適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。毎回の授業開始前にパソコンを起動し、ログインしておくこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜日2限（10:40～12:10）

場所： 研究室（西館5F）

備考・注意事項： アポイントのある方を優先します。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	授業の概略説明、学内ネットワークおよびPCの利用について この授業の到達目標、ネットワークへのログイン、ネットワークドライブ、学内メールについて学びます。	各自の端末で、ポータルシステムから学内メールに接続してみましょう	4時間
第2回	データから傾向を読み取る データとはどういうもので、データから傾向を読み取る方法について学びます。 その際、Excelを用いてデータを読み取ることを試みます。また「リスト形式の表」についても学びます。	「リスト形式の表」を自分で実際に作成してみましょう	4時間
第3回	データ活用に便利なExcelの機能(1) テーブル、並べ替え データの活用に便利なExcelの機能として、テーブル機能およびデータの並べ替え、フィルターについて学びます。	自分で作成した「リスト形式の表」で、並べ替えとフィルターを使ってみましょう。	4時間
第4回	データ活用に便利なExcelの機能(2) ピボットテーブル データの活用に便利なExcelの機能として、ピボットテーブルの使い方について学びます。	授業中に解いた問題を再度解いてみましょう	4時間
第5回	データ活用に便利なExcelの機能(3) 関数、条件付き書式 データの活用に便利なExcelの機能として、関数や条件付き書式の使い方について学びます。	授業中に提示された以外の関数を試してみましょう	4時間
第6回	データ活用に便利なExcelの機能(4) グラフ Excelでのグラフ作成の基本について学びます。配置やサイズ変更、タイトルや軸ラベルの追加について学びます。	テキストにある「表とグラフの問題点と改善点」について考えてくる	4時間
第7回	データ加工に取り組む テキストのチャレンジ課題に取り組みます。配布されたデータを加工して、傾向を読み取り、グラフを作成してまとめます。	レポートについての予習をしましょう	4時間
第8回	レポートについて(1) レポートとは レポートとはどういうものなのかについて学びます。レポートの型、作成の流れ、情報収集の必要性とその方法について学びます。	自分が作成するレポートのテーマを考えるために、情報収集を始めましょう	4時間
第9回	Word(1) スタイル、インデント、箇条書きと段落番号 レポート作成に必要なWordの操作方法として、スタイル、インデント、箇条書きと段落番号、画像の扱いについて学びます。	自分で収集したデータを元に、レポートのテーマを検討し始めましょう	4時間
第10回	Word(2) 表、Excelデータの貼り付け レポート作成に必要なWordの操作方法として、表の作成と編集作業、ExcelのデータをWordへ取り込む方法について学びます。	テキストにある「レポートの問題点と改善点」について考えてくる	4時間
第11回	レポートについて(2) データのダウンロードとExcelでの加工 都道府県や市町村が公開している統計データを検索し、レポートのテーマに合うデータを探してダウンロードします。そのデータをExcelで開き、内容を分析します。	授業中にダウンロードしたもの以外のデータも検索してみましょう	4時間
第12回	レポートについて(3) Wordでのレポート作成 第11回の授業にて加工し分析したデータに基づき、Wordの画面上にExcelで加工した表や図を取り込んで、レポートを作成する方法を学びます。	学期末の提出期限へ向けて、レポートを執筆し始めましょう	4時間
第13回	プレゼンテーションの企画	発表シナリオが未完成の場合は、完成させましょう／完成した場合は、発表原稿を考えましょう／レポート執筆のためのデータ加工に取り組みましょう	4時間

	PowerPointを用いたプレゼンテーションの企画方法について学びます。ストーリー構成を考え、アウトライン機能でスライドを作成・編集する方法について学習します。		
第14回	プレゼンテーション資料の作成 3人程度のグループで、紹介したい内容についての紹介スライドを作成する作業を行います。発表のシナリオを作成し、発表の練習をします。	発表の練習をしましょう／レポートの執筆を進めていきましょう	4時間
第15回	グループによるプレゼンテーションの実施 前回の授業で作成したスライドとシナリオによって、グループでプレゼンテーションを実施します。クラス内で、相互に評価をします。	自分たちのプレゼンを振り返り、足りなかった部分を確認しましょう／レポートの完成へ向けて作業しましょう	4時間

授業科目名	キャリアデザイン				
担当教員名	百々 徹				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	社会人として自立し「社会で実践できる力」「協働できる素養」を深化させるために、学びを深めるアクティブラーニング型の授業を行う。				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	京都造形芸術大学空間演出デザイン学科にてキャリアデザイン委員を務め、キャリアデザインの科目を担当した実績を有する				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本講義では社会に出て貢献できるよう、自らのライフプランや将来像を考えていきます。そのために①キャリアに関する社会的知識を修得し、②キャリア意識を醸成し、③キャリアに関しての意思を固めることを目指します。そして学生からよき社会人になるように意識を改革し、職業意識や資質を修得、自分の未来を設計します。授業は①講義②課題発見と分析及び解決・発表（個人またはグループワーク）そして③自学による事後課題で構成します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	社会人として必要な人間性や社会性を醸成するために、主としてファッションをテーマに展開する。	働くことに対するイメージを形成することにより、自分がつきたい職業、なりたい社会人像を明確にすることができるようにする。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		収集した資料から将来のキャリアに関する課題や社会の課題を発見できる。
2．DP5. 計画・立案力		収集した資料から、新しいプランにも積極的に取り組むことができる。
3．DP9. 役割理解・連携行動		集団やチームの中で自分の役割を理解し共働できる。
4．DP7. 完遂		自分の担当カ所について指定の課題に従って資料を完成させることができる。

学外連携学修

有り（連携先：①生活デザイン学科卒業生 ②アパレル業界のプロフェッショナルクラスによる講演）

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。毎回、テーマに沿ったテーマ課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後にテーマに従っての課題の発表を行います。優秀者はプレゼン大会に出場します。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
事前課題	： 読書感想文は5点満点で評価する。感想文募集規定に従った独自のルーブリックで評価する。
5%	
授業参加度・ワークシート（1～13回）	： 1～13回目までの授業参加度は2点満点で評価する。ワークシートは1点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
39%	
課題（1～13回）	： 1～13回目までの課題を3点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
26%	
14回目の授業参加度・ワークシート・小論文	： 14回目の授業参加度は2点満点で評価する。ワークシートは2点満点で評価する。小論文は6点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
10%	
15回目の授業参加度と発表	： 15回目の発表及び授業参加度を10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
10%	
期末試験	： 期末試験時に実施するレポート作成を10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
10%	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

その都度指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。毎回テーマに沿った課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後に課題にそった文章を作成し発表します。優秀者はプレゼン大会に出場する権利を得ます。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日3限
場所： 生活デザイン第2研究室

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間	
第1回	<p>キャリアデザインとは ライフサイクルとライフステージについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアデザインとは何か（授業の目的と概要、進め方等を説明）。 ・働くことにはどのような意味があるのか。 ・社会人として果たさなければならない義務として何かがあるのか。 ・自分自身のライフサイクル、今後のライフサイクルを各自で考える。について講義およびグループワークを実施し感想を書き発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人としての義務には、どのようなものがあるかを調べておく。 ・働くことの意味、自分のライフサイクル、今後の「ライフサイクルについて考えておく。 	4時間
第2回	<p>ライフパターンを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフパターンとは何か。 ・日本の歩みとライフパターンの変化について考える。 ・自分のライフパターンの長所と短所を整理する。 ・ライフパターンに優先順位をつけ、今後の自分のライフパターンを各自で考える。 ・について講義および各自で整理し、優先順位をつけて発表し、感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の歩みについて調べておく。 ・自分のライフパターン、今後のライフパターンについて考えておく。 	4時間
第3回	<p>社会の仕組みについての講義とまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会の仕組みを知る（社会保険や税のしくみ、正規雇用と非正規雇用の違い、労働基準法など）。 ・製造業、卸業、小売業、サービス業などの、企業の役割や勤務時間、働き方の違いを考える。 ・将来、就きたい仕事を考える。 ・職業安定所の役割を知る。等について講義およびグループワークを実施し、発表し感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・税や社会保障制度、労働基準法等について概要を調べておく。 ・ファッション関係の仕事について調べておく。 	4時間
第4回	<p>自分史から自分を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の原点を知る。 ・振り返りシートをもとに中学・高校時代を振り返る。 ・現在の自分を見つめる。 ・について講義および各自で整理し、グループ内で発表、意見交換後、感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の生い立ちを把握しておく。 ・中学・高校時代の自分自身について整理しておく。 ・将来の自分について考えておく。 	4時間
第5回	<p>自己分析から自分を探る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分を客観的にみる。 ・自己分析シートを作成する。 ・自分の長所や短所、特技などを整理し自己紹介シートを作成する。 ・他己紹介シートを併せて作成する。 ・上記について講義および作成したものをグループ内で発表し、感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己分析はなぜ必要かを事前に学習しておく。 ・自分の長所や短所、特技などを事前に整理しておく。 ・他己紹介シートとは何かを調べておく。 	4時間
第6回	<p>客観的に自分を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回、前々回のシートとプログテスト結果を併せて自己分析をする。 ・自己分析の結果をグループ内で発表し、感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プログテストの結果を分析しておく。 ・前回、前々回のシートを見直しておく。 	4時間
第7回	<p>自己の発見から何のために働くのかを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの授業を振り返り、自分の興味、能力、価値観、特性を理解し就職先を考える。 ・ワークシートに従って自分が働く理由を考える。 ・キャリアアプランニングシートを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの授業を振り返り、作成したシートなどを事前に分析しておく。 ・就職して1年、3年、5年、10年後と理想の自分についてイメージしておく。 	4時間
第8回	<p>自分にとっての働く意味を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回のシートをもとに自分の意見をグループ内で発表しあう。 ・共通点、差異点などをまとめ、感想を書き発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回作成したシートを見直しておく。 ・自分の就職先を考え、どのような働き方をしたいのかを考えておく。 	4時間
第9回	<p>労働の体験・経験を通して目的やその意味を深める</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体験実習を思い出し、自分にとって楽しかったことやつらかったことを事前にまとめておく。 	4時間

	<ul style="list-style-type: none"> ・高校時代等に体験したアルバイト先やインターンシップでの体験実習での体験を振り返り、「楽しかったこと」「つらかったこと」「学んだこと」「困ったこと」をシートに記入する。 ・作成したものをグループ内で発表し、感想を書く。 		
第10回	プロフェッショナル・専門家の講義を聞き内容を整理する <ul style="list-style-type: none"> ・学外講師招聘：講演：「ファッション業界、そして社会人にとって必要な知識・技術について」（仮） ・ファッション業界の現場で活躍されているや専門的な技術をもっている経験5年以内の人（できればOB・OG）の、これまでの経験で得られた話や技術を伝えてもらう。 ・講演を聞いての要約と感想をまとめて提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理想の社会人に近づくために自分には何が足りないかを考えまとめてお・事前に講演者の会社のホームページを閲覧し、質問内容を考えておく。 	4時間
第11回	雇用する側の期待する人間像を学ぶ <ul style="list-style-type: none"> ・学外講師招聘：講演：「ファッション業界で働く心構え」 ・ファッション業界でプロの専門職や管理職から、専門職、管理職としての心構えや望まれる社会人について伝えてもらう 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に講演者の会社のホームページなどを閲覧し、雇用する側はどのような能力や知識、人格が求められているかなどを調べ、質問内容を考えておく。 	4時間
第12回	自分にとっての働く場所の調査 <ul style="list-style-type: none"> ・前2回の講演とこれまでの学びを通して、自分自身を振り返り、自分が働きたい職場のイメージをまとめる。 ・自分が選びたい職場、選びたくない職場について、自分の意見をまとめてグループ内で発表し、自己アピールするとともに感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの授業を振り返って、自分が働きたい職場のイメージをまとめておく。 	4時間
第13回	調査分析を発表およびディスカッション <ul style="list-style-type: none"> ・前回、自分が選びたい職場のなかから、1か所選定し、その職場をグループ内で説明する。 ・意見交換のあと、就職したいと思った基準についてまとめ、発表し感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・働きたい職場を1か所選定し、その職場のホームページを閲覧し、理念や方針、特徴等について理解しておく。 	4時間
第14回	小論文「なりたい私」についておよびポートフォリオをまとめる <ul style="list-style-type: none"> ・1~13回までに学んだことについて整理し、まとめの文章を書く。 ・ライフスタイルとライフステージなどなど、最後に「なりたい私」についてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「なりたい私」について自分のイメージを描いておく。 ・文章作成ができるうに事前に下書きしておく。よ 	4時間
第15回	「なりたい私」について発表とディスカッション <ul style="list-style-type: none"> ・14回でまとめて文章化したものを発表する。 ・「なりたい私」についてできるだけ全員が発表し、称えあう。 ※優秀者はプレゼン大会に出場する権利を得る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表のための読み原稿を作成するとともに、発表の際に原稿を読まなくても発表できるように練習しておく。 	4時間

授業科目名	キャリアデザイン				
担当教員名	津村朗子・山本友江				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	社会人として自立し「社会で実践できる力」「協働できる要素」を深化させるためにアクティブラーニング型の授業を行う。				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本講義では社会に出て貢献できるよう、自らのライフプランや将来像を考えていきます。そのために①キャリアに関する社会的知識を修得し、②キャリア意識を醸成し、③キャリアに関しての意思を固めることを目指します。そして学生からよき社会人になるように意識を改革し、職業意識や資質を修得、自分の未来を設計します。授業は①講義②課題発見と分析及び解決・発表（個人またはグループワーク）そして③自学による事後課題で構成します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1．DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

社会人として必要な人間性や社会性を醸成するために、主として食をテーマに展開する。

目標：

働くことに対するイメージを形成することにより、自分がつきたい職業、なりたい社会人像を明確にできるようにする。

汎用的な力

- 1．DP4. 課題発見
- 2．DP5. 計画・立案力
- 3．DP9. 役割理解・連携行動
- 4．DP7. 完遂

収集した資料から将来のキャリアに関する課題や社会の課題を発見できる。

収集したしりょうから、新しいプランにも積極的に取り組むことができる。

集団やチームの中で自分の役割を理解し共働できる。

自分の担当箇所について指定の課題に従って資料を完成させることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「一」とします。毎回、テーマに沿ったテーマ課題と事後課題を菓子、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後にテーマに従って課題の発表を行います。優秀者はプレゼン大会に出場します。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

事前課題	5%	: 読書感想文は5点満点で評価する。感想文募集規程に従った独自のルーブリックで評価する。
授業参加度・ワークシート(1~13回)	39%	: 1~13回目までの授業参加度は2点満点で評価する。ワークシートは1点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
課題(1~13回)	26%	: 1~13回目までの課題を2点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
14回目の授業参加度・ワークシート・小論文	10%	: 14回目の授業参加度は2点満点で評価する。ワークシートは2点満点で評価する。小論文は6点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
15回目の授業参加度と発表	10%	: 15回目の発表及び授業参加度を10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
期末試験	10%	: 期末試験時に実施するレポート作成を10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

その都度指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。毎回テーマに沿った課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後に課題に沿った文章を作成し発表します。優秀者はプレゼン大会に出場します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項：津村朗子：授業時間の終了前後に講義教室もしくは非常勤講師室で受け付けます。
山本友江：オフィスアワーは月曜2限（10：40～12：10）・調理研究室（3階）

授業計画

		授業外学修課題にかかるとする目安の時間
第1回	キャリアデザインとは ライフサイクルとライフステージについて ・キャリアデザインとは何か（授業の目的と概要、進め方等を説明）。 ・働くことにはどのような意味があるのか。 ・社会人として果たさなければならない義務として何かがあるのか。 ・自分自身のライフサイクル、今後のライフサイクルを各自で考える。 上記について講義及びグループワークを実施し、感想を書き、発表する。	・社会人としての義務には、どのようなものがあるかを調べておく。 4時間
第2回	ライフパターンを考える ・ライフパターンとは何か。 ・日本の歩みとライフパターンの変化について考える。 ・自分のライフパターンの長所と短所を整理する。 ・ライフパターンに優先順位をつけ、今後の自分のライフパターンを各自で考える。 上記について講義及び各自で整理し、優先順位をつけて発表し、感想を書く。	・日本の歩みについて調べておく。 4時間
第3回	社会の仕組みについての講義とまとめ ・社会の仕組みを知る（社会保険や税の仕組み、正規雇用と非正規雇用の違い、労働基準法など）。 ・製造業、卸売業、小売業、サービス業などの、企業の役割や勤務時間、働き方の違いを考える。 ・将来、就きたい仕事を考える。 ・職業安定所の役割を知る。 上記について講義及びグループワークを実施し、感想を書き、発表する。	・税や社会保障制度、労働基準法等について概要を調べておく。 4時間
第4回	自分史から自分を知る ・自分の原点を知る。 ・振り返りシートをもとに中学・高校時代を振り返る。 ・現在の自分を見つめる。 上記について講義及び各自で整理し、グループ内で発表、意見交換後、感想を書く。	・自分自身の生い立ちを把握しておく。 4時間
第5回	自己分析から自分を探る ・自分を客観的にみる。 ・自己分析シートを作成する。 ・自分の長所や短所、特技などを整理し、自己紹介シートを作成する。 ・他己紹介シートを併せて作成する。 上記について講義及び作成したものをグループ内で発表し、感想を書く。	・自己分析はなぜ必要かを事前に学習しておく。 4時間
第6回	客観的に自分を知る ・前回、前々回のシートとログテスト結果を併せて自己分析をする。 ・自己分析の結果をグループ内で発表し、感想を書く。	・ログテストの結果を分析しておく。 4時間
第7回	自己の発見から何のために働くのかを考える。 ・これまでの授業を振り返り、自分の興味、能力、価値観、特性を理解し就職先を考える。 ・ワークシートに従って自分が働く理由を考える。 ・キャリアプランニングシートを作成する。	・これまでの授業を振り返り、作成したシートなどを事前に分析しておく。 4時間
第8回	自分にとっての働く意味を考える ・前回のシートをもとに自分の意見をグループ内で発表しあう。 ・共通点、差異点などをまとめ、感想を書き発表する。	・前回作成したシートを見直しておく。 4時間
第9回	労働の体験・経験を通して目的やその意味を深める。 ・高校時代等に体験したアルバイト先やインターンシップでの体験学習での体験を振り返り、「楽しかったこと」「つらかったこと」「学んだこと」「困ったこと」をシートに記入する。 ・作成したものをグループ内で発表し、感想を書く。	・体験学習を思い出し、自分にとって楽しかったことやつらかったことを事前にまとめておく。 4時間
第10回	プロフェッショナル・専門家の講義を聞き内容を整理する	・理想の社会人に近づくために自分には何が足りないかを考えまとめておく。 4時間

	<ul style="list-style-type: none"> ・講演：「調理師、社会人にとって必要な知識・技術について」(仮) ・調理業界の現場で活躍されている方や専門的な技術をもっている経験5年以内の人(できればOB・OG)の、これまでの経験で得られた話や技術を伝えてもらう。 		
第11回	雇用する側の期待する人間像を学ぶ <ul style="list-style-type: none"> ・講演：「調理師としての心構え」 ・調理業界の管理職から、雇用する側としての心構えや望まれる社会人について伝えてもらう。 ・講演を聞いての要約と感想をまとめて提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に講演者の会社のホームページなどを閲覧し、雇用する側はどのような能力や知識、人格を求めているかなどを調べ、質問内容を考えておく。 	4時間
第12回	自分にとっての働く場所の調査 <ul style="list-style-type: none"> ・前2回の講演とこれまでの学びを通して、自分自身を振り返り、自分が働きたい職場のイメージをまとめる。 ・自分が選びたい職場、選びたくない職場について、自分の意見をまとめてグループ内で発表し、自己アピールするとともに感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの授業を振り返って、自分が働きたい職場のイメージをまとめておく。 	4時間
第13回	調査分析を発表及びディスカッション <ul style="list-style-type: none"> ・前回、自分が選びたい職場の中から、1か所選定し、その職場をグループ内で説明する。 ・意見交換の後、就職したいと思った基準についてまとめ、発表し感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・働きたい職場を1か所選定し、その職場のホームページを閲覧し、理念や方針、特徴等について理解しておく。 	4時間
第14回	小論文「なりたい私」について及びポートフォリオをまとめる <ul style="list-style-type: none"> ・1～13回までに学んだことについて整理し、まとめの文章を書く。 ・ライフスタイルとライフステージなどなど、最後に「なりたい私」についてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「なりたい私」について自分のイメージを描いておく。 	4時間
第15回	「なりたい私」について発表とディスカッション <ul style="list-style-type: none"> ・14回でまとめて文章化したものを発表する。「なりたい私」についてできるだけ全員が発表し、称えあう。 <p>※優秀者はプレゼン大会に出場します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発表のための読み原稿を作成するとともに、発表の際に原稿を読まなくても発表できるように練習しておく。 	4時間

授業科目名	キャリアデザイン				
担当教員名	田原 彩				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	社会人として自立し「社会で実践できる力」「協働できる素養」を深化させるために、学びを深めるアクティブラーニング型の授業を行う。				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本講義では社会に出て貢献できるよう、自らのライフプランや将来像を考えていきます。そのために①キャリアに関する社会的知識を修得し、②キャリア意識を醸成し、③キャリアに関しての意思を固めることを目指します。そして学生からよき社会人になるように意識を改革し、職業意識や資質を修得、自分の未来を設計します。授業は①講義②課題発見と分析及び解決・発表（個人またはグループワーク）そして③自学による事後課題で構成します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

社会人として必要な人間性や社会性を醸成するために、主として食をテーマに展開する。

目標：

働くことに対するイメージを形成することにより、自分がつきたい職業と、なりたい社会人像を明確にすることができるようにする。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP5. 計画・立案力
3. DP9. 役割理解・連携行動
4. DP7. 完遂

収集した資料から将来のキャリアに関する課題や社会の課題を発見できる。

収集した資料から、新しいプランにも積極的に取り組むことができる。

集団やチームの中で自分の役割を理解し共働できる。

自分の担当箇所について指定の課題に従って資料を完成させることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「一」とします。毎回、テーマに沿ったテーマ課題と事後課題を菓子、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後にテーマに従って課題の発表を行います。優秀者はプレゼン大会に出場します。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

事前課題	5%	: 読書感想文は5点満点で評価する。感想文募集規定に従った独自のルーブリックで評価する。
授業参加度・ワークシート（1～13回）	39%	: 1～13回目までの授業参加度は2点満点で評価する。ワークシートは1点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
課題（1～13回）	26%	: 1～13回目までの課題を2点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
14回目の授業参加度・ワークシート・小論文	10%	: 14回目の授業参加度は2点満点で評価する。ワークシートは2点満点で評価する。小論文は6点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
15回目の授業参加度と発表	10%	: 15回目の発表及び授業参加度を10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
期末試験	10%	: 期末試験時に実施するレポート作成を10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

その都度指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。毎回テーマに沿った課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後に課題に沿った文章を作成し発表します。優秀者はプレゼン大会に出場します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火・金曜（12：10～13：00）

場所： 本館3階 製菓研究室

備考・注意事項： オフィスアワー以外の時間でも研究室に在室の時は対応いたします。

授業計画

		授業外学修課題にかかる目安の時間	
第1回	<p>キャリアデザインとは ライフサイクルとライフステージについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアデザインとは何か（授業の目的と概要、進め方を説明）。 ・働くことにはどのような意味があるのか。 ・社会人として果たさなければならない義務として何かがあるのか。 ・自分自身のライフサイクル、今後のライフサイクルを各自で考える。 <p>上記について講義及びグループワークを実施し、感想を書き、発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人としての義務には、どのようなものがあるかを調べておく。 ・働くことの意味、自分のライフサイクル、今後のライフサイクルについて考えておく。 	4時間
第2回	<p>ライフパターンを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフパターンとは何か。 ・日本の歩みとライフパターンの変化について考える。 ・自分のライフパターンの長所と短所を整理する。 ・ライフパターンに優先順位をつけ、今後の自分のライフパターンを各自で考える。 <p>上記について講義及び各自で整理し、優先順位をつけて発表し、感想を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の歩みについて調べておく。 ・自分のライフパターンについて考えておく。 	4時間
第3回	<p>社会の仕組みについての講義とまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会の仕組みを知る（社会保険や税の仕組み、正規雇用と非正規雇用の違い、労働基準法など）。 ・製造業、卸売業、小売業、サービス業などの、企業の役割や勤務時間、働き方の違いを考える。 ・将来、就きたい仕事を考える。 ・職業安定所の役割を知る。 <p>上記について講義及びグループワークを実施し、感想を書き、発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・税や社会保障制度、労働基準法等について概要を調べておく。 ・製菓業界の仕事について調べておく。 	4時間
第4回	<p>自分史から自分を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の原点を知る。 ・振り返りシートをもとに中学・高校時代を振り返る。 ・現在の自分を見つめる。 <p>上記について講義及び各自で整理し、グループ内で発表、意見交換後、感想を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の生い立ちを把握しておく。 ・中学・高校時代の自分自身について整理しておく。 ・将来の自分について考えておく。 	4時間
第5回	<p>自己分析から自分を探る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分を客観的にみる。 ・自己分析シートを作成する。 ・自分の長所や短所、特技などを整理し、自己紹介シートを作成する。 ・他己紹介シートを併せて作成する。 <p>上記について講義及び作成したものをグループ内で発表し、感想を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己分析はなぜ必要かを事前に学習しておく。 ・自分の長所や短所、特技などを事前に整理しておく。 ・他己紹介シートとは何かを調べておく。 	4時間
第6回	<p>客観的に自分を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回、前々回のシートとプログテスト結果を併せて自己分析をする。 ・自己分析の結果をグループ内で発表し、感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プログテストの結果を分析しておく。 ・前回、前々回のシートを見直しておく。 	4時間
第7回	<p>自己の発見から何のために働くのかを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの授業を振り返り、自分の興味、能力、価値観、特性を理解し就職先を考える。 ・ワークシートに従って自分が働く理由を考える。 ・キャリアプランニングシートを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの授業を振り返り、作成したシートなどを事前に分析しておく。 ・就職して1年、3年、5年、10年後と理想の自分についてイメージしておく。 	4時間
第8回	<p>自分にとっての働く意味を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回のシートをもとに自分の意見をグループ内で発表しあう。 ・共通点、差異点などをまとめ、感想を書き発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回作成したシートを見直しておく。 ・自分の就職先を考え、どのような働き方をしたいのか考えておく。 	4時間

第9回	<p>労働の体験・経験を通して目的やその意味を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校時代等に体験したアルバイト先やインターンシップでの体験学習での体験を振り返り、「楽しかったこと」「つらかったこと」「学んだこと」「困ったこと」をシートに記入する。 ・作成したものをグループ内で発表し、感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験学習を思い出し、自分にとって楽しかったことやつらかったことを事前にまとめておく。 	4時間
第10回	<p>プロフェッショナル・専門家の講義を聞き内容を整理する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演：「製菓業界、社会人にとって必要な知識・技術について」(仮) ・製菓業界の現場で活躍されている方や専門的な技術をもっている経験5年以内の人(できればOB・OG)の、これまでの経験で得られた話や技術を伝えてもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理想の社会人に近づくために自分には何が足りないかを考えまとめておく。 ・事前に講演者の会社のホームページを閲覧し、質問内容を考えておく。 	4時間
第11回	<p>雇用する側の期待する人間像を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演：「パティシエとしての心構え」 ・菓子業界の管理職から、雇用する側としての心構えや望まれる社会人について伝えてもらう。 ・講演を聞いての要約と感想をまとめて提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に講演者の会社のホームページなどを閲覧し、雇用する側はどのような能力や知識、人格を求めているかなどを調べ、質問内容を考えておく。 	4時間
第12回	<p>自分にとっての働く場所の調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前2回の講演とこれまでの学びを通して、自分自身を振り返り、自分が働きたい職場のイメージをまとめる。 ・自分が選びたい職場、選びたくない職場について、自分の意見をまとめてグループ内で発表し、自己アピールするとともに感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの授業を振り返って、自分が働きたい職場のイメージをまとめておく。 	4時間
第13回	<p>調査分析を発表及びディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回、自分が選びたい職場の中から、1か所選定し、その職場をグループ内で説明する。 ・意見交換の後、就職したいと思った基準についてまとめ、発表し感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・働きたい職場を1か所選定し、その職場のホームページを閲覧し、理念や方針、特徴等について理解しておく。 	4時間
第14回	<p>小論文「なりたい私」について及びポートフォリオをまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1～13回までに学んだことについて整理し、まとめの文章を書く。 ・ライフスタイルとライフステージなどなど、最後に「なりたい私」についてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「なりたい私」について自分のイメージを描いておく。 ・文章作成ができるように事前に下書きしておく。 	4時間
第15回	<p>「なりたい私」について発表とディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・14回でまとめて文章化したものを発表する。「なりたい私」についてできるだけ全員が発表し、称えあう。 ※優秀者はプレゼン大会に出場します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表のための読み原稿を作成するとともに、発表の際に原稿を読まなくても発表できるように練習しておく。 	4時間

授業科目名	キャリアデザイン				
担当教員名	草尾賀子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	社会人として自立し「社会で実践できる力」「協働できる素養」を深化させるために、学びを深めるアクティブラーニング型の授業を行う。				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本講義では社会に出て貢献できるよう、自らのライフプランや将来像を考えていきます。そのために①キャリアに関する社会的知識を修得し、②キャリア意識を醸成し、③キャリアに関しての意思を固めることを目指します。そして学生からよき社会人になるように意識を改革し、職業意識や資質を修得、自分の未来を設計します。授業は①講義②課題発見と分析及び解決・発表（個人またはグループワーク）そして③自学による事後課題で構成します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

社会人として必要な人間性や社会性を醸成するために、主として食をテーマに展開する。

目標：

働くことに対するイメージを形成することにより、自分が就きたい職業、なりたい社会人像を明確にすることができるようにする。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP5. 計画・立案力
3. DP9. 役割理解・連携行動
4. DP7. 完遂

収集した資料から将来のキャリアに関する課題や社会の課題を発見できる。

収集した資料から、新しいプランにも積極的に取り組むことができる。

集団やチームの中で自分の役割を理解し共働できる。

自分の担当場所について指定の課題に従って資料を完成させることができる。

学外連携学修

有り（連携先：①フードコーディネーターコース卒業生 ②食関連会社の管理職クラスによる講演）

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

毎回出席すること。規程回数以上の出席がなければ法規とみなし、成績評価を「－」とします。毎回、テーマに沿ったテーマ課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後にテーマに従っての課題の発表を行います。優秀者はプレゼン大会に出場します。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

事前課題	5%	： 読書感想文は5点満点で評価する。感想文募集規定に従った独自のルーブリックで評価する。
授業参加度・ワークシート(1~13回)	39%	： 1~13回目までの授業参加度は2点満点で評価する。ワークシートは1点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
課題(1~13回)	26%	： 1~13回目までの課題を2点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
14回目の授業参加度・ワークシート・小論文	10%	： 14回目の授業参加度は2点満点で評価する。ワークシートは2点満点で評価する。小論文は6点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
15回目の授業参加度と発表	10%	： 15回目の発表及び授業参加度を10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
期末試験	10%	： 期末試験時に実施するレポート作成を10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

その都度指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。毎回テーマに沿った課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後に課題にそった文章を作成し発表します。優秀者はプレゼン大会に出場します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜日4時限目
 場所： フードコーディネーター研究室
 備考・注意事項： オフィスアワー以外でも研究室に在室の時は対応する。不在の場合はメールでも対応する。kusao@osaka-seikei.ac.jp
 メール送信時に学籍番号と氏名を明記すること。

授業計画

		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	キャリアデザインとは ライフサイクルとライフステージについて ・キャリアデザインとは何か（授業の目的と概要、進め方等を説明）。 ・働くことにはどのような意味があるのか。 ・社会人として果たさなければならない義務として何かがあるのか。 ・自分自身のライフサイクル、今後のライフサイクルを各自で考える。 上記について講義及びグループワークを実施し、感想を書き、発表する。	・社会人としてのぎむには、どのようなものがあるかを調べておく。・働くことの意味、自分のライフサイクル、今後のライフサイクルについて考えておく。 4時間
第2回	ライフパターンを考える ・ライフパターンとは何か。 ・日本の歩みとライフパターンの変化について考える。 ・自分のライフパターンの長所と短所を整理する。 ・ライフパターンに優先順位をつけ、今後の自分のライフパターンを各自で考える。 上記について講義及び各自で整理し、優先順位をつけて発表し、感想を書く。	・日本の歩みについて調べておく。・自分のライフパターン、今後の自分のライフパターンについて考えておく。 4時間
第3回	社会の仕組みについての講義とまとめ ・社会の仕組みを知る（社会保険や税の仕組み、正規雇用と非正規雇用の違い、労働基準法など）。 ・製造業、卸売業、小売業、サービス業などの、企業の役割や勤務時間、働き方の違いを考える。 ・将来、就きたい仕事を考える。 ・職業安定所の役割を知る。 上記について講義及びグループワークを実施し、感想を書き、発表する。	・税や社会保障制度、労働基準法について概要を調べておく。フードビジネス業の仕事について調べておく。 4時間
第4回	自分史から自分を知る ・自分の原点を知る。 ・振り返りシートをもとに中学・高校時代を振り返る。 ・現在の自分を見つめる。 上記について講義及び各自で整理し、グループ内で発表、意見交換後、感想を書く。	・自分自身の生い立ちを把握しておく。・中学・高校時代の自分自身について整理しておく。・将来の自分について考えておく。 4時間
第5回	自己分析から自分を探る ・自分を客観的にみる。 ・自己分析シートを作成する。 ・自分の長所や短所、特技などを整理し、自己紹介シートを作成する。 ・自己紹介シートを併せて作成する。 上記について講義及び作成したものをグループ内で発表し、感想を書く。	・自己分析はなぜ必要かを事前に学習しておく。・自分の長所や短所、特技などを事前に整理しておく。・自己紹介シートとは何かを調べておく。 4時間
第6回	客観的に自分を知る ・前回、前々回のシートとプログテスト結果を併せて自己分析をする。 ・自己分析の結果をグループ内で発表し、感想を書く。	・プログテストの結果を分析しておく。・前回、前々回のシートを見直しておく。 4時間
第7回	自己の発見から何のために働くのかを考える。 ・これまでの授業を振り返り、自分の興味、能力、価値観、特性を理解し就職先を考える。 ・ワークシートに従って自分が働く理由を考える。 ・キャリアプランニングシートを作成する。	・これまでの授業を振り返り、作成したシートなどを事前に分析しておく。・就職して1年、3年、5年、10年後と理想の自分についてイメージしておく。 4時間
第8回	自分にとっての働く意味を考える	・前回作成したシートを見直しておく。・自分の就職先を考え、どのような働き方をしたいのかを考えておく。 4時間

	<ul style="list-style-type: none"> ・前回のシートをもとに自分の意見をグループ内で発表しあう。 ・共通点、差異点などをまとめ、感想を書き発表する。 		
第9回	労働の体験・経験を通して目的やその意味を深める <ul style="list-style-type: none"> ・高校時代等に体験したアルバイト先やインターンシップでの体験学習での体験を振り返り、「楽しかったこと」「つらかったこと」「学んだこと」「困ったこと」をシートに記入する。 ・作成したものをグループ内で発表し、感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験実習を思い出し、自分にとって楽しかったことやつらかったことを事前にまとめておく。 	4時間
第10回	プロフェッショナル・専門家の講義を聞き内容を整理する <ul style="list-style-type: none"> ・講演：「フードビジネス業界、社会人にとって必要な知識・技術について」(仮) ・フードビジネス業界の現場で活躍されている方や専門的な技術をもっている経験5年以内の人(できればOB・OG)の、これまでの経験で得られた話や技術を伝えてもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理想の社会人に近づくために自分には何が足りないかを考えてまとめておく。 ・事前に講演者の会社のホームページを閲覧し、質問内容を考えておく。 	4時間
第11回	雇用する側の期待する人間像を学ぶ <ul style="list-style-type: none"> ・講演：「フードビジネス業界で働く者としての心構え」 ・フードビジネス業界の管理職から、雇用する側としての心構えや望まれる社会人について伝えてもらう。 ・講演を聞いての要約と感想をまとめて提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に講演者の会社のホームページなどを閲覧し、雇用する側はどのような能力や知識、人格がもとめられているかなどを調べ、質問内容を考えておく。 	4時間
第12回	自分にとっての働く場所の調査 <ul style="list-style-type: none"> ・前2回の講演とこれまでの学びを通して、自分自身を振り返り、自分が働きたい職場のイメージをまとめる。 ・自分が選びたい職場、選びたくない職場について、自分の意見をまとめてグループ内で発表し、自己アピールするとともに感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの授業を振り返って、自分が働きたい職場のイメージをまとめておく。 	4時間
第13回	調査分析を発表及びディスカッション <ul style="list-style-type: none"> ・前回、自分が選びたい職場の中から、1か所選定し、その職場をグループ内で説明する。 ・意見交換の後、就職したいと思った基準についてまとめ、発表し感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・働きたい職場を1か所選び、その職場のホームページを閲覧し、理念や方針、特徴等について理解しておく。 	4時間
第14回	小論文「なりたい私」について及びポートフォリオをまとめる <ul style="list-style-type: none"> ・1～13回までに学んだことについて整理し、まとめの文章を書く。 ・ライフスタイルとライフステージなどなど、最後に「なりたい私」についてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「なりたい私」について自分のイメージを描いておく。 ・文章作成ができるように事前に下書きしておく。 	4時間
第15回	「なりたい私」について発表とディスカッション <ul style="list-style-type: none"> ・14回でまとめて文章化したものを発表する。 ・「なりたい私」についてできるだけ全員が発表し、称えあう。 ※優秀者はプレゼン大会に出場する権利を得る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表のための読み原稿を作成するとともに、発表の際に原稿を読まなくても発表できるように練習しておく。 	4時間

授業科目名	キャリアデザイン				
担当教員名	谷口信子・小関佐貴代・霜山倫子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	就職活動に向けて役立つ3つのテーマをクラスごとにローテーションで行います。3つのテーマとは、「ビジネススマナーの基礎」「自己分析」「試験対策と企業研究」であり、ロールプレイおよび演習形式で行いま				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	就職活動に必要なビジネススマナーについて、銀行や航空会社CA経験の接遇のプロが担当します。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本講義では社会に出て貢献できるよう、自らのライフプランや将来像を考えていきます。そのために①キャリアに関する社会的知識を修得し、②キャリア意識を醸成し、③キャリアに関しての意思を固めることを目指します。そして学生からよき社会人になるように意識を改革し、職業意識や資質を修得、自分の未来を設計します。授業は①講義②課題発見と分析及び解決・発表（個人またはグループワーク）そして③自学による事後課題で構成します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	社会人として必要な人間性や社会性を醸成するために、主として栄養士をテーマに展開する。	情報収集、言語能力、構成能力、共働力、プレゼンテーション力を身につける。
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	働くという事について、具体的に考え、働きたい分野の企業研究など行う。	自分の強みを発見し、将来の方向性を探る。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		収集した資料から将来のキャリアに関する課題や社会の課題を発見できる。
2．DP5. 計画・立案力		収集した資料から、新しいプランにも積極的に取り組むことができる。
3．DP9. 役割理解・連携行動		集団やチームの中で自分の役割を理解し共働できる。
4．DP7. 完遂		自分の担当カ所について指定の課題に従って資料を完成させることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。毎回、テーマに沿ったテーマ課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後にテーマに従っての課題の発表を行います。優秀者はプレゼン大会に出場します。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
事前課題	： 読書感想文は5点満点で評価する。感想文募集規程に従った独自のルーブリックで評価する。
授業参加度・ワークシート	： 1～14回までの授業参加度は2点満点で評価する。ワークシートは1点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
課題（1～13回）	： 1～13回目までの課題を2点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
弁当の日参加度	： 学科独自の「弁当の日」への参加度を1回3点として評価する。
15回目の授業参加度と発表	： 15回目の発表および授業参加度を10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
期末試験	： 期末試験時に実施するレポート作成を10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

就職ガイドブック2020 大阪成蹊大学/大阪成蹊短期大学

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。毎回テーマに沿った課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後に課題にそった文章を作成し発表します。優秀者はプレゼン大会に出場する権利を得ます。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 毎週水曜日5時限

場所： 栄養第3研究室

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかるとする目安の時間
第1回	<p>キャリアデザインとは ライフサイクルとライフステージについて</p> <ul style="list-style-type: none"> キャリアデザインとは何か（授業の目的と概要、進め方等を説明）。 働くことにはどのような意味があるのか。 社会人として果たさなければならない義務として何かがあるのか。 自分自身のライフサイクル、今後のライフサイクルを各自で考える。 <p>以上について講義およびグループワークを実施し感想を書き発表する。</p>	<p>社会人としての義務には、どのようなものがあるかを調べておく。働くことの意味、自分のライフサイクル、今後のライフサイクルについて考えておく。</p> <p>4時間</p>
第2回	<p>ライフパターンを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ライフパターンとは何か。 日本の歩みとライフパターンの変化について考える。 自分のライフパターンの長所と短所を整理する。 ライフパターンに優先順位をつけ、今後の自分のライフパターンを各自で考える。 <p>以上について講義および各自で整理し、優先順位をつけて発表し、感想を書く。</p>	<p>日本の歩みについて調べておく。・自分のライフパターン、今後の自分のライフパターンについて考えておく。</p> <p>4時間</p>
第3回	<p>社会の仕組みについての講義とまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会の仕組みを知る（社会保険や税のしくみ、正規雇用と非正規雇用の違い、労働基準法など）。 製造業、卸業、小売業、サービス業などの、企業の役割や勤務時間、働き方の違いを考える。 将来、就きたい仕事を考える。 職業安定所の役割を知る。 <p>等について講義およびグループワークを実施し、発表し感想を書く。</p>	<p>税や社会保障制度、労働基準法等について概要を調べておく。・栄養士の仕事について調べておく。</p> <p>4時間</p>
第4回	<p>自分史から自分を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の原点を知る。 振り返りシートをもとに中学・高校時代を振り返る。 現在の自分を見つめる。 <p>以上について講義および各自で整理し、グループ内で発表、意見交換後、感想を書く。</p>	<p>自分自身の生い立ちを把握しておく。・中学・高校時代の自分自身について整理しておく。・将来の自分について考えておく。</p> <p>4時間</p>
第5回	<p>自己分析から自分を探る</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分を客観的にみる。 自己分析シートを作成する。 自分の長所や短所、特技などを整理し自己紹介シートを作成する。 自己紹介シートを併せて作成する。 <p>上記について講義および作成したものをグループ内で発表し、感想を書く。</p>	<p>自己分析はなぜ必要かを事前に学習しておく。・自分の長所や短所、特技などを事前に整理しておく。・自己紹介シートとは何かを調べておく。</p> <p>4時間</p>
第6回	<p>客観的に自分を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> 前回、前々回のシートとプログテスト結果を併せて自己分析をする。 自己分析の結果をグループ内で発表し、感想を書く。 	<p>プログテストの結果を分析しておく。・前回、前々回のシートを見直しておく。</p> <p>4時間</p>
第7回	<p>自己の発見から何のために働くのかを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの授業を振り返り、自分の興味、能力、価値観、特性を理解し就職先を考える。 ワークシートに従って自分が働く理由を考える。 キャリアプランニングシートを作成する。 	<p>これまでの授業を振り返り、作成したシートなどを事前に分析しておく。就職して1年、3年、5年、10年後と理想の自分についてイメージしておく。</p> <p>4時間</p>
第8回	<p>自分にとっての働く意味を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> 前回のシートをもとに自分の意見をグループ内で発表しあう。 共通点、差異点などをまとめ、感想を書き発表する。 	<p>前回作成したシートを見直しておく。自分の就職先を考え、どのような働き方をしたいのかを考えておく。</p> <p>4時間</p>

第9回	労働の体験・経験を通して目的やその意味を深める <ul style="list-style-type: none"> ・高校時代等に体験したアルバイト先やインターンシップでの体験実習での体験を振り返り、「楽しかったこと」「つらかったこと」「学んだこと」「困ったこと」をシートに記入する。 ・作成したものをグループ内で発表し、感想を書く。 	体験実習を思い出し、自分にとって楽しかったことやつらかったことを事前にまとめておく。	4時間
第10回	プロフェッショナル・専門家の講義を聞き内容を整える <ul style="list-style-type: none"> ・講演：「栄養士、そして社会人にとって必要な知識・技術について」（仮） ・栄養士として現場で活躍されているや専門的な技術をもっている経験5年以内の人（できればOB・OG）の、これまでの経験で得られた話や技術を伝えてもらう。 	理想の社会人に近づくために自分には何が足りないかを考えまとめておく。事前に講演者の会社のホームページを閲覧し、質問内容を考えておく。	4時間
第11回	雇用する側の期待する人間像を学ぶ <ul style="list-style-type: none"> ・講演：「給食従事者としての心構え」 ・給食会社の管理職から、雇用する側としての心構えや望まれる社会人について伝えてもらう。 ・講演を聞いての要約と感想をまとめ提出する。 	事前に講演者の会社のホームページなどを閲覧し、雇用する側はどのような能力や知識、人格が求められているかなどを調べ、質問内容を考えておく。	4時間
第12回	自分にとっての働く場所の調査 <ul style="list-style-type: none"> ・前2回の講演とこれまでの学びを通して、自分自身を振り返り、自分が働きたい職場のイメージをまとめる。 ・自分が選びたい職場、選びたくない職場について、自分の意見をまとめグループ内で発表し、自己アピールするとともに感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの授業を振り返って、自分が働きたい職場のイメージをまとめておく。 	4時間
第13回	調査分析を発表およびディスカッション <ul style="list-style-type: none"> ・前回、自分が選びたい職場のなかから、1か所選定し、その職場をグループ内で説明する。 ・意見交換のあと、就職したいと思った基準についてまとめ、発表し感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・働きたい職場を1か所選定し、その職場のホームページを閲覧し、理念や方針、特徴等について理解しておく。 	4時間
第14回	小論文「なりたい私」についておよびポートフォリオをまとめる <ul style="list-style-type: none"> ・1~13回までに学んだことについて整理し、まとめの文章を書く。 ・ライフスタイルとライフステージなどなど、最後に「なりたい私」についてまとめる。 	「なりたい私」について自分のイメージを描いておく。・文章作成ができるように事前に下書きしておく。	4時間
第15回	「なりたい私」について発表とディスカッション <ul style="list-style-type: none"> ・14回でまとめて文章化したものを発表する。 ・「なりたい私」についてできるだけ全員が発表し、称えあう。 ※優秀者はプレゼン大会に出場する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表のための読み原稿を作成するとともに、発表の際に原稿を読まなくても発表できるように練習しておく。 	4時間

授業科目名	キャリアデザイン				
担当教員名	細昌昌大・熊谷綾子・阪野 学・鈴木大介・紺谷 武・永井伸人・範 衍麗・沼田恵太郎				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	社会人として自立し「社会で実践できる力」「協働できる素養」を深化させるために、学びを深めるアクティブラーニング型の授業を行う。				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	8名の教員のうち5名が実務経験あり。小、中、高等学校の教員・社会福祉士（児童福祉施設）経験者5名。（実務経験者の担当回：75回/120回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本講義では社会に出て貢献できるよう、自らのライフプランや将来像を考えていきます。そのために①キャリアに関する社会的知識を修得し、②キャリア意識を醸成し、③キャリアに関しての意思を固めることを目指します。そして学生からよき社会人になるように意識を改革し、職業意識や資質を修得、自分の未来を設計します。授業は①講義②課題発見と分析及び解決・発表（個人またはグループワーク）そして③自学による事後課題で構成します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1.幅広い教養やスキル	幅広い教養と自分自身を振り返り自分の考えをまとめる力の獲得	働くことに対するイメージを形成することにより、自分が就きたい職業、なりたい社会人像を明確にすることができるようにする。
汎用的な力		
1．DP4.課題発見		収集した資料から将来のキャリアに関する課題や社会の課題を発見できる。
2．DP5.計画・立案力		収集した資料から、新しいプランにも積極的に取り組むことができる。
3．DP9.役割理解・連携行動		集団やチームの中で自分の役割を理解し共働できる。
4．DP7.完遂		自分の担当場所について指定の課題に従って資料を完成させることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。毎回、テーマに沿ったテーマ課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後にテーマに従った課題の発表を行います。優秀者はプレゼン大会に出場します。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

事前課題	5%	： 読書感想文は5点満点で評価する。感想文募集規定に従った独自のルーブリックで評価する。
授業参加度・ワークシート（1～13回）	39%	： 1～13回目までの授業参加度は2点満点で評価する。ワークシートは1点満点で評価する。独自のルーブリックによる
課題（1～13回）	26%	： 1～13回目までの課題を2点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
14回目の授業参加度・ワークシート・小論文	10%	： 14回目の授業参加度は2点満点で評価する。ワークシートは2点満点で評価する。小論文は6点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
15回目の授業参加度と発表	10%	： 15回目の発表及び授業参加度を10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
期末試験	10%	： 期末試験時に実施するレポート作成を10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

その都度指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められるます。その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。毎回テーマに沿った課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後に課題にそった文章を作成し発表します。優秀者はプレゼン大会に出場する権利を得ます。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： アドバイザーの空き時間
 場所： 各研究室
 備考・注意事項： アドバイザーに何でも質問してください。アドバイザーの空き時間、研究室については初回授業で伝えます。

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	キャリアデザインとは ライフサイクルとライフステージについて ・キャリアデザインとは何か（授業の目的と概要、進め方等を説明）。 ・働くことにはどのような意味があるのか。 ・社会人として果たさなければならない義務として何かがあるのか。 ・自分自身のライフサイクル、今後のライフサイクルを各自で考える。 について講義およびグループワークを実施し感想を書き発表する。	・社会人としての義務には、どのようなものがあるかを調べておく。 ・働くことの意味、自分のライフサイクル、今後のライフサイクルについて考えておく。 4時間
第2回	ライフパターンを考える ・ライフパターンとは何か。 ・日本の歩みとライフパターンの変化について考える。 ・自分のライフパターンの長所と短所を整理する。 ・ライフパターンに優先順位をつけ、今後の自分のライフパターンを各自で考える。 について講義および各自で整理し、優先順位をつけて発表し、感想を書く。	・日本の歩みについて調べておく。 ・自分のライフパターン、今後の自分のライフパターンについて考えておく。 4時間
第3回	社会の仕組みについての講義とまとめ ・社会の仕組みを知る（社会保険や税のしくみ、正規雇用と非正規雇用の違い、労働基準法など）。 ・幼稚園、保育所、認定こども園、施設、企業の役割や勤務時間、働き方の違いを考える。 ・将来、就きたい仕事を考える。 ・職業安定所の役割、社会福祉人材センターの役割を知る。 について講義およびグループワークを実施し、発表し感想を書く。	・大阪府社会福祉協議会のホームページから福祉人材支援センターの概要を調べておく。 ・税や社会保障制度、労働基準法等について概要を調べておく。 ・保育者の仕事について調べておく。 4時間
第4回	自分史から自分を知る ・自分の原点を知る。 ・振り返りシートをもとに中学・高校時代を振り返る。 ・現在の自分を見つめる。 について講義および各自で整理し、グループ内で発表、意見交換後、感想を書く。	・自分自身の生い立ちを把握しておく。 ・中学・高校時代の自分自身について整理しておく。 ・将来の自分について考えておく。 4時間
第5回	自己分析から自分を探る ・自分を客観的にみる。 ・自己分析シートを作成する。 ・自分の長所や短所、特技などを整理し自己紹介シートを作成する。 ・自己紹介シートを併せて作成する。 について講義および作成したものをグループ内で発表し、感想を書く。	・自己分析はなぜ必要かを事前に学習しておく。 ・自分の長所や短所、特技などを事前に整理しておく。 ・他己紹介シートとは何かを調べておく。 4時間
第6回	客観的に自分を知る ・前回、前々回のシートとプログテスト結果を併せて自己分析をする。 ・自己分析の結果をグループ内で発表し、感想を書く。	・プログテストの結果を分析しておく。 ・前回、前々回のシートを見直しておく。 4時間
第7回	自己の発見から何のために働くのかを考える ・これまでの授業を振り返り、自分の興味、能力、価値観、特性を理解し就職先を考える。 ・ワークシートに従って自分が働く理由を考える。 ・キャリアプランニングシートを作成する。	・これまでの授業を振り返り、作成したシートなどを事前に分析しておく。 ・就職して1年、3年、5年、10年後と理想の自分についてイメージしておく。 4時間

第8回	<p>自分にとっての働く意味を考える</p> <p>・前回のシートをもとに自分の意見をグループ内で発表しあう。 ・共通点、差異点などをまとめ、感想を書き発表する。</p>	<p>・前回作成したシートを見直しておく。・自分の就職先を考え、どのような働き方をしたいのかを考えておく。</p>	4時間
第9回	<p>労働の体験・経験を通して目的やその意味を深める</p> <p>・中学・高校時代に体験した保育所や幼稚園での体験実習、幼稚園での教育実習や保育所（施設）での実習、アルバイトでの体験を振り返り、「楽しかったこと」「つらかったこと」「学んだこと」「困ったこと」をシートに記入する。 ・作成したものをグループ内で発表し、感想を書く。</p>	<p>・体験実習を思い出し、自分にとって楽しかったことやつらかったことを事前にまとめておく。</p>	4時間
第10回	<p>プロフェッショナル・専門家の講義を聞き内容を整理する</p> <p>・講演：「保育者にとって必要な知識・技術について」 ・現場で活躍されている保育者や専門的な技術をもっている方々から、これまでの経験で得られた話や技術を伝えてもらう。 ・講演を聞いての要約と感想をまとめて提出する。</p>	<p>・理想の保育者像に近づくために自分には何が足りないかを考えまとめておく。・事前に講演者のホームページを閲覧し、質問内容を考えておく。</p>	4時間
第11回	<p>雇用する側の期待する人間像を学ぶ</p> <p>・講演：「保育者としての心構え」 ・保育所や幼稚園、児童養護施設の管理職から、保育者としての心構えや望まれる保育者像について伝えてもらう。 ・講演を聞いての要約と感想をまとめて提出する。</p>	<p>・事前に講演者のホームページを閲覧し、保育方針や子どもたちへの対応の仕方、どのような工夫がなされているのかなどを調べ、質問内容を考えておく。</p>	4時間
第12回	<p>自分にとっての働く場所の調査</p> <p>・前2回の講演とこれまでの学びを通して、自分自身を振り返り、自分が働きたい職場のイメージをまとめる。 ・自分が選びたい職場、選びたくない職場について、自分の意見をまとめてグループ内で発表し、自己アピールするとともに感想を書く。</p>	<p>・これまでの授業を振り返って、自分が働きたい職場のイメージをまとめておく。</p>	4時間
第13回	<p>調査分析を発表およびディスカッション</p> <p>・前回、自分が選びたい職場のなかから、1か所選定し、その職場をグループ内で説明する。 ・意見交換のあと、就職したいと思った基準についてまとめ、発表し感想を書く。</p>	<p>・働きたい職場を1か所選定し、その職場のホームページを閲覧し、理念や方針、特徴等について理解しておく。</p>	4時間
第14回	<p>小論文「なりたい私」についておよびポートフォリオをまとめる</p> <p>・1～13回までに学んだことについて整理し、まとめの文章を書く。 ・ライフスタイルとライフステージなどなど、最後に「なりたい私」についてまとめる。</p>	<p>・「なりたい私」について自分のイメージを描いておく。・文章作成ができるように事前に下書きしておく。</p>	4時間
第15回	<p>「なりたい私」について発表とディスカッション</p> <p>・14回でまとめて文章化したものを発表する。 ・「なりたい私」についてできるだけ全員が発表し、称えあう。 ※優秀者はプレゼン大会に出場する。</p>	<p>・発表のための読み原稿を作成するとともに、発表の際に原稿を読まなくても発表できるように練習しておく。</p>	4時間

授業科目名	キャリアデザイン				
担当教員名	榎本英之・中井郷之・辻 有美子・金志善				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	社会人として自立し「社会で実践できる力」「協働できる素養」を深化させるために、学びを深めるアクティブラーニング型の授業を行う。				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本講義では社会に出て貢献できるよう、自らのライフプランや将来像を考えていきます。そのために①キャリアに関する社会的知識を修得し、②キャリア意識を醸成し、③キャリアに関しての意思を固めることを目指します。そして学生からよき社会人になるように意識を改革し、職業意識や資質を修得、自分の未来を設計します。授業は①講義②課題発見と分析及び解決・発表（個人またはグループワーク）そして③自学による事後課題で構成します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

社会人として必要な人間性や社会性を醸成するために、主として観光をテーマに展開する。

目標：

働くことに対するイメージを形成することにより、自分がつきたい職業、なりたい社会人像を明確にすることができる。

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見
- 2 . DP5. 計画・立案力
- 3 . DP9. 役割理解・連携行動
- 4 . DP7. 完遂

収集した資料から将来のキャリアに関する課題や社会の課題を発見できる。

収集した資料から、新しいプランにも積極的に取り組むことができる。

集団やチームの中で自分の役割を理解し共働できる。

自分の担当場所について指定の課題に従って資料を完成させることができる。

学外連携学修

有り（連携先：①観光学科卒業生 ②旅行関連会社の管理職クラスによる講演）

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。10分以上の遅刻はみとめない。2回の遅刻で1回の欠席とみなします。毎回、テーマに沿ったテーマ課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後にテーマに従った課題の発表を行います。優秀者はプレゼン大会に出場します。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

事前課題	5%	： 感想文は5点満点で評価する。感想文募集規定に従った独自のルーブリックで評価する。
授業の参加度とワークシート（1～13）	39%	： 1～13回目までの授業参加度は2点満点で評価する。ワークシートは1点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
毎回の課題（1～13）	26%	： 1～13回目までの課題を3点満点で評価する。独自のルーブリックによる
14回目の授業参加度・ワークシート・小論文	10%	： 14回目の授業参加度は2点満点で評価する。ワークシートは2点満点で評価する。小論文は6点満点で評価する。独自のルーブリックによる
15回目の発表と授業参加	10%	： 15回目の発表及び授業参加度を10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
試験		： 試験時に作成するレポートを10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。

10%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

その都度指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められるます。その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。毎回テーマに沿った課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後に課題にそった文章を作成し発表します。優秀者はプレゼン大会に出場する権利を得ます。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日4限

場所： 西館5階 竹内研究室

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間	
第1回	キャリアデザインとは ライフサイクルとライフステージについて <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアデザインとは何か（授業の目的と概要、進め方等を説明） ・働くことにはどのような意味があるのか。 ・社会人として果たさなければならない義務として何かがあるのか。 ・自分自身のライフサイクル、今後のライフサイクルを各自で考える。 について講義およびグループワークを実施し感想を書き発表する。	・社会人としての義務には、どのようなものがあるかを調べておく。 ・働くことの意味、自分のライフサイクル、今後のライフサイクルについて考えておく。	4時間
第2回	ライフパターンを考える <ul style="list-style-type: none"> ・ライフパターンとは何か。 ・日本の歩みとライフパターンの変化について考える。 ・自分のライフパターンの長所と短所を整理する。 ・ライフパターンに優先順位をつけ、今後の自分のライフパターンを各自で考える。 について講義および各自で整理し、優先順位をつけて発表し、感想を書く。	・日本の歩みについて調べておく。 ・自分のライフパターン、今後の自分のライフパターンについて考えておく。	4時間
第3回	社会の仕組みについての講義とまとめ <ul style="list-style-type: none"> ・社会の仕組みを知る（社会保険や税のしくみ、正規雇用と非正規雇用の違い、労働基準法など）。 ・製造業、卸業、小売業、サービス業などの、企業の役割や勤務時間、働き方の違いを考える。 ・将来、就きたい仕事を考える。 ・職業安定所の役割を知る。 等について講義およびグループワークを実施し、発表し感想を書く。	・税や社会保障制度、労働基準法等について概要を調べておく。 ・観光業の仕事について調べておく。	4時間
第4回	自分史から自分を知る <ul style="list-style-type: none"> ・自分の原点を知る。 ・振り返りシートをもとに中学・高校時代を振り返る。 ・現在の自分を見つめる。 について講義および各自で整理し、グループ内で発表、意見交換後、感想を書く。	・自分自身の生い立ちを把握しておく。 ・中学・高校時代の自分自身について整理しておく。 ・将来の自分について考えておく。	4時間
第5回	自己分析から自分を探る <ul style="list-style-type: none"> ・自分を客観的にみる。 ・自己分析シートを作成する。 ・自分の長所や短所、特技などを整理し自己紹介シートを作成する。 ・他己紹介シートを併せて作成する。 上記について講義および作成したものをグループ内で発表し、感想を書く。	・自己分析はなぜ必要かを事前に学習しておく。 ・自分の長所や短所、特技などを事前に整理しておく。 ・他己紹介シートとは何かを調べておく。	4時間
第6回	客観的に自分を知る <ul style="list-style-type: none"> ・前回、前々回のシートとログテスト結果を併せて自己分析をする。 ・自己分析の結果をグループ内で発表し、感想を書く。 	・ログテストの結果を分析しておく。 ・前回、前々回のシートを見直しておく。	4時間
第7回	自己の発見から何のために働くのかを考える <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの授業を振り返り、自分の興味、能力、価値観、特性を理解し就職先を考える。 ・ワークシートに従って自分が働く理由を考える。 ・キャリアプランニングシートを作成する。 	・これまでの授業を振り返り、作成したシートなどを事前に分析しておく。 ・就職して1年、3年、5年、10年後と理想の自分についてイメージしておく。	4時間
第8回	自分にとっての働く意味を考える <ul style="list-style-type: none"> ・前回のシートをもとに自分の意見をグループ内で発表しあう。 ・共通点、差異点などをまとめ、感想を書き発表する。 	・前回作成したシートを見直しておく。 ・自分の就職先を考え、どのような働き方をしたいのかを考えておく。	4時間

第9回	労働の体験・経験を通して目的やその意味を深める <p>・高校時代等に体験したアルバイト先やインターンシップでの体験実習での体験を振り返り、「楽しかったこと」「つらかったこと」「学んだこと」「困ったこと」をシートに記入する。 ・作成したものをグループ内で発表し、感想を書く。</p>	<p>・体験実習を思い出し、自分にとって楽しかったことやつらかったことを事前にまとめておく。</p>	4時間
第10回	プロフェッショナル・専門家の講義を聞き内容を整理する <p>・講演：「観光業、そして社会人にとって必要な知識・技術について」（仮） ・観光業（ホテル・旅行業等）の現場で活躍されているや専門的な技術をもっている経験5年以内の人（できればOB・OG）の、これまでの経験で得られた話や技術を伝えてもらう。</p>	<p>・理想の社会人に近づくために自分には何が足りないかを考えまとめておく。 ・事前に講演者の会社のホームページを閲覧し、質問内容を考えておく。</p>	4時間
第11回	雇用する側の期待する人間像を学ぶ <p>・講演：「観光従事者としての心構え」 ・観光業（ホテル・旅行業等）の管理職から、雇用する側としての心構えや望まれる社会人について伝えてもらう。 ・講演を聞いての要約と感想をまとめて提出する。</p>	<p>・事前に講演者の会社のホームページなどを閲覧し、雇用する側はどのような能力や知識、人格が求められているかなどを調べ、質問内容を考えておく。</p>	4時間
第12回	自分にとっての働く場所の調査 <p>・前2回の講演とこれまでの学びを通して、自分自身を振り返り、自分が働きたい職場のイメージをまとめる。 ・自分が選びたい職場、選びたくない職場について、自分の意見をまとめてグループ内で発表し、自己アピールするとともに感想を書く。</p>	<p>・これまでの授業を振り返って、自分が働きたい職場のイメージをまとめておく。</p>	4時間
第13回	調査分析を発表およびディスカッション <p>・前回、自分が選びたい職場のなかから、1か所選定し、その職場をグループ内で説明する。 ・意見交換のあと、就職したいと思った基準についてまとめ、発表し感想を書く。</p>	<p>・働きたい職場を1か所選定し、その職場のホームページを閲覧し、理念や方針、特徴等について理解しておく。</p>	4時間
第14回	小論文「なりたい私」についておよびポートフォリオをまとめる <p>・1~13回までに学んだことについて整理し、まとめの文章を書く。 ・ライフスタイルとライフステージなどなど、最後に「なりたい私」についてまとめる。</p>	<p>・「なりたい私」について自分のイメージを描いておく。 ・文章作成ができるように事前に下書きしておく。</p>	4時間
第15回	「なりたい私」について発表とディスカッション <p>・14回でまとめて文章化したものを発表する。 ・「なりたい私」についてできるだけ全員が発表し、称えあう。 ※優秀者はプレゼン大会に出場する権利を得る。</p>	<p>・発表のための読み原稿を作成するとともに、発表の際に原稿を読まなくても発表できるように練習しておく。</p>	4時間

授業科目名	キャリアデザイン				
担当教員名	中野 澄				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	鉄道会社で駅係員を経験。(第10回) 総合レンタル事業会社で人事を担当。(第11回)				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本講義では社会に出て貢献できるよう、自らのライフプランや将来像を考えていきます。そのために、①キャリアに関する社会的知識を修得し、②キャリア意識を醸成し、③キャリアに関しての意思を固めることを目指します。そして、学生からよき社会人になるように意識を改革し、職業意識や資質を修得、自分の未来を設計します。授業は、①講義、②課題発見と分析及び解決・発表（個人またはグループワーク）、③自学による事後課題で構成します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	社会人として必要な人間性や社会性を醸成する。	働くことに対するイメージを形成することにより、自分がつきたい職業、なりたい社会人像を明確にすることができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		収集した資料から将来のキャリアに関する課題や社会の課題を発見できる。
2．DP5. 計画・立案力		収集した資料から新しいプランに積極的に取り組むことができる。
3．DP9. 役割理解・連携行動		集団やチームの中で自分の役割を理解し共働できる。
4．DP7. 完遂		自分の担当箇所について資料を完成させることができる。

学外連携学修

有り（連携先：①GC学科卒業生 ②企業管理職クラスによる講演）

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。10分以上の遅刻はみとめない。2回の遅刻で1回の欠席とみなします。毎回、テーマに沿ったテーマ課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後にテーマに従っての課題の発表を行います。優秀者はプレゼン大会に出場します。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
事前課題	： 読書感想文は5点満点で評価する。感想文募集規定に従った独自のルーブリックで評価する。
5%	
授業参加度・ワークシート（1～13回）	： 1～13回目までの授業参加度は2点満点で評価する。ワークシートは1点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
39%	
課題（1～13回）	： 1～13回目までの課題を2点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
26%	
14回目の授業参加度・ワークシート・小論文	： 14回目の授業参加度は2点満点で評価する。ワークシートは2点満点で評価する。小論文は6点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
10%	
15回目の授業参加度と発表	： 15回目の発表及び授業参加度を10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
10%	
期末試験	： 期末試験時に実施するレポート作成を10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
10%	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

その都度指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められるます。その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。毎回テーマに沿った課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後に課題にそった文章を作成し発表します。優秀者はプレゼン大会に出場する権利を得ます。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日3限

場所： 西館4階研究室

備考・注意事項： 授業の前後にも質問に応じます。

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかるとの目安の時間
第1回	キャリアデザインとは—ライフサイクルとライフステージについて— <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアデザインとは何か（授業の目的と概要、進め方等を説明）。 ・働くことにはどのような意味があるのか。 ・社会人として果たさなければならない義務として何かがあるのか。 ・自分自身のライフサイクル、今後のライフサイクルを各自で考える。 について講義およびグループワークを実施し感想を書き発表する。	社会人としての義務には、どのようなものがあるかを調べておく。働くことの意味、自分のライフサイクル、今後のライフサイクルについて考えておく。
第2回	ライフパターンを考える <ul style="list-style-type: none"> ・ライフパターンとは何か。 ・日本の歩みとライフパターンの変化について考える。 ・自分のライフパターンの長所と短所を整理する。 ・ライフパターンに優先順位をつけ、今後の自分のライフパターンを各自で考える。 について講義および各自で整理し、優先順位をつけて発表し、感想を書く。	日本の歩みについて調べておく。自分のライフパターン、今後の自分のライフパターンについて考えておく。
第3回	社会の仕組みについての講義とまとめ <ul style="list-style-type: none"> ・社会の仕組みを知る（社会保険や税のしくみ、正規雇用と非正規雇用の違い、労働基準法など）。 ・製造業、卸業、小売業、サービス業などの、企業の役割や勤務時間、働き方の違いを考える。 ・将来、就きたい仕事を考える。 ・職業安定所の役割を知る。 について講義およびグループワークを実施し、発表し感想を書く。	税や社会保障制度、労働基準法等について概要を調べておく。
第4回	自分史から自分を知る <ul style="list-style-type: none"> ・自分の原点を知る。 ・振り返りシートをもとに中学・高校時代を振り返る。 ・現在の自分を見つめる。 について講義および各自で整理し、グループ内で発表、意見交換後、感想を書く。	自分自身の生い立ちを把握しておく。中学・高校時代の自分自身について整理しておく。将来の自分について考えておく。
第5回	自己分析から自分を探る <ul style="list-style-type: none"> ・自分を客観的にみる。 ・自己分析シートを作成する。 ・自分の長所や短所、特技などを整理し自己紹介シートを作成する。 ・自己紹介シートを併せて作成する。 上記について講義および作成したものをグループ内で発表し、感想を書く。	自己分析はなぜ必要かを事前に学習しておく。自分の長所や短所、特技などを事前に整理しておく。自己紹介シートとは何かを調べておく。
第6回	客観的に自分を知る <ul style="list-style-type: none"> ・前回、前々回のシートとプログテスト結果を併せて自己分析をする。 ・自己分析の結果をグループ内で発表し、感想を書く。 	プログテストの結果を分析しておく。前回、前々回のシートを見直しておく。
第7回	自己の発見から何のために働くのかを考える <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの授業を振り返り、自分の興味、能力、価値観、特性を理解し就職先を考える。 ・ワークシートに従って自分が働く理由を考える。 ・キャリアプランニングシートを作成する。 	これまでの授業を振り返り、作成したシートなどを事前に分析しておく。就職して1年、3年、5年、10年後と理想の自分についてイメージしておく。
第8回	自分にとっての働く意味を考える <ul style="list-style-type: none"> ・前回のシートをもとに自分の意見をグループ内で発表しあう。 ・共通点、差異点などをまとめ、感想を書き発表する。 	前回作成したシートを見直しておく。自分の就職先を考え、どのような働き方をしたいのかを考えておく。

第9回	労働の体験・経験を通して目的やその意味を深める <ul style="list-style-type: none"> ・高校時代等に体験したアルバイト先やインターンシップでの体験実習での体験を振り返り、「楽しかったこと」「つらかったこと」「学んだこと」「困ったこと」をシートに記入する。 ・作成したものをグループ内で発表し、感想を書く。 	体験実習を思い出し、自分にとって楽しかったことやつらかったことを事前にまとめておく。	4時間
第10回	プロフェッショナル・専門家の講義を聞き内容を整理する <ul style="list-style-type: none"> ・講演「社会人にとって必要な知識・技術について」（仮） ・社会で活躍されている人（経験5年以内の人。できればOB・OG。）のこれまでの経験で得られた話や技術を伝えてもらう。 	理想の社会人に近づくために自分には何が足りないかを考えまとめておく。事前に講演者の会社のホームページを閲覧し、質問内容を考えておく。	4時間
第11回	雇用する側の期待する人間像を学ぶ <ul style="list-style-type: none"> ・講演「社会人としての心構え」 ・企業の管理職から、雇用する側としての心構えや望まれる社会人について伝えてもらう。 ・講演を聞いての要約と感想をまとめて提出する。 	事前に講演者の会社のホームページなどを閲覧し、雇用する側はどのような能力や知識、人格が求められているかなどを調べ、質問内容を考えておく。	4時間
第12回	自分にとっての働く場所の調査 <ul style="list-style-type: none"> ・前2回の講演とこれまでの学びを通して、自分自身を振り返り、自分が働きたい職場のイメージをまとめる。 ・自分が選びたい職場、選びたくない職場について、自分の意見をまとめてグループ内で発表し、自己アピールするとともに感想を書く。 	これまでの授業を振り返って、自分が働きたい職場のイメージをまとめておく。	4時間
第13回	調査分析を発表およびディスカッション <ul style="list-style-type: none"> ・前回、自分が選びたい職場のなかから、1か所選定し、その職場をグループ内で説明する。 ・意見交換のあと、就職したいと思った基準についてまとめ、発表し感想を書く。 	働きたい職場を1か所選び、その職場のホームページを閲覧し、理念や方針、特徴等について理解しておく。	4時間
第14回	小論文「なりたい私」についておよびポートフォリオをまとめる <ul style="list-style-type: none"> ・1～13回までに学んだことについて整理し、まとめの文章を書く。 ・ライフスタイルとライフステージなどなど、最後に「なりたい私」についてまとめる。 	「なりたい私」について自分のイメージを描いておく。文章作成ができるように事前に下書きしておく。	4時間
第15回	「なりたい私」について発表とディスカッション <ul style="list-style-type: none"> ・14回でまとめて文章化したものを発表する。 ・「なりたい私」についてできるだけ全員が発表し、称えあう。 ※優秀者はプレゼン大会に出場する権利を得る。 	発表のための読み原稿を作成するとともに、発表の際に原稿を読まなくても発表できるように練習しておく。	4時間

授業科目名	キャリアデザイン				
担当教員名	杉浦優子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	社会人として自立し「社会で実践できる力」「協働できる素養」を深化させるために、学びを深めるアクティブラーニング型の授業を行う。				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本講義では社会に出て貢献できるよう、自らのライフプランや将来像を考えていきます。そのために①キャリアに関する社会的知識を修得し、②キャリア意識を醸成し、③キャリアに関しての意思を固めることを目指します。そして学生からよき社会人になるように意識を改革し、職業意識や資質を修得、自分の未来を設計します。授業は①講義②課題発見と分析及び解決・発表（個人またはグループワーク）そして③自学による事後課題で構成します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1．DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

社会人として必要な人間性や社会性を醸成するために、主としてビジネスをテーマに展開する。

目標：

働くことに対するイメージを形成することにより、自分が就きたい職業、なりたい社会人像を明確にすることができるようになる。

汎用的な力

- 1．DP4. 課題発見
- 2．DP5. 計画・立案力
- 3．DP9. 役割理解・連携行動
- 4．DP7. 完遂

収集した資料から将来のキャリアに関する課題や社会の課題を発見できる。

収集した資料から、新しいプランにも積極的に取り組むことができる。

集団やチームの中で自分の役割を理解し共働できる。

自分の担当箇所について、指定の課題に従って資料を完成させることができる。

学外連携学修

有り（連携先：経営会計学科卒業生）

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。毎回、テーマに沿ったテーマ課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。最後にテーマに従っての課題の発表を行います。優秀者はプレゼン大会に出場します。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

事前課題	5%	： 読書感想文は5点満点で評価する。感想文募集規定に従った独自のルーブリックで評価する。
授業参加度・ワークシート（1～13回）	39%	： 1～13回目までの授業参加度は2点満点で評価する。ワークシートは1点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
課題（1～13回）	26%	： 1～13回目までの課題を2点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
14回目の授業参加度・ワークシート・小論文	10%	： 14回目の授業参加度は2点満点で評価する。ワークシートは2点満点で評価する。小論文は6点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
15回目の授業参加度と発表	10%	： 15回目の発表及び授業参加度を10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
期末試験	10%	： 期末試験時に実施するレポート作成を10点満点で評価する。独自のルーブリックによる。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

その都度指示する

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
毎回テーマに沿った課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組みます。
最後に課題にそった文章を作成し発表します。優秀者はプレゼン大会に出場する権利を得ます。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜日3限（13:00～14:30）
場所： 研究室（西館5F）
備考・注意事項： アポイントのある方を優先します。

授業計画

		授業外学修課題にかかるとの目安時間
第1回	キャリアデザインとは／ライフサイクルとライフステージについて キャリアデザインについて学びます。 キャリアデザインとは何か、キャリアデザインはなぜ必要なのか、働くことの意味について理解し、社会人として果たさなければならない義務として何があるのかということを考えます。	日本の歩みについて調べておきましょう 4時間
第2回	ライフパターンを考える ライフパターンとは何かを学びます。日本の歩みとライフパターンの変化について考え、それぞれの利点や欠点、理想について議論します。	今後の自分のライフパターンについて考えてみましょう 4時間
第3回	社会の仕組みについての講義とまとめ 働くことと社会の仕組みについて学びます。社会保険や税のしくみ、正規雇用と非正規雇用の違い、平均給与や生涯収支、労働基準法などについて理解します。	税や社会保障制度、労働基準法等について概要を調べましょう 4時間
第4回	自分史から自分を知る 高校生から大学生になり、自分がどのように成長したのかを振り返ります。ワークシートに書き込むことで、現在の自分を見つめるのと同時に、これから社会人になるために必要なことを分析します。	自分自身の生い立ちを把握しておきましょう／自己分析はなぜ必要かを学習しておきましょう 4時間
第5回	自己分析から自分を探る 自己分析シートを作成し、自分自身について探ります。また、クラスメートとペアになって相互にインタビューをします。相手の特徴を引き出し、どのように見えたかをまとめて相手に伝えます。自分自身が思う自分と相手から見える自分との違いを考察します。	自分の長所や短所、特技などを整理しましょう 4時間
第6回	客観的に自分を知る 「社会人基礎力」について学びます。社会人基礎力テストの結果を踏まえて、自分の強みや弱みを客観的に評価します。	PROGテストの結果を分析しておきましょう 4時間
第7回	自己の発見から何のために働くのかを考える これまでの授業を振り返り、自分の興味、能力、価値観、特性を理解し、就職先を考えます。 収入、生きがい、女性の場合結婚後や出産後の仕事継続、退職などについて考えます。	就職して1年、3年、5年、10年後と理想の自分についてイメージしてみましょう 4時間
第8回	自分にとっての働く意味を考える 引き続き「何のために働くのか」ということについて学びます。グループで考えを共有し、議論を経て、ひとつの考えにまとめます。簡単な資料を作成し、発表します。	自分の就職先を考え、どのような働き方をしたいのかを考えておきましょう 4時間
第9回	労働の体験・経験を通して目的やその意味を深める 社会へ出てから求められる能力や資質について学び、理解します。 アルバイトやインターンシップでの経験をディスカッションし、共有します。	次回へ向けて、講演者の勤務先のホームページを閲覧し、質問内容を考えておきましょう 4時間
第10回	社会人の先輩から講義を聞き内容を整理する ビジネスの現場で活躍されている先輩の、これまでの経験で得られた話や技術について講演を聴きます。 社会人と学生との間の違いや、社会人になってからの変化などについて話を聞き、理想の社会人に近づくために何が足りないのかということを考えます。	理想の社会人に近づくために自分には何が足りないかを考え、まとめておきましょう 4時間
第11回	雇用する側の期待する人間像を学ぶ 正社員の採用区分や新卒採用のねらい、新卒人材に対して企業が期待することについて講演を聴きます。採用側のニーズに目を向け、ミスマッチがないようにするためのノウハウや、資格と採用ニーズについても理解します。	これまでの授業を振り返って、自分が働きたい職場のイメージをまとめておきましょう 4時間

第12回	<p>自分にとっての働く場所の調査</p> <p>企業からの求人者の仕組み、求人票から見える企業の情報について学びます。興味や関心のある企業について調査し、就職したいと思う企業の情報をまとめます。</p>	<p>働きたい職場を1か所選び、その職場のホームページを閲覧し、理念や方針、特徴等について理解しておきましょう</p>	4時間
第13回	<p>調査分析の発表およびディスカッション</p> <p>前回の講義で自分が選んだ会社について、第三者に分かるように説明します。聞き手は、発表者の報告に対して質問をします。</p>	<p>「なりたい私」について自分のイメージを描いておきましょう</p>	4時間
第14回	<p>小論文「なりたい私」についておよびポートフォリオをまとめる</p> <p>これまでの授業で作成したドキュメントを参照しながら、「なりたい自分」についての考えをまとめます。その上で、発表原稿を作成します。</p>	<p>発表のための読み原稿を作成するとともに、発表の際に原稿を読まなくても発表できるように練習しておきましょう</p>	4時間
第15回	<p>「なりたい私」についての発表とディスカッション</p> <p>前回の授業でまとめた「なりたい自分」についての考えを発表します。聞き手は、発表者のスピーチを聞いて評価します。優秀者はプレゼン大会に出場します。</p>	<p>「なりたい私」になるために必要なことについて再度まとめて、具体的な策を考えましょう</p>	4時間

授業科目名	コンピュータリテラシー				
担当教員名	吉田澄江				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	配布プリントを使って操作手順を学び（講義）、実践力を養うためにできるだけ多くの練習課題に取り組む（演習）。受講生のレベルに応じて、検定問題などの個別課題も用意する。授業は毎回課題のス				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	コンピュータスクールにてマネージャー職および Microsoft Office講師。企業の広報部にて広告媒体を企画・デザイン・制作。（全15回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

コンピュータ（Windows）の基本操作は理解していることを前提とし、学内におけるコンピュータ・ネットワーク環境の知識と操作法を学んだ上で、情報化社会に対応するスキルとして①情報モラルとセキュリティ②Eメールとインターネットのルールとマナーを習得する。そして、ビジネスで活用できるスキルとして①タッチタイピングのマスター②Office（Word・Excel・PowerPoint）の実用的な使い方を習得する。Word・Excel・PowerPointは、実際にビジネスの現場で使われる題材を使用し、実践的に学習する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

情報リテラシー

目標：

情報社会を生き抜くためのルールやマナー、セキュリティの知識、Windowsの操作からインターネットを利用した情報収集、Officeの活用まで、情報化社会に対応する能力を身に付ける。

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見

パソコンの実習を通して、情報を適切に活用し課題を解決する知識や技能を養い、実践に活かせるスキルを習得する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・ 実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

単元ごとの課題	40%	: タイピング 3ファイル（10点）、Word 5ファイル（10点）、Excel 5ファイル（10点）、PowerPoint 2ファイル（10点）計40点
アプリケーションごとの実技テスト	30%	: Word（ビジネス文書作成）、Excel（関数とグラフを含む課題作成）
授業への取り組み状況	15%	: 授業内外において、積極的に課題に取り組む姿勢があるかどうかを評価する
試験（実技）	15%	: PowerPoint（自由テーマでプレゼンテーションを作成）

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

情報リテラシー 総合編／FOM出版、その他授業内で適宜紹介する

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。毎回の授業開始前にパソコンを起動し、ログインしておくこと。ログインに必要なユーザIDとパスワードを初回授業から必ず持参してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前後
 場所： 授業の教室
 備考・注意事項： 授業前後に質問対応します。
 その他連絡が必要な場合はEメールで。（吉田：yoshida-s@osaka-seikei.ac.jp）

授業計画		授業外学修課題にかかると見込まれる目安の時間
第1回	オリエンテーション／学内PCの操作確認 <ul style="list-style-type: none"> 学内におけるコンピュータ環境の概要説明と使用方法 Windowsの基本操作確認 ドライブ、フォルダ、ファイルの説明、課題の保存・提出先について タイピングスキルチェック（10分間入力） タイピング練習ソフトを使った練習法 	タイピング練習／キーと指の対応を予習 4時間
第2回	コンピュータの活用1 ～タッチタイピングをマスターする～ <ul style="list-style-type: none"> タイピングの基本／キーと指の対応 ローマ字入力スピードアップ術 タイピングソフトを使用した練習法 入力目標を設定する 効率のよい入力を行うための変換技 ショートカットキーを使いこなす 便利な機能の活用（変換モード／辞書ツール／IMEパッド） 	タイピング練習（10分間に入力できる文字数の目標を+200文字に設定） 4時間
第3回	コンピュータの活用2 ～情報化社会に対応するスキルとは～ <ul style="list-style-type: none"> 情報モラルとセキュリティ インターネットを使いこなす Eメールのルールとマナー 	ビジネスメールの作成と送信／Word基本操作の予習 4時間
第4回	Word1 ～ビジネス文書を作成する（基本編）～ <ul style="list-style-type: none"> 入力と編集の基本 文字と段落の書式設定 ビジネス文書の基本フォーマット 	Word課題①（ビジネス文書基本編）の復習 4時間
第5回	Word2 ～表作成とビジネス文書（応用編）～ <ul style="list-style-type: none"> 表の挿入と編集（罫線／網掛け／デザイン編集） 表を含むビジネス文書作成 	Word課題②（ビジネス文書応用編）の復習 4時間
第6回	Word3 ～Wordを使ってチラシやポスターを作成する～ <ul style="list-style-type: none"> 表現力をアップする機能 オブジェクトの利用（図形作成／クリップアート／ワードアート） オブジェクトを利用した文書作成 	Word課題③（チラシ作成）の復習 4時間
第7回	Word4 ～実践テクニックと地図作成～ <ul style="list-style-type: none"> Word実践テクニック（テンプレートの活用／線種とページ罫線と網掛けの設定／図表と組織図） 実践テクニックを活用したビジネス文書作成 地図作成とPDF変換 	Word課題④（地図作成～PDF保存）の復習 4時間
第8回	Word5 ～実技テストと解説～ <ul style="list-style-type: none"> Word実技テスト 実技テスト解説 	Word実技テストの復習／ここまで学んだWord課題の復習と提出確認／Excel基本操作の予習 4時間
第9回	Excel1 ～Excelの基本操作と表作成～ <ul style="list-style-type: none"> データ入力の基礎と手順 シートとセルの操作、書式設定 表の作成と編集 	Excel課題①②（売上表・管理表作成）の復習 4時間
第10回	Excel2 ～絶対参照／相対参照と関数を理解する～ <ul style="list-style-type: none"> 演算処理 絶対参照と相対参照の違い 関数の使い方と活用 	Excel課題③（絶対参照と相対参照）の復習 4時間
第11回	Excel3 ～グラフの作成とデザイン編集～ <ul style="list-style-type: none"> グラフの用途と種類、基本構成について 各種グラフを作成する 色々なデザインにアレンジする 	Excel課題④（様々なグラフ作成）の復習 4時間
第12回	Excel4 ～実践テクニックと複雑な関数～ <ul style="list-style-type: none"> Excel実践テクニック（関数の応用／関数のネスト／ワークシート／リスト／条件付き書式など） 	Excel課題⑤（関数の活用課題）の復習 4時間
第13回	Excel5 ～実技テストと解説～ <ul style="list-style-type: none"> Excel実技テスト 実技テスト解説 	Excel実技テストの復習／ここまで学んだExcel課題の復習と提出確認 4時間
第14回	PowerPoint1 ～基本操作とプレゼンテーション作成～ <ul style="list-style-type: none"> PowerPointの基本操作 基本的なプレゼンテーションの作成 オブジェクト（表、グラフ、図形、グラフィック）を活用したプレゼンテーションの作成 	PowerPoint課題①（プレゼンテーション作成基本編）の復習 4時間
第15回	PowerPoint2 ～スライド作成の応用とプレゼンテーション実施のコツ～ <ul style="list-style-type: none"> 様々な特殊効果（アニメーション・画面切り替え効果）をマスターする プレゼンテーション実施のコツ スライドのカスタマイズ 	PowerPoint課題②（アニメーションや特殊効果を含むプレゼンテーション作成応用編）の復習 4時間